

令和元年度・2年度 「教育の情報化」実践報告集



西米良村立村所小学校・西米良中学校

はじめに

今回の新学習指導要領では、情報活用能力を言語能力と同様、「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられており、「学校の ICT 環境整備」及び「ICT を活用した学習の充実」が明記されています。また、「GIGA スクール構想」により、来年度から、情報端末を児童生徒が 1 台ずつ使えるようになりました。これからの学びにとって ICT 機器は、「マストアイテム (= 必需のもの)」であり、ICT 機器とともにある環境の中で児童生徒を育てていくことが必要です。

本村は、人口約 1,000 人の極小規模自治体であり、村内には小学校 1 校と中学校 1 校のへき地校であります。「西米良だからできる教育、西米良だからこそやらねばならない教育」の一つとして、「ICT を効果的に活用した学習指導の充実」を掲げ、重点施策としてしています。先進地の取組や専門家の助言等を参考にしながら、ICT 環境整備や ICT を活用した授業の充実を目指し、児童生徒の情報活用能力の育成に努めています。

平成 24 年度から ICT 環境の整備を進め、小中学校全教室に書画カメラ、平成 27 年度には電子黒板を設置、平成 28 年度には全児童生徒 1 人 1 台のタブレット端末を導入し、デジタル教科書や授業・学習支援ソフト、校内ネットワークの整備を進めてきました。令和 3 年度は、全児童生徒に家庭用タブレット端末も導入し、1 人 2 台体制で整備を進めています。

研究面では、小中学校合同研究会を設立し、9 か年を見通した小中連携の取組を推進し、平成 29 年度から毎年、「教育の情報化」研究公開を実施してきました。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、限定ライブ配信による研究公開でありましたが、多くの県内外の教育関係者の方々にご視聴いただきました。

これまでの研究実践の積み重ねにより、先生方のスキルも向上し、ICT を活用した効果的な授業を展開するようになってきております。また、児童生徒においても、発達段階に応じタブレット端末等を適切に活用し、情報収集したことから判断・処理したり、表現・発信したりできるようになるなど、情報活用の実践力が育ってきています。

そこで、この度、学校現場において ICT を活用した効果的な授業を進めるための参考になるよう村所小学校及び西米良中学校の先生方の協力を得て、令和元年度と 2 年度の実際の授業実践をもとに、学習支援ソフトの機能別に実践報告集として取りまとめました。本実践報告集が、先生方の学習指導案の作成や授業実践等の一助になることを期待しております。

令和 3 年 3 月

西米良村教育委員会
教育長 古川 信夫

目次

1	授業の可能性が無限に広がる「ICTのよさ」 ・・・・・・・・・・	P 1～2
2	令和元年度実践報告集	
(1)	授業づくりの視点に基づいた「ともに学び深め合う」実践事例	・ P 4～5
(2)	投影、画面一覧、画面比較、資料の提示	・・・・・・・・ P 6～15
(3)	カメラ、動画再生	・・・・・・・・ P 16～19
(4)	発表ノート（デジタルノート）、ノートの配布	・・・・・・・・ P 20～35
(5)	画面にマーキング	・・・・・・・・ P 36～37
(6)	画像の合成	・・・・・・・・ P 38～43
(7)	プログラミング	・・・・・・・・ P 44～45
(8)	遠隔授業	・・・・・・・・ P 46～47
(9)	ワープロソフト、プレゼンテーションソフト	・・・・・・・・ P 48～51
3	令和2年度実践報告集	
(1)	授業づくりの視点にもとづいた授業実践	・・・・・・・・ P 53～54
(2)	投影	・・・・・・・・ P 55～60
(3)	カメラ、動画再生、追っかけ再生	・・・・・・・・ P 61～68
(4)	画面共有・画面比較	・・・・・・・・ P 69～72
(5)	発表ノート（デジタルノート）、ノートの配布	・・・・・・・・ P 73～82
(6)	グループワーク	・・・・・・・・ P 83～90
(7)	画像の合成	・・・・・・・・ P 91～92
(8)	みんなの作品（相互評価）	・・・・・・・・ P 93～96
(9)	プログラミング	・・・・・・・・ P 97～98
(10)	遠隔授業	・・・・・・・・ P 99～102
(11)	指導者用デジタル教科書	・・・・・・・・ P 103～104
4	研究同人 ・・・・・・・・・・	P 105
5	INDEX ・・・・・・・・・・	P 106

1 授業の可能性が無限に広がる「ICTのよさ」

授業でICTを効果的に活用している場面を中心に、
キーワードで例示しています。

授業の効率化



場面と状況に応じた
学習形態を実現！

興味関心の高揚



アプリケーションで
視聴して、操作して！

再現、加工、再利用



必要な部分だけ
自在にトリミング！

遠隔授業やプログラミング教育も



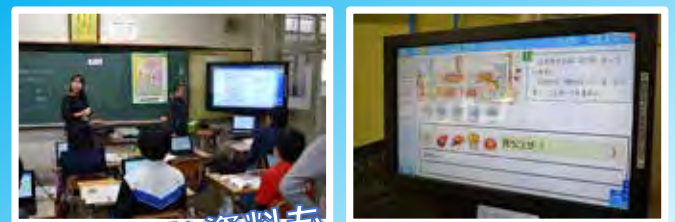
ICTで「**学び**」が変わる！

時間短縮



デジタルコンテンツで
教材準備の時間も短縮！

視覚的理解の促進



小さな資料も
拡大すればはつきりと！

記録、保存




いつでもどこでも
見たいときにチェック！

共有



デジタルツールで
協働学習も活性化！

「授業で使える！授業で使おう！」タブレット機能

機 能	特 長	よ さ
投影	教師用タブレットの画面を電子黒板に提示する。	他の考え方を共有、全体で課題を把握できる。
画面にマーキング	画面に自由に書き込む。	自分の考えを書き込み残すことができる。
カメラ	素材だけでなく、児童のノートを撮影し加工もできる。	デジタルカメラより大きな画面、簡単な操作で写真を確認できる。
追っかけ再生	秒数を指定し、遅延再生する。	動画や音声を指定した時間の分だけ遅らせて再生し、確認できる。
動画比較	2つの動画を同時に再生する。	動画の比較をし課題を確認できる。
画面一覧	学習者の画面の様子を確認する。	多様な考え方、それぞれのよさを認め合う。
画面比較	選択者の画面を比較する。	他の状況をつかむ、全体での練り合いを手助けできる。
発表ノート（デジタルノート）	書き込み、貼り付けなどして考えを表現する。	自分の考え深めたり、まとめたりすることができる。
マッピング	テーマに関するキーワードをつなげ、ツリーにまとめる。	情報を整理し、内容理解を可視化したり考えを再構成したりできる。
プログラミング	フローチャートを作成し、シミュレーションする。	改善点、修正点を発見し、具体的な改善策につなげることができる。
ノートの配付、提出	教師が作成したノートを学習者に配付し、学習後に回収し、まとめて印刷したり、評価に活用したりする。	共通の作業ができ、それぞれの考えを集約できる。
グループワークでノートを共有	同グループの学習者が協力して作品に取り組む。	他者と交流しながら、同グループの共同作業ができる。
グループで画面の合体	同グループ内で画面を合体させ、意見を交流する。	大きなワークスペースで意見を交流できる。
画像合成	教員が配付したページに書き込み、提出したものを重ねて画像を合成する。	意見や結果を集約し、分布や傾向が分かる。 
みんなの作品（相互評価）	互いに作品を見せ合い、付箋紙で評価し合う。	自分のタブレットで友だちの作品が見れる。 自分で気付かなかった視点を得ることができる。
投票（アンケート）	学習者の意見や回答を集約しグラフ化する。	全体の傾向、理解度把握、個人の考えを投影、すぐにグラフ化できる。
シンプルプレゼン	学習したことをまとめ、発表する。	文字数や写真が制限され伝えたいことを厳選したプレゼンが作れる。
画面撮り	画面の一部を切り取り、静止画として保存する。	個人フォルダとクリップボードに保存されるためWord等でも使える。
Webページ一斉表示	教師用タブレットで表示したWebページを一斉に送る。	個人用タブレットでWebを閲覧し、各自作業ができる。

2 令和元年度 実践報告集



研究主題

**確かな学力を身につけた
児童生徒の育成**

～ICTのよさを生かし、

ともに学び深め合う授業づくりを通して



(1) 授業づくりの視点に基づいた「ともに学び深め合う」実践事例

視点1

学習課題（問い）の工夫

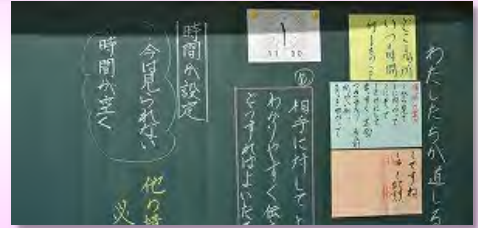
◇見通しをもって粘り強く学習に向かうことができるようにする。

◇学習の後に、それまでの学びを振り返って、次の学習につなげることができるようにする。

- (例) ・興味や関心を高める ・見通しをもつ
 ・自分と結び付ける ・粘り強く取り組む
 ・振り返って次へつなげる

小学4年 国語

単元名「わたしたちが道しるべ」 授業者 小西 直也 教諭



単元を貫く言語活動を設定し、本単元で身に付ける力を明確にした上で毎時間の学習課題を設定することで、児童が必要を感じ主体的に学習に取り組めるようにした。

視点2

対話的な学習活動の工夫

◇自分と他者の意見や考え方を比較したり、自分だけでは気付くことが難しい気づきを得たりしながら、考えを広げたり深めたりできるようにする。

- (例) ・互いの考えを比較する ・多様な情報を収集する
 ・思考を表現に置き換える ・多様な手段で説明する
 ・先哲の考え方を手掛かりとする
 ・共に考えを創り上げる ・協働して課題解決する
 ・教職員との対話を手掛かりとする



グループ活動において、グループで対話を行う目的(本時は比較・多様な考えの理解)を明確にし、目的に応じたグループ形態を工夫することで、対話を通して自己の言葉について、客観的に捉えることができた。

視点3

教科の見方・考え方を育む工夫

◇各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせるようにする。

◇教師が教える場面と児童生徒に思考・判断・表現させる場面を、効果的に設計し関連させながら指導していく。

- (例) ・思考して問い続ける ・知識・技能を習得する
 ・知識・技能を活用する
 ・自分の思いや考えと結び付ける
 ・知識・技能を概念化する ・自分の考えを形成する
 ・新たなものを創り上げる

身近な生活場面を単元を貫く言語活動として設定したり、他者の意見と比較・検討するグループ活動を工夫したりすることで、自分が使用してきた言葉を意識して振り返り、よりよくしようとする意欲を育むことができた。

「言葉による見方・考え方」

児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。

学んだことを自分のものにできた姿

相手の質問の目的を考え、分かりやすく話すことができる。

授業実践事例

「ともに学び深め合う授業」＝「主体的・対話的で深い学び」を通して、
どのような学びの姿が見られたのか、その授業の実際を一部紹介します。

小学6年 道徳

主題名「明るく生きる」 授業者 堤 誉子 教諭



事前アンケートを提示し、自分とのかかわりから主体的に学習内容について考えられるようにし、ねらいとする道徳的価値への問題意識を高めた。



役割演技を工夫することで、児童の多様な考え方を引き出し、自分と他者の意見を比較したり、新しい気づきを得たりしながら、考えを広げ、深めていけるようにした。

切実感をもたせた発問の工夫やこれからの生き方への希望や課題について考えることができるように授業構成を工夫したことで、道徳的課題を自分のこととしてとらえ、向き合いながら考えることができた。

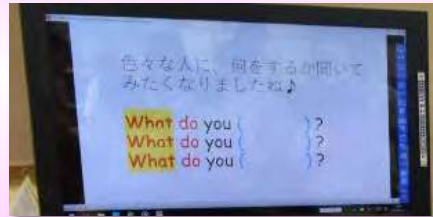
《道徳科における見方・考え方》
様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己とのかかわりで多面的・多角的に捉え、自己の生き方について考えること。

学んだことを
自分のものに
できた姿

どのような状況にあっても、常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする。

中学1年 英語

単元名「program4 リサイクル活動」 授業者 安井 尚子 教諭



言語活動の目標を設定し、本単元でできるようになることを明確にするとともに、既習事項だけでは情報を集められないことに気づかせ、次のステップにつなげるようにした。



ペア活動を取り入れ、学び合い、教え合う雰囲気を作り、コミュニケーションの楽しさを感じさせながら、自然な応答の仕方を身につけさせるようにした。

言語活動の目標を設定し、本単元でできるようになることを明確にすることで、受け身や一方通行でないコミュニケーション活動に向かう意欲や態度を育んだ。

《中学外国語による見方・考え方》
コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成・整理・再構築すること。

学んだことを
自分のものに
できた姿

疑問文とその答え方を理解し、さらにそれらを使って、尋ねたり答えたりすることができる。

(2) 投影

【投影】 意見を共有しながら学習を進める	校 種	学 年	教 科	指 導 者
	小	3	国語	堀内 順一

単 元 名	漢字の組み立てと意味を考えよう
本時のねらい	既習の漢字について、部首が表す意味を考えることができる。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT 活用の視点
問 い を つ か む ⑤	1 前時の学習を振り返る。 2 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 同じ部首を持つ漢字に共通する意味を考えよう。 </div>	◆ 「ごんべん」のつく漢字を提示し、漢字の意味を考えさせることで、漢字の部首と意味には繋がりにあることに気付かせる。
問 い を 解 決 す る ⑩	3 同じ部首をもつ漢字に共通する意味について考える。(個人) 4 考えを発表し、互いの意見を共有する。(全体)	◆ 同じ部首をもつ漢字をグループ分けさせることで、漢字の構成について考えさせる。 □ 個人のタブレットを用いて、自由に動かしながら、分類させる。 ◆ 分類した漢字を全体で共有した後、共通する意味について考えさせる。 □ タブレットを用いて、加筆修正をしながら部首が表す意味について考えさせる。 □ タブレットに記入した、個人の考えを電子黒板に投影し、意見を言わせる。 ◆ 部首の意味を考える際、なぜその意味になるのか、根拠をもって伝えさせる。
ま と め る ・ 振 り 返 る ⑩	5 本時の学習を振り返りまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 同じ部首の漢字は、同じ意味を表している。 </div>	◆ 漢字ドリルで様々な漢字を示し、多くの部首があることに気づかせることで、漢字に対する興味・関心を深めさせるようにする。

ICT の具体的な活用

《児童》

漢字を同じ部首で分類する際に、タブレットを用いることで、児童は容易に考えの加筆修正することができた。



《授業者》

電子黒板に各自のタブレットの画面を表示することで、お互いの考えを共有しながら学習を進めることができた。意見の集約にも役立った。



○ 評価の視点と方法

《視点》

共通する部首をもつ漢字があることを知り、部首の名前や、部首と漢字の意味との関係について理解するとともに、漢字に対する興味・関心を高めることができたか。

《方法》

観察・ノートの記事

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

「ごんべん」のつく漢字を提示し、漢字の意味を考えさせた。それにより、漢字の部首と意味には繋がりがあることに気付かせることができ、他の漢字にも目を向ける本時の学習課題につなげるようにした。

「話」「読」「語」

「言」ごんべん…言葉

対話的な学習活動の工夫

児童同士での対話はまだ難しいところがある。教師が問いかけ、それに答えるという形で進めている。友達の意見ややり取りを聞く中で、理解を深めることができていた。



教科の見方・考え方を育む工夫

部首をもとにして漢字の特徴をとらえることや同じ部首をもつ漢字が意味の上でも関連をもつ場合が多いことを学習することで、漢字の構成への興味・関心を高めるとともに、効率的な漢字学習に繋げることができるようにした。

《国語における見方・考え方》

児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。

(2) 投影

【投影】

実態をとらえ、学習課題をつかむ

校 種	学 年	教 科	指 導 者
小	5	学級活動	関谷 菜摘

単 元 名	情報とわたしたち
本時のねらい	テレビやインターネット等には良い影響と悪い影響があることや、それらから得られる情報が必ずしも正しいものばかりでないことを理解し、間違った情報から自分や周りの人を守ろうとする態度を育てる。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT 活用の視点
問 い を つ か む (10)	1 テレビやインターネット、雑誌等でどのようなものを見たり読んだりしているか、事前アンケートの結果を知る。 2 テレビ等から日常的に多様な「情報」を得ていることを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 私たちをとりまく情報は全部が正しくて良いものなのだろうか。 </div>	◆ 普段の生活を振り返ることで本時の学習を身近な課題として捉えさせる。 □ 事前にとったアンケートの結果を提示し、クラスの実態を共有する。
考 え を も つ (5)	3 テレビ等を見たり読んだりしている時に、目をそむけたくなるような場面や怖い・嫌な気持ちになったことがあるかを発表する。	◆ 実体験を共有することで、課題に対する意見を持つことができるようにする。
問 い を 解 決 す る (20)	4 テレビやインターネットの良いところ、悪いところを考える。(個→グループ) 5 テレビ等から得られる「情報」は必ずしも正しくて良いものばかりでなく、時には自分や周りの人間を傷つけることがあることを知る。	◆ 個人で考え、自分の意見を持たせる。 ◆ グループでまとめることで多様な意見に触れる ◆ 事前アンケートの結果から、児童の実態に沿った事例を示し、グループワークでの学びを関連付ける。 □ 事例等を提示し、より理解しやすくする。
ま と め る ・ 振 り 返 る (10)	6 本時の学習を振り返り、まとめる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ・情報には間違っていたり、自分や人を傷つけてしまったりするものがある。 </div> 7 危ない情報から自分を守るために、どのようなことができるかを考える。	◆ 児童が今回の学びを受け、これからの生活での態度意欲を自分の言葉で書く。

ICT の具体的な活用

《児童》

事前アンケートの結果をグラフにし、電子黒板に写し出すことで、クラスの実態を分かりやすく共有することができた。



《授業者》

事前アンケートの結果を PC でまとめることで、児童の関心を引きやすいものを容易に作成し、共有することができた。

また、電子黒板を使用することで板書が整理しやすい。



○ 評価の視点と方法

《視点》

情報が必ずしも正しいものばかりでないことを理解し、これからの生活の中でよりよい態度をとろうとする意欲を持てたか。

《方法》

付箋・模造紙への記述

振り返りのワークシートの記述

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

事前アンケートをとり、普段の友達同士の会話にテレビやネット動画の話題が多いことや、クラスのほぼ全員が日常でネット動画を視聴し、日々多くの情報を得ているというクラスの実態を学習課題につなげた。

対話的な学習活動の工夫

付箋に書いた個人の意見を積極的に発表しあう姿や、意見をグループ分類する際にも1つ1つの意見をしっかりと見て、分類しきれない意見に注目するような姿も見られた。



教科の見方・考え方を育む工夫

心身の成長とともに、間違いや危険な情報に接する機会が増えることにふれながら、多量で多様な情報の中からより正しいものを選択し、自ら判断しようとする意欲を育めるようにした。

《集団や社会の形成者としての見方・考え方》

各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けること。

(2) 画面一覧

【画面一覧】 児童の考えを把握し、意図的指名に生かす	校 種	学 年	教 科	指 導 者
	小	1	算数	堀内 真実

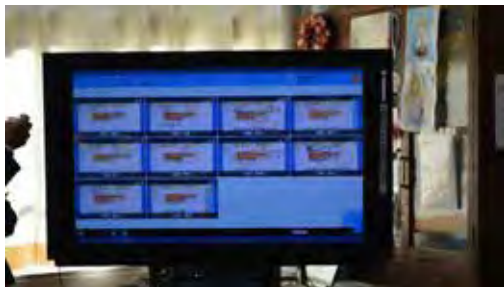
単 元 名	ひきざん (2)
本時のねらい	(十何) - (1位数) で繰り下がりのあるひき算について、減加法のよさに気付くことができる。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問 い を つ か む 5 分	<p>1 本時の問題を知る。 かきが13こなっています。 9ことと、なんこのこりますか。</p> <p>2 学習課題をつかむ。 どこから どのように ひけばよいのだろう。</p>	<p>◆ 減法の場面であることを確認するとともに、被減数の一の位からは引くことができないことに気付かせる。 □ 電子黒板を活用し、既習事項の確認を行う。</p> <p>◆ どこから、どのように引くのがよいか、視点に沿った考えを導き出すことに意欲をもたせる。</p>
考 え を も つ 1 5 分	<p>3 13-9の計算の仕方を考える。</p> <p>○ 個人思考</p> <p>○ 全体での意見の共有</p> <p>① 数え引き ② 減減法 ③ 減加法</p>	<p>□ タブレットのブロック図を活用し、どんな順番で引いたのか、思考の過程を可視化させる。</p> <p>◆ 視点に沿った思考が明確になるよう、支援する。 □ タブレットに記入した児童の考えを、教師用タブレットで把握し、意図的指名に生かす。</p> <p>□ 電子黒板を活用した発表を行い、お互いの意見を共有させる。</p> <p>◆ 発表を聞き、自分の考えとの共通点・相違点に気付かせる。</p>
問 い を 解 決 す る 1 0 分	<p>4 全体で話し合う。</p> <p>・はやい ・かんたん ・せいかく</p>	<p>◆ 視点を基に振り返ることで、よりよい方法に集約させるようにする。</p> <p>◆ 10の補数を使うという点で、これまでの学習内容を生かした計算ができることをおさえる。</p> <p>◆ 児童の発言を基に、ねらいに迫る言葉を板書することで、まとめの表現に生かせるようにする。</p> <p>◆ 全体で、ブロックを操作し、10からまとめて引くことのよさを実感させる。</p>
ま と め る ・ 振 り 返 る 1 5 分	<p>5 本時の学習をまとめる。 10から まとめて ひくとよい。</p> <p>6 練習問題に取り組み、振り返る。</p> <p>○ 練習問題 15-9 11-8 ○ 自己評価</p>	<p>◆ 本時のねらいである、10からまとめて引く計算方法のよさに着目させ、本時の学びを自分のものにできるようにする。</p> <p>□ ブロック図を使い、計算の仕方を記入させることで、児童一人一人の理解度を評価し、習熟を図る。</p> <p>◆ 振り返りの視点を与えた自己評価をさせ、学びを自分のものにした姿を実感させるとともに、次時の学習の意欲付けを図る。</p>

ICT の具体的な活用

《児童》

自分の考えをタブレットに記入し、電子黒板に提示することで、他の児童と、考えを共有したり、共通点や相違点を捉えたりすることができた。



《授業者》

タブレットを通して、児童一人一人の考えを把握することで、本時のねらいに迫るための視点や、その根拠を重点においた学習過程を展開することができるようにする。

電子黒板で児童の考えを可視化することで、様々な考え方があることに気付かせることができた。



○ 評価の視点と方法

《視点》

減加法のよさに気づき、計算の仕方について、ブロック図を使って表すことができる。

《方法》

観察 練習問題

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

どこからどのように引くことが、「はやい かんたん せいかく」なのかを考えさせていくことで、視点をもった思考につなげることができた。



対話的な学習活動の工夫

全体の確認の中で視点を意識しながら話し合いを行うことで、本時のねらいに迫る対話ができる。



教科の見方・考え方を育む工夫

既習事項との違いを確認した上で、ブロック図を活用し、計算方法を考えさせたり、他者の考えを共有させたりすることで、よりよい考え方を基にした計算方法に気付いた。

《小学校算数科における見方・考え方》

事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること。

学んだことを自分のものにしてきた姿
減加法のよさに気づき、計算の仕方について、ブロック図を使って表すことができる

(2) 画面一覧・画面比較

【画面一覧・画面比較】 他の状況をつかみ意見を共有する	校 種	学 年	教 科	指 導 者
	小	4	国語	小西 直也

単 元 名	わたしたちが道しるべ
本時のねらい	○ 相手の質問の目的を考え、分かりやすく話すことができる。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT 活用の視点
問 い を つ か む 8 分	1 前時の学習を振り返る。 2 学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 相手に対してよりわかりやすく伝えるにはどうすればよいだろうか。 </div>	◆ 前時に身に付けた力を振り返ることで、本時学習で身に付ける力をキーワード化できるようにする。 ◆ 前時の学習課題に更なる条件を付加した課題を提示することで、本時の課題を児童が主体的に認識できるようにする。 □ 電子黒板に学習課題につながる画像を提示することで、前時学習との違いを明確にする。
考 え を も つ 12 分	3 前時学習との違いを比較する。 ・時間が設定されている。 4 前時学習との違いから必要な情報を検討する。	◆ 課題解決の視点を明確にすることで、見通しをもって個人思考できるようにする。
問 い を 解 決 す る 13 分	5 相手の質問に応じた応えを考える。 ・個人→グループ A 6 グループの意見を比較し、問いを解決する。 ・グループ B→グループ A	◆ 本時の学習課題を意識させることで、児童が問題に対して論理的に思考できるようにする。 ◆ グループを2種類設定することで、多様な意見に触れたり、自分の考えを見つめ直したりできるようにする。 □ タブレットを用いることで児童の意見を電子黒板で比較したり、児童が容易に意見を共有したりできるようにする。
ま と め る ・ 振 り 返 る 12 分	7 本時学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 相手の質問に応じて、知っておくとよい情報を補足するとより伝わる。 </div> 8 本時の学習を振り返る。 9 練習問題に取り組む。	◆ 学習課題を再確認し、本時の学習で身に付けたことを意識しながらまとめられるようにする。 ◆ 振り返りの視点を設定することで、身に付けた力を意識させ、言葉による見方・考え方の変化に気付くことができるようにする。 ◆ 練習問題を設定することで、本時身に付けた力を汎用的な力として生かせるようにする。

ICT の具体的な活用

《児童》

各自、各グループの意見をタブレットに記入させることで、容易に修正が可能になるとともに、他の意見と比較する際も容易に持ち運べたり、電子黒板で確認できたりした。



《授業者》

画像や児童の意見を容易に電子黒板で比較でき、本時のねらいを焦点化できた。



○ 評価の視点と方法

《視点》

前時学習との違いを明確に理解し、より分かりやすい説明をすることができたか。

《方法》

タブレットへの記述

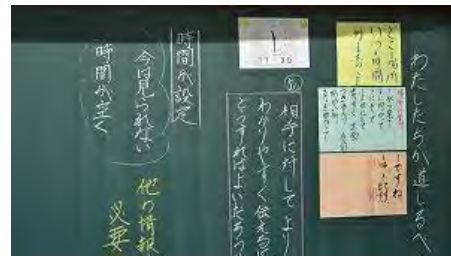
まとめ・振り返りのノート記述

練習問題の解答

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

単元を貫く言語活動を設定し、本単元で身に付ける力を明確にした上で毎時間の学習課題を設定することで、児童が必要感を感じ主体的に学習に取り組めた。



対話的な学習活動の工夫

グループ活動においてグループを2種類設定したり、グループ活動における目的(本時は比較・多様な考えの理解)を明確にしたりすることで、言葉の働きを客観的に捉えることができた。



教科の見方・考え方を育む工夫

身近な生活場面を単元を貫く言語活動として設定したり、他者の意見と比較・検討するグループ活動を工夫したりすることで、自分が使用してきた言葉を意識して振り返り、よりよくしようとする意欲を育めるようにした。

《言葉による見方・考え方》

児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。

(2) 資料の提示

【教員機からの資料等の提示】

動画やピンポイントに絞った資料の提示

校種	学年	教科	指導者
中	3	社会	仁田脇 一字

単元名	第二次世界大戦と日本
本時のねらい	○ 太平洋戦争はどのようにして起こったのか気づくことができる。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問いをつかむ	1 前時の要点を確認する。 2 学習課題をつかむ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 真珠湾攻撃を聞いたチャーチルはなんと言ったのだろうか？ </div>	<input type="checkbox"/> 真珠湾攻撃の映像資料を提示し、太平洋戦争が始まった契機を確認する。 ◆ 当時の日本の新聞の様子や戦果に国民が歓喜している状況を資料から読み取り学習課題につなげる。
考えをもつ	3 学習の見通しをもつ。 ・ 香港やシンガポールの陥落など日本の緒戦の成果を聞いたチャーチルの心情を考える。	◆ チャーチルの心情はどうであったか、予想を立てさせる。 <input type="checkbox"/> タブレットに各個人で考えたチャーチルの心情を提示させ、他生徒の考えを知る。
問いを解決する	4 資料から読み取る。 ・ 実際にチャーチルが言った言葉や資料からなぜそのような言葉を言ったのか考察する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ヒトラーの運命は決まったのだ。ムッソリーニの運命も決まったのだ。これでことは簡単になる。戦争は結局われわれが勝つと確信し、その夜は神に感謝しながら熟睡した。日本人についていうなら、彼らはこなごなに打ち碎かれるだろう </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 国力が突出しているアメリカの参戦によりヨーロッパでの戦争を含め有利に戦うことができるから。 </div>	<input type="checkbox"/> 日本とアメリカの国力差の資料を提示する。 ◆ 資料から、多様な情報を読み取らせる。 ◆ 読み取った情報からチャーチルの言葉の理由を考えさせる。
まとめる・振り返る	5 新たな問いに気づく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> どうして国力差のあったアメリカと戦争しようとしたのだろうか </div> 6 本時の学習を振り返りと次時の学習の見通しを持つ。	<input type="checkbox"/> 原爆投下の映像より、戦争の結末について既習内容を確認する。 ◆ 授業を通してどのような気づきがあったかワークシートに書かせる。 ◆ 新たな資料から発展的な学習課題に気づかせるようにする。

ICT の具体的な活用

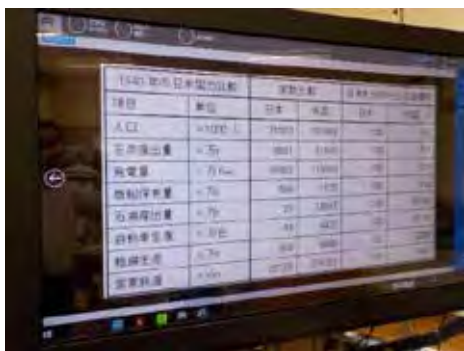
《生徒》

チャーチルの写真や真珠湾攻撃の映像を提示することで、歴史的な人物や出来事を身近なものとしてとらえることができ、意欲を高めることができた。



《授業者》

ICT を活用して生徒にとってわかりやく最適な統計資料を検索し、提示することができた。



主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

太平洋戦争初期の日本の華々しい戦果に対してのチャーチルの発言に生じる「意外性」が生徒の主体的で深い学びにつながった。

対話的な学習活動の工夫

「問い」に対する個々の仮説を発表しあいながら、新たな資料を提示した結果、その仮説がどのように変化したのかツールミンロジックの手法を用い更なる対話的な活動を行うことができた。



教科の見方・考え方を育む工夫

ICT を活用したことで、歴史的な事象を紙面のみの言葉としてではなくイメージ化することができた。また「問い」をより主体的に考えることができるようになる導入として有効であった。その「問い」に今までの経験則からのズレを生じさせるようなものを設定することで、多面的・多角的に考察しようとする興味・関心を高めることができた。

《中学社会における見方・考え方》

社会的な事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

(3) カメラ

【カメラ】 実験結果の撮影とレポート作成	校 種	学 年	教科等	指 導 者
	中	1	理科	米良 公利

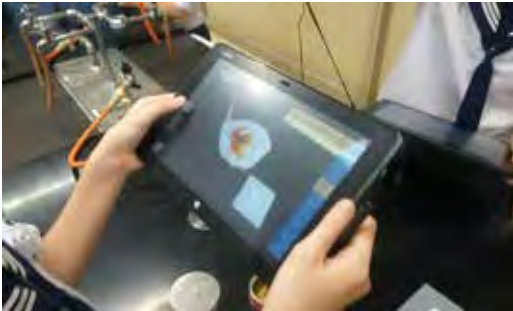
単 元 名	いろいろな物質とその性質
本時のねらい	見た目が似ている物質もその性質を調べることで区別できることに気づかせる。

「西米良ならではの」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT 活用の視点
問 い を つ か む	1 前時の要点を確認する。 2 学習課題をつかむ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">謎の物質 X の正体は何だろうか。</div>	□ ガスバーナーの使い方など、実験器具の操作の手順をデジタル教科書の映像で確認する。 ◆ 砂糖、片栗粉、食塩といった白い粉末状の区別のしかたを取り上げ、身近な物質を区別することに見通しをもって調べられるように、意欲を喚起し学習課題につなげる。
考 え を も つ	3 謎の物質 X を調べる方法を考える。	◆ どのような結果になるか、自分の予想をしっかりと立てさせる。 □ 見通しをもって実験計画ができるように、デジタル教科書の資料を提示し確認する。
問 い を 解 決 す る	4 各個人で計画した方法で謎の物資 X を調べる実験を行う。	◆ 計画した方法で、安全に留意して実験を行わせる。 □ 実験の結果をタブレットで撮影させ、撮影した写真を拡大・加工するなどして、レポートにまとめるように指示する。
ま と め る ・ 振 り 返 る	5 結果をまとめ、考察する。 6 それぞれの結果を発表しあい、自己の考察を修正する。 7 本時のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">謎の物質 X は「(このような性質)」があったので、砂糖である。</div> 8 本時の学習を振り返る。	◆ 予想と比べながら、目的に沿って、結果から分かったことを根拠をもって自分の言葉で書かせる。 □ 生徒のまとめを発表ノートなどにまとめさせ、スクリーンに投影し、意見の共有を図る。 ◆ それぞれの結果と異なっている、そこからの考察が重要であることを伝える ◆ 自分の言葉でまとめるように指示する。 ◆ 授業を通して自分の考えにどのような変化があったか、全体で共有する場を設定する。

ICT の具体的な活用

《生徒》

実験の様子をタブレットで記録したことで、映像を繰り返し再生したり写真を拡大したりするなどして実験の結果を細かに確認することができた。



《授業者》

ツインモニタで授業を進行したことで、実験を行う時間や結果をまとめ考察をする時間を十分に確保することができた。



《中学校理科における見方・考え方》

自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて多面的に考えること

主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

身近に使われている物質を区別するという視点で、学習に見通しをもつとともに、興味をもって実験をしてみようという意欲を喚起することができた。

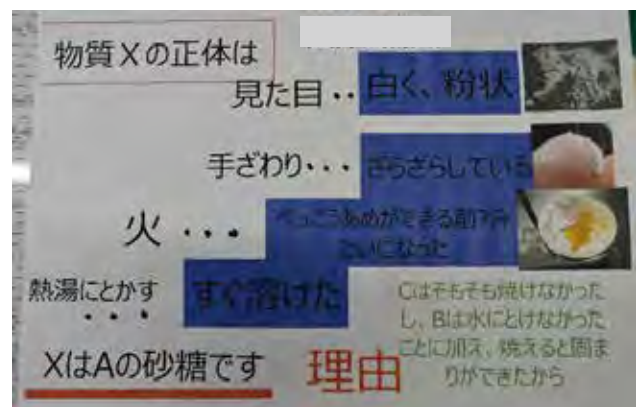
対話的な学習活動の工夫

物質 X は見た目では見分けられないようにしてあったため、生徒が進んで実験計画の議論に参加し、探究的に学習をすすめることができた。



教科の見方・考え方を育む工夫

ICT を活用したことで、調べたことや自分の気づきを視覚情報として確認することができた。振り返る段階では、ICT で可視化された他の生徒の考察を自分の考えに取り入れて再構築することが容易にできたため、より深い学びを実現することができた。



(3) 動画再生

【動画再生】 技の分析・自分を客観的に見る工夫	校 種	学 年	教科等	指 導 者
	中	1～3	保健体育	青木 利都

単 元 名	器械運動（マット運動）
本時のねらい	マット運動の技を一通り行うことによって、できる技とできない技を明確にし、自己の課題を考えさせる。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT 活用の視点
問 い を つ か む	1 前時の要点を確認する。 2 学習課題をつかむ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 自分ができる技は何があるだろうか。 </div>	<input type="checkbox"/> マット運動の技の名称や行い方、ワークシートの使い方などを映像やスライドを用いて確認する。 ◆ 技の見本の映像を一通り見せ、自分の中で技のイメージをもたせることで、意欲を喚起し学習課題につなげる。
考 え を も つ	3 自己の課題を発見し、課題解決に向けた取り組みを考える。	◆ できない技はなぜできないのか、どのようなことを意識すれば見本と同じ動きができるのかをしっかりと自分で考えさせる。 <input type="checkbox"/> 見本の動きをタブレットで何回も確認させることで技のポイントに気づかせる。
問 い を 解 決 す る	4 課題解決に向けて実践する。	◆ 自ら考えた課題解決に向けての取り組みを何回も実践させる。 <input type="checkbox"/> タブレットで自分の動きを撮影させ、撮影した動画を見て自分の動きを確認する。
ま と め る ・ 振 り 返 る	5 結果や考察をまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 自分はこの技ができて、課題はこうである。 </div> 6 本時の学習を振り返る。	◆ 見本の動きと自分の動きを見比べながらワークシートに○・△・×の3段階評価で結果を書き、考察を自分の言葉で書かせる。 ◆ 自分の言葉でまとめるように指示する。

ICT の具体的な活用

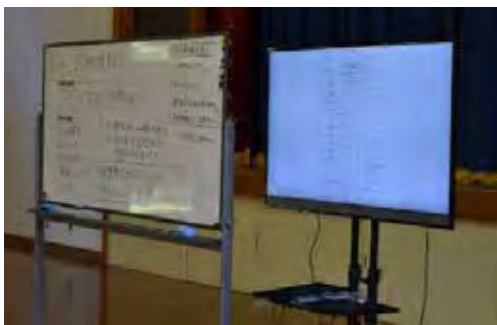
《生徒》

タブレットを通じて見本の動きを確認したり、ペアになって試技の様子を撮影したりすることで、自分では見ることができない自分自身の動きを確認することができた。



《授業者》

ホワイトボードと電子黒板を用いて授業を進行することで、わかりやすく生徒に説明したり運動時間を確保したりすることができた。



《中学校体育における見方・考え方》

運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること。

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

技の見本の映像を電子黒板に映して見せることで、技のイメージをもつとともに、興味をもって実践していこうという意欲を喚起することができた。

対話的な学習活動の工夫

ペアになって試技の様子を撮影し、見本の動きと実際の動きを見比べて、どのようにすれば見本のような動きができるのかなど、探究的に学習をすすめることができた。



教科の見方・考え方を育む工夫

ICT を活用したことで、見本の動きと自分の動きを見比べることができ、自分の動きをより洗練することができた。また、ペアで活動させることで自分が動いた感じと客観的に見た感じの両方から考察することができ、より深い学びを実現することができた。



(4) 発表ノート (デジタルノート)

【発表ノート】 自分の考えを表現する	校 種	学 年	教 科	指 導 者
	小	1	算数	堀内 真実

単 元 名	20までのかず
本時のねらい	20までの数について工夫して数えることができる。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT 活用の視点
問 い を つ か む 5 分	1 学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">どのようにかぞえたらよいのだろう。</div>	◆ 前時の問いとの違いを明確にし、本時のねらいに沿った思考ができるようにする。 □ 大型テレビで問題場面の絵を見せることで、興味を持って取り組めるようにする。
考 え を も つ 15 分	2 問題を解く。 ・ 2とびの数え方 (さくらんぼ) ・ 5とび (ばなの房)	◆ 2のまとまり、5のまとまりが意識できるような問いを設定する。 ◆ 2のまとまりであることを生かした数え方ができるよう、支援する。 ◆ 前問との違いを明確にし、5のまとまりであるという視点をもたせる。 □ どのようにして数えることが「はやい かんたん せい かく だれにでも」かを判断し、考え方とともにタブレットに書き込む。
問 い を 解 決 す る 15 分	3 ペアで話し合い、友達の考えを知る。 4 全体で話し合う。	◆ ペアで話し合い、友達の考えと比較し、考えを深められるようにする。 □ タブレットを用いることで児童の意見を大型モニターで比較したり、児童が容易に意見を共有したりできるようにする。 ◆ どちらの数え方にも「10のまとまり」があることに気づかせ、今後の学習に生かすことができるようにする。 ◆ 数え方においては、何度も練習を重ね、慣れさせていく。
ま と め る ・ 振 り 返 る 10 分	5 本時のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">2とび・5とびでかぞえると「はかせだ！」</div> 6 練習問題をする。 7 振り返る。	◆ 学習課題を振り返り、本時の学習で分かったことを確認しながらまとめる。 ◆ 2とび・5とび、どちらの数え方、考え方でも取り組めるような問題を設定する。 ◆ 「はかせだ」視点を設定することで、身に付いた力を意識させ、見方・考え方の変化に気付くことができるようにする。

ICT の具体的な活用

《児童》

自分の考えをタブレットに記入させることで、容易に修正が可能になるとともに、他の児童と比較する際も容易に持ち運べたり、電子黒板で確認したりすることができた。



《授業者》

電子黒板を活用することで、全員で問題場面の把握を行ったり、本時のねらいに迫るための視点や、考え方の見通しをもたせたりすることができた。



○ 評価の視点と方法

《視点》

20までの数の数え方において、2とび・5とびを生かし、工夫して数えることができたか。

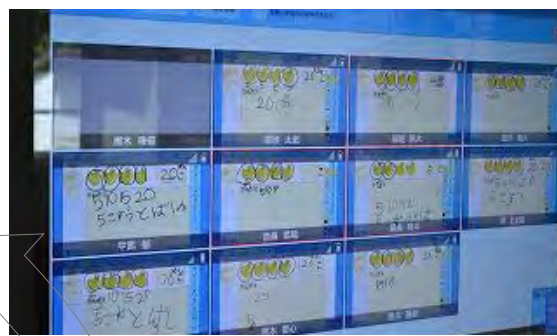
《方法》

観察 タブレット 練習問題

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

前時との違いを明確にし、どのように数えることが、「はやい かんたん せいかく だれでも」なのかを考えさせていくことや、2とび・5とびの視点を与えるような問題提示の工夫をすることで、本時のねらいに迫ることができた。



対話的な学習活動の工夫

ペアで考えを伝え合うことで、友達の考えと比較し、考えを深めることができた。



教科の見方・考え方を育む工夫

2とび・5とびの数え方を知り、工夫して数えることで、「10のまとまり」としての良さ気づき、今後の学習に生かすようにした。

《小学校算数における見方・考え方》

・事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること。

(4) 発表ノート（デジタルノート）

【発表ノート】 児童の意見を集約する	校 種	学 年	教 科	指 導 者
	小	4	学級活動	黒木 明香

単 元 名	おやつのとりのり方
本時のねらい	○ おやつのとりのり方を見直し、とりすぎると健康への弊害が出てくることを理解し、よりよいおやつのとりのり方ができるようにする。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT 活用の視点
問 い を つ か む 5 分	1 事前にとったおやつ調査の結果を知る。 2 おやつ調査の結果を見て自分たちのおやつをふり返る。 3 学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">おやつをとるときには、どんなことに気を付ければよいのだろうか。</div>	◆ おやつ調査の結果を振り返らせることで、一人ひとりに課題意識をもたせたうえで、本時の学習課題に繋げさせる。 □ 電子黒板でおやつ調査の結果を提示し、本時の学習に興味を持って取り組めるようにする。
考 え を も つ 15 分	4 おやつ役割を考える。 5 普段食べているおやつがごはん何杯分になるかを考える。 6 おやつをとるときに、どんなことに気を付ければよいかを考える。	□ 電子黒板でおやつがごはん何杯分になるか提示する。
問 い を 解 決 す る 20 分	7 おやつのとりのりすぎが健康によくないことを知る。 8 よりよいおやつを考える ・個人→グループで意見交換し、訂正したものを発表。 9 おやつ調査の結果を見て自分たちのおやつをふり返る。	□ 電子黒板でおやつに含まれる砂糖の量を提示する。 ◆ 個人で考えた後、グループで意見交換し、友達の考えと比較したり、分からないことを質問したりして、考えを深められるようにする。 □ 発表ノートに児童の考えを書き込み、考えが集約できるようにする。
ま と め る ・ 振 り 返 る 5 分	9 本時の学習のまとめをする。 10 本時の学習を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">おやつは、(量) (時間) (内容) を考えてとる。</div>	○ おやつ「量」や「時間」を考え、「何を食べるか」に気をつけることが大切であることをまとめる。 ◆ 本時の学習で分かったことや、対話を通しての変容など振り返る。

ICT の具体的な活用

《児童》

事前アンケートの結果を電子黒板に写し出すことで、クラスの実態を分かりやすく提示することができた。

あらかじめ準備したおやつをタブレットに提示し、よりよいおやつを考えさせた。グループで意見交換した後、容易に訂正でき、他の意見と比較する際も電子黒板で確認できた。



《授業者》

普段よく食べるおやつがごはん何杯分になるか、または、おやつに含まれる砂糖の量を電子黒板で提示することで、テンポよく進めることができた。

タブレット上で、おやつを自由に動かすことができるので、容易に訂正させることができた。



○ 評価の視点と方法

《視点》

健康に配慮したおやつのとり方を考えることができたか。

《方法》

発表ノートへの記入

振り返りの発表ノートの記述

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

おやつ調査の結果を振り返らせることで、一人ひとりに課題意識をもたせたうえで、本時の学習課題に繋げさせた。

対話的な学習活動の工夫

個人で考えた後、友達の意見を聞いて、考えを広げることができた。また、自分の意見を伝えたり、聞いたりして、自分の考えに自信を持つことができた。



教科の見方・考え方を育む工夫

各教科等における見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けるようにした。

《集団や社会の形成者としての見方・考え方》

本題材に関して、食に関する指導と併せて連携した指導を進め、望ましい食習慣と実践力が身につくよう進め、本題材を指導することにより、おやつについて自分のとり方を見直し、自分に合った内容や量を考えて食べる実践力につなげることができると考える。

心身ともに成長し生涯にわたる食習慣が形成されるこの時期に、本来のおよつの役割を理解させ、適切におよつをとろうとする態度を育てるようにする。

(4) 発表ノート (デジタルノート)

【発表ノート】

写真を撮り加工、成果を発表する

校種	学年	教科	指導者
小	6	家庭	堤 誉子

単元名	いためてつくろう 朝食のおかず
本時のねらい	朝食のおかずづくりに必要な材料の選び方を考え、朝食にあうおかずをつくろうとする。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問いをつかむ⑤	1 前時までの学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">家族が喜ぶ朝食に合うおかずを作る計画を立てよう。</div>	◆ 前時に学習したことを振り返らせることで、本時学習で身につけたいことを課題として発表できるようにする。 □ 電子黒板に学習課題につながる画像を家庭科クイズとして提示することで、児童の学習意欲を喚起させる。
考えをもつ⑩	2 朝食のおかずづくりの計画を立てる ・栄養のバランス ・短い時間でつくることができるもの ・いためることのよさ ・家にあるものや買い置きの利用	◆ 課題解決の視点を明確にすることで、見通しをもって個人で考えることができるようにする。
問いを解決する⑮分	3 朝食づくりで大切なことを家族に聞き、レシピを完成させる。 ・調理の細かい技術方法 ・家にある材料や調理器具の確認 4 調べたことを発表する。 ・グループで ・全体で	◆ 本時のめあてを意識させることで、児童の調べ学習が円滑に進むよう声掛けをする。家族の好みについては、参観している保護者に積極的に尋ねるよう声掛けをする。 □ 個人のタブレット(発表ノート)にあらかじめ項目を作成しておき、調べたことをまとめさせる。追加があれば、インターネットで検索して調べさせる □ 発表する際は、電子黒板で児童の意見を提示したり、児童が容易に意見を共有したりできるようにする。
まとめる・振り返る⑩分	5 本時の学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">家族の好みを含めた栄養のバランスや主食との組み合わせを考えて朝食をつくる。</div> 6 本時の学習を振り返る。	◆ 学習課題を再確認し、本時で学習したことを意識しながらまとめられるようにする。 ◆ 振り返りの視点を提示し、生活による見方や考え方の変化に気付くようにする。

ICT の具体的な活用

《児童》

各自、インターネットを活用して調べたことや、保護者のアドバイス等を発表ノートにまとめた。容易に修正でき、他の意見と比較する際も電子黒板で確認できた。



主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

ただ単に朝食づくりの計画を立てさせるのではなく、「家族が喜ぶ」というキーワードを入れた課題を提示した。「家族が喜ぶ朝食に合うおかずを作る計画を立てよう」という課題に向かって、より児童が主体的に学習に取り組む姿が見られた。

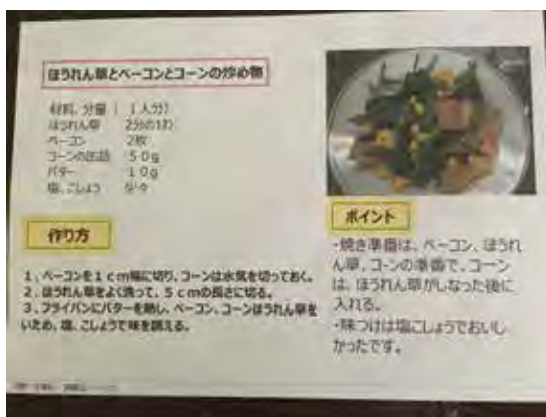


《授業者》

各自の学習の状況が一目で分かり、援助しやすい。画像や児童の意見を容易に電子黒板で比較でき、本時のねらいを焦点化できた。

対話的な学習活動の工夫

調べる活動の際には、参観している保護者に聞いたり、一緒にインターネットで検索したりしてレシピを考えることができた。調べたことを発表する際には、電子黒板に発表ノートを提示し、補足説明しながら説明させた。また、聞く立場の児童も疑問に思ったことを質問したり、自分のレシピに取り入れたりできた。



教科の見方・考え方を育む工夫

単元だけではなく、年間を見通した指導計画を立て、実践の場である家庭と連携しながら指導に当たるなどの工夫をし、生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てるようにした。

○ 評価の視点と方法

《視点》

自分の家族にあった朝食のおかずを考えることができたか。

《方法》

タブレットへの記入、発表の観察、振り返りのノート記述

《生活の営みに係る見方・考え方》

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。

(4) ノートの配布

【ノートの配付】 手順を把握し、理解しやすくする	校 種	学 年	教 科	指 導 者
	小	2	算数	小西 由美

単 元 名	買えますか？買えませんか？
本時のねらい	1つの品物を100円で買えるか買えないかを判断し、全体でも買えるか買えないかを考えることができる。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問 い を つ か む ⑩	1 学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> どうすれば買えるか、買えないかをかんたんに分かるだろう。 </div>	<input type="checkbox"/> 電子黒板で問題場面の絵を見せることで、興味を持って取り組めるようにする。また、問題場面を正しく理解できるようにする。 ◆ 問題場面から、日常生活の中で生かせるような考え方を学ぶことを伝える。
考 え を も つ ⑩	2 問題を解く。 ・買えるか買えないかを判断し、理由とともにワークシートに書く。	<input type="checkbox"/> 電子黒板にワークシート（発表ノートで作成）を映し出し、児童が解く手順や、書き方など理解しやすくする。 ◆ 500円を500円玉で考えるのではなく、100円玉が5つと考えることに着目させる。ワークシートにパン5個と100円玉5つを並べて載せて置き、「100円で1つ買えるか」という考えを導きやすくする。
問 い を 解 決 す る ⑮	3 グループで話し合い、友達の考え方を知る。 4 全体で話し合い、よりよい方法を考える。	◆ 全体で発表する前に、3人グループで話し合い、友達の考えと比較したり、分からないことを質問したりして、考えを深められるようにする。 <input type="checkbox"/> 教師のワークシート（発表ノート）に児童の考えを書き込み、考えが集約できるようにする。
ま と め る ・ 振 り 返 る ⑩	5 まとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 100円で1つ買えるかどうか考える。 </div> 6 練習問題をやる。 7 振り返る。	◆ めあてを振り返りながら、1つの品物を100円で買えるか買えないかを考えることが基本となることを押さえる。 ◆ 100円で1つ買えない問題に取り組み、考え方の定着を図る。 ◆ 本時の学習で分かったことや、対話を通しての変容など振り返る。

ICT の具体的な活用

《児童》

電子黒板で見ることで、全員で問題場面の把握を行ったり、考え方の見通しをもったりすることができた。



《授業者》

デジタル教科書と発表ノートを組み合わせてワークシートを作ることによって、児童がより分かりやすいものを作ることができた。

また、ワークシートと同じものを映すことで、考え方の見通しを全体で行うことができ、自力解決がスムーズに行うことができた。



○ 評価の視点と方法

《視点》

1つの品物を100円で買えるか買えないかを判断し、全体ですることができたか。

《方法》

観察 ワークシート 練習問題

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

児童が生活の中で経験したことがある場面を設定し、「簡単に考えられる方法でない、お店では使えない」ことを意識させることができた。

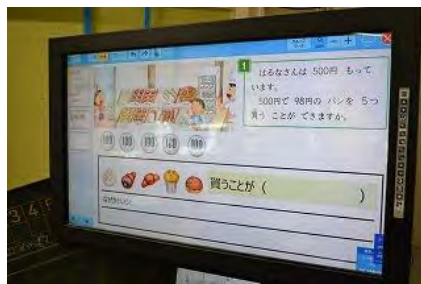
対話的な学習活動の工夫

自力解決ができなかった児童は、友達の意見を聞いて、考えを広げることができた。自力解決ができた児童は、意見を伝えたり、聞いたりして、自分の考えに自信を持つことができていた。



教科の見方・考え方を育む工夫

500円を500円玉1つと考えず、100円玉5つと考えるよう、前時の内容を振り返らせた。また、1つの品物を100円で買えるか買えないかを考えやすいように、ワークシートに100円玉とパンを5つずつ載せた。



(4) ノートの配布

【ノートの配付】 個人思考の時間を確保する	校 種	学 年	教 科	指 導 者
	小	3	算数	末永 友美

単 元 名	分数
本時のねらい	同分母分数のたし算の仕方を考え、計算することができる。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問 い を つ か む 5 分	1 既習事項を振り返る。 2 問題を把握し、学習問題をつかむ。 ○ 問題	□ 電子黒板で既習事項を振り返ることで、本時の主問題を解決する見通しをもつことができるようにする。 ◆ 掲示した液量図から学習問題を予想させることで、本時の額数内容への関心を高める。
	ジュース $\frac{2}{5}$ Lと $\frac{1}{5}$ Lをあわせると何Lですか。	
	○ 立式 ○ 学習課題	◆ 児童のつぶやきをひろいながら、本時の課題を明らかにし、学習課題につなげる
	分数のたし算はどのように計算すればよいのだろう。	
考 え を も つ 5 分	3 解決への見通しをもつ。 ○ 既習事項をいかして ・ 図で (液量図) ・ もとになる分数 (単位分数) ・ いくつ分 ○ 答えの確認	◆ 既習事項から解決方法を見出すことにより、自力解決の見通しを持たせる。 □自力解決における見通しがもてたかどうかをタブレット上の発表ノートに◎○△で書かせ、その後の支援につなげる。
問 い を 解 決 す る 2 0 分	4 自力を解決する。 5 考えを話し合う。 ○ グループで ○ 全体で	□ 図は、事前に準備したシートをタブレットに送ることで、個人思考の時間を十分に確保できるようにする。 ◆ 終わった児童は、気付いたことを吹き出しで書かせ、その後の話し合いで生かすようにする。 ◆ グループによる話し合いでは、個々の考えを出し合い比較する中で、共通点を見出したことや計算する上で大切だと思うことをホワイトボードに書かせるようにする。 ◆ 児童の発言をもとに、ポイントになる言葉を吹き出しで板書し、まとめの表現に生かせるようにする。
ま と め る ・ 振 り 返 る 1 5 分	6 本時の学習をまとめる。 もとになる分数のいくつ分で考えるとよい。 7 学習したことを確かにし、振り返る。 ○ 適用問題 (②、③) ○ 学習内容の確認 ○ 自己評価	◆ 理解したことを児童自身の言葉で表現させることで、本時の学びを自分のものにできるようにする。 ◆ 図の液量図だけに限定せずに取り組みさせることで、多様な考え方があることに触れさせる。 □ 教師用タブレットで理解度が把握できるようにする。 ◆ 本時の学習内容、学習方法について自己評価させ、次時への学習への意欲付けを図る。

ICT の具体的な活用

《児童》

配付された図をもとに自分の考えを容易に加筆修正することができた。



《授業者》

電子黒板を用いることで、既習事項の振り返りを効率よく行った。

自力解決時の児童の考え等を教師用のタブレットで把握することで、ねらいに迫った学習過程を展開できた。



○ 評価の視点と方法

《視点》

同分母分数のたし算の仕方を考え、計算することができるとともに、計算の仕方を説明することができたか。

《方法》

観察 ワークシート ノートの記述
振り返りの記述

学んだことを自分のものにできた姿

図と式、言葉をつなぎながら、根拠をもって計算の仕方を説明できる姿

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

液量図の提示の仕方を工夫したり、主問題を予想させたりすることにより、学習への関心、意欲を高めた。



対話的な学習活動の工夫

グループで考えを共有する中で、互いの考えで共通していることや比較したことで得た新しい気づきをホワイトボードにまとめさせ、グループの考えを可視化させた。



教科の見方・考え方を育む工夫

計算の仕方を図をもとに考えさせたり、「もとなる分数」「いくつ分」などの既習のキーワードを用いながら、根拠を基に考えを伝え合う活動を取り入れたりすることで、学習内容の理解を図った。

《小学校算数科における見方・考え方》

事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を考え、統合的に・発展的に考えること。

(4) 発表ノート (デジタルノート)

【発表ノート】 英単語の並べ替えドリル 【プレゼンテーションソフト】 音声を聞きながら、個別で新出単語の練習	校 種	学 年	教 科	指 導 者
	中	1	英語	安井 尚子

単 元 名	Program 4 リサイクル活動
本時のねらい	<input type="radio"/> What do you～?の疑問文とその答え方を理解することができる。 <input type="radio"/> What do you～?を使って、尋ねたり答えたりすることができる。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT 活用の視点
問 い を つ か む	1 英語であいさつをする。 2 発表ノートで既習事項の復習をする。 3 新出単語の練習をする。 4 学習課題をつかむ。 (西米良中生の休日の過ごし方を) さらに詳しく調査するためには、どんな尋ね方をすればよいだろうか	◆ 前時まで身に付けた力を振り返ることで、本時学習で活用できるようにする。 <input type="checkbox"/> 発表ノートで作成したワーク形式で、これまでの学習を振り返らせ、基礎的内容の定着を図る。 <input type="checkbox"/> タブレットを用いて各自で発音の練習をさせ、よりネイティブに近い発音を心がけさせる。
考 え を も つ	5 Do you～?の形で、様々な質問を考える。個人練習の後、ペア練習を行う。 6 さらに詳しく聞きたいときに、どのような表現があるかを知り、What do you～?の質問と答え方を練習する。	◆ 個人からペアに発展させることで、助け合いながら学習できると同時に、自然な応答の仕方も身につけさせる。 <input type="checkbox"/> パワーポイントで文法説明を提示し、より理解しやすくする。
問 い を 解 決 す る	7 What do you～?の質問をできるだけ多く考える。 8 インタビューを行う。	◆ ワークシートを活用する。 ◆ ペアで互いにインタビューを行わせ、自分の聞きたいことが相手に伝わっているか確認させる。
ま と め る ・ 振 り 返 る	9 本時の学習を振り返る。 さらに詳しく聞きたいときは、 What do you 一般動詞? を使う。 10 自分のことをさらに詳しく説明する。 11 英語であいさつをする。	◆ ワークシートを活用し、今日のポイントを視覚的にもまとめさせる。 ◆ 「自分のことを話そう」に向けての資料づくりであることを再確認する。

ICT の具体的な活用

《生徒》

・各自でタブレットとヘッドセットを使用して、単語の練習を行うことで、集中して練習することができた。また、分からない発音は何度も聞いて練習することができた。

・発表ノートでの並べ替えで、大事なポイントを繰り返し練習できた。



主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

・言語活動の目標を設定し、本単元でできるようになることを明確にした。

・既習事項だけでは詳しく聞くことができないことを意識させ、次のステップにつなげた。

対話的な学習活動の工夫

・ペア活動を取り入れ、学び合い、教え合う雰囲気を作った。

・ペア活動で、コミュニケーションの楽しさも感じさせながら、自然な応答の仕方を身につかせた。



《授業者》

・発表ノートで基礎的な文型を繰り返し練習させ、定着させることができる。

・プレゼンテーションで視覚的に文の決まりを説明することができた。



教科の見方・考え方を育む工夫

言語活動の目標を設定し、本単元でできるようになることを明確にすることで、受け身や一方通行でないコミュニケーション活動に向かう意欲や態度を育むようにした。

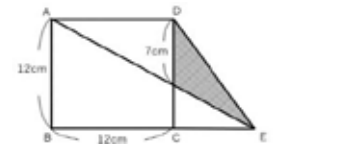
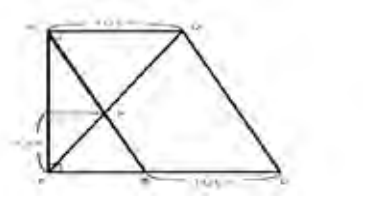
《中学外国語による見方・考え方》

コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて、情報や自分の考えなどを形成・整理・再構築すること。

(4) 発表ノート（デジタルノート）

【発表ノート】 図形を動かしながら、考えを深め合う	校 種	学 年	教科等	指 導 者
	中	2	数学	安井 公彦

単 元 名	図形の性質と証明
本時のねらい	○ 等積変形を用いて、与えられた図形の面積を求めることができる。

「西米良ならではの」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT 活用の視点
問 い を つ か む (10)	1 前時の復習をする。 指定されたホームページで、等積変形の復習をする。	◆ 復習することにより、本時の学習で等積変形の考え方を活用できるようにする。 □ ホームページを活用することで視覚的に等積変形の復習ができるようにする。
	2 学習課題を把握する。 辺の長さが分からない図形の面積を求めるにはどうすればよいだろうか	
考 え を も つ (5)	3 問題1について考える。 (問題1) 右の図の四角形 ABCD は正方形で、点 E は辺 BC 上の延長線上にあります。色のついた部分の面積は何 cm^2 でしょうか。	◆ 必要な情報を考えさせながら提示する。 
	4 個で考える。	□ タブレットを用いて、自由に考えさせる。 ◆ 考えたことを伝えられるように促す。
問 い を 解 決 す る (25)	5 他の生徒の考えを知る。	◆ 自分の考えを伝えること、他の生徒の考えを知ること意識させ、自分なりにメモをさせる。
	6 等積変形を用いることよさに気付く。 7 問題2について考える。 (問題2) 右の図で、四角形 ABCD は平行四辺形である。点 A から直線 BC に下ろした垂線の足を E とし、AB と ED の交点を F とするとき、 $\triangle AEF$ の面積を求めなさい。	□ タブレットと電子黒板を使って説明をさせる。 
ま と め る ・ 振 り 返 る (10)	8 自分の言葉で説明する。	□ 画面を見せ合いながら、互いに説明をさせる。
	9 本時のまとめをする。 等積変形を用いることで、辺の長さが分からない図形の面積を求めることができる。	
	10 練習問題をする。	◆ 机間指導を行い、支援を行う。
	11 本時の振り返りを行う。	◆ 自己評価を行わせ、次の授業に生かす。

ICT の具体的な活用

《生徒》

等積変形の復習を少ない時間で確認することができた。課題や互いの考えを自分のペースで確認でき、取り組むことができた。



《授業者》

電子黒板や教師用タブレットに生徒全員の考えを表示することで、個々の状況を把握し、必要な支援を行った。



○ 評価の視点と方法

《視点》

平行線と面積の関係をもとに、ある図形と面積が等しい図形を見つけてきたか。

《方法》

発表、タブレット

学んだことを自分のものにしてきた姿

等積変形を用いて、辺の長さが分からない図形の面積を求めることができる。

主体的・対話的で深い学びを実現する
授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

底辺や高さが与えられていない問題を提示し、他の部分にも目を向けることの必要性を実感できる課題を設定した。



対話的な学習活動の工夫

タブレットに記入した自分の考えをお互いに説明することで生徒の多様な考え方を引き出し、自分と他者の意見を比較し新しい考えに気付かせた。



教科の見方・考え方を育む工夫

視覚的に問題をとらえ、具体的に操作することにより、見通しをもって問題に取り組めるようにした。

《中学数学科における見方・考え方》

事象を数量や図形及びそれらの関係についての概念等に着目してその特徴や本質をとらえること。また目的に応じて、数、式、図、表、グラフ等を活用しつつ、論理的に考え、問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識及び技能を関連づけながら統合的・発展的に考えること

(4) 発表ノート (デジタルノート)

【発表ノート・グループワーク】 記入した式の解き方を共有し合う	校 種	学 年	教科等	指 導 者
	中	2	数学	安井 公彦
単 元 名	連立方程式			
本時のねらい	連立方程式の意味とその解について知る			

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問 い を つ か む	1 勘者御伽双紙の写真を見る。	<input type="checkbox"/> 江戸時代の数学の本をモニターに提示し、生徒に説明する。 <input type="checkbox"/> デジタル教科書を用いて、数あての問題の紹介をする。
	2 勘者御伽双紙の数あての問題を把握する。 ・より分かりやすい説明をきく。	
考 え を も つ	3 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">2つの文字を含む方程式とその解について考えよう</div>	◆ 1年次の方程式のことについても簡単にふれる。 ◆ まずは個で考えさせる時間を十分にとる。
	4 問題について考える。	
問 い を 解 決 す る	5 自分の考えを発表する。 ・お互いに意見交換をさせ、自分の考えを相手に伝える。	<input type="checkbox"/> タブレットに書いた式をお互いに確認し、意見を交換する。 ◆ ペア等は決めずに自由に話し合い活動をさせる。 ◆ 挙手による発表を行い、全体で確認をする。
	6 式と答えの確認をする。	
ま と め る ・ 振 り 返 る	7 連立方程式に関する用語とその意味について知る。	◆ ノートに記入し、再度確認を行う。 ◆ 代入して当てはめて求める方法から、“解いて”求める方法を学習していくことを伝える。
	8 本時のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">連立方程式の解は、2つの式のどちらにも共通する解である。</div> 8 次時から、解き方について学習することを知る。	

ICT の具体的な活用

《生徒》

式を組み立てる段階で、容易に記録や消去等ができ、また、提示も簡単にできた。



《授業者》

デジタル教科書を用い、課題提示が容易に行うことができ、生徒への理解に役立った。

《数学における見方・考え方》

事象を数量や図形及びそれらの関係についての概念等に着眼してその特徴や本質をとらえること。また目的に応じて、数、式、図、表、グラフ等を活用しつつ、論理的に考え、問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識及び技能を関連付けながら、統合的・発展的に考えること

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

デジタル教科書を用い、通常ならば導入段階の教える場面を、生徒が自分たちの力で解決できるように、全体ではなく、必要な部分の提示を行うことができた。

対話的な学習活動の工夫

互いに組み立てた式を確認し、話し合うことができた。時には、話し合う相手を変えて自分たちで協力して話し合いが進み、正答まで導くことができた。



教科の見方・考え方を育む工夫

ICT 機器を活用することにより、課題の把握がより容易であるとともに、考えを整理することが可能になった。

(5) 画面にマーキング

【画面にマーキング】 自分の考えを書き込み、残す	校 種	学 年	教 科	指 導 者
	小	3	国語	末永 友美

単 元 名	漢字の組み立てと意味を考えよう
本時のねらい	既習の漢字について、部首が表す意味を考えることができる。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問 い を つ か む ⑩	1 前時の学習を振り返る。 同じ部首の漢字には、どんな関係があるのだろうか。	◆ 同じ部首をもつ漢字をグループ分けさせ、漢字の構成について考えさせることで、本時学習への関心を高める。 □ 個人のタブレットを用いて、自由に動かしながらグループ分けさせる。 ◆ 「さんずい」のつく漢字を集めさせ、集めた漢字の意味を考えさせることで、漢字の部首と意味には繋がりがあることに気付かせ、本時の学習課題に繋げる。
考 え を も つ ⑤	2 同じ部首をもつ漢字に共通する意味について考える。	◆ グループ分けした漢字を全体で共有した後、それぞれの漢字のグループの共通する意味について考えさせる。 □ タブレットを用いて、加筆修正をしながら意味について考える。
問 い を 解 決 す る ⑳	3 考えを発表し、互いの意見を共有する。(グループ→全体)	□ 個人の考えを書いた発表ノートを見せ合いながら、意見を交換させる。 ◆ 意味を考える際、なぜその意味になるのか、根拠をもって伝えることで、聞き手に納得感をもたせるようにする。 □ 全体での話し合いでは、電子黒板で各グループの考えを比較しながら意見を集約する。 ◆ 言葉の微妙なニュアンスなど、各グループの考えを汲み取った上で、意味を考える。
ま と め る ・ 振 り 返 る ⑩	4 本時の学習を振り返りまとめる。 同じ部首の漢字は、同じ意味を表している。	◆ 部首による漢字の構成に加え、4年上の漢字辞典の使い方でも、部首を使った調べ方があることを伝えることで、漢字に対する興味・関心を深めさせるようにする。

ICT の具体的な活用

《児童》

タブレットを用いて、漢字のグループ分けをすることで、児童は容易に考えの加筆修正することができた。



《授業者》

全体での話し合いでは、電子黒板で各グループの考えを比較しながら流れを構築し、意見を集約することができた。



○ 評価の視点と方法

《視点》

共通する部首をもつ漢字があることを知り、部首の名前や、部首と漢字の意味との関係について理解するとともに、漢字に対する興味・関心を高めることができたか。

《方法》

観察・ノートの記述

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

前時の振り返りとして、同じ部首をもつ漢字をグループ分けさせることで、漢字の構成についての理解を深め、本時学習への意欲を高めることができた。

また、前時学習後の「さんずいにつく漢字は、水に関係がある」という児童の気付きをもとに、「さんずい」について、同じ部首には同じ意味を表すことについて全体で共有することで、他の漢字にも目を向ける本時の学習課題につなげるようにした。

対話的な学習活動の工夫

個人の考えを書いた発表ノートを見せ合いながら、意見を交換させた。同じ意味でも言葉の表現が異なる場合は、どの言葉が適しているかということについても積極的に意見交換する姿が見られた。



教科の見方・考え方を育む工夫

部首をもとにして漢字の特徴をとらえることや同じ部首をもつ漢字が意味の上でも関連をもつ場合が多いことを学習することで、漢字の構成への興味・関心を高めるとともに、効率的な漢字学習に繋げることができるようにした。

《国語における見方・考え方》

児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。

(6) 画像の合成

【画像の合成】 結果を集約し、まとめにつなげる	校種	学年	教科	指導者
	小	3	理科	黒木 雄治

単元名	風やゴムのはたらき
本時のねらい	ゴムをひく長さを変えると車のすすむきよりが変わることが分かる。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問いをつかむ⑤	1 前時の学習をふりかえる。 2 学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ゴムを引く長さで車がすすむきよりに はどんなかんけいがあるの だろう。 </div>	◆ 前時にゴムカーを使って遊んだことを思い出させることで本時の学習課題につなげる。 ◆ 今までは遠くに行くことに視点が集まりがちであったが本時では、ちょうどよい場所で止まるということを前提とさせる。
考えをもつ⑩	3 試しのゲームをし作戦を立てさせる。 ゴムカーゲームのルール ・ 必ず3回進ませる。 ・ 残りの距離は測ってもよい。 4 ゴムの伸びと車が進む距離の関係を調べる。	◆ ルールを提示することで、適当にゴムを引くだけではちょうどよい場所に止まれないことを知る。 □ どれだけゴムを引けばどれだけ車が進むのかを視覚的に捉えさせる。 ◆ 何度も実験を行わせ、ゴムの伸びと車が進む距離の関係を把握させる。
問いを解決する⑮	5 ゴムカーを使ってゲームを行う。	□ 他グループの結果も参考にさせながら、残りの距離を進ませるためには、どれだけゴムを引けばよいのか考えさせながらゲームに取り組む。 ◆ 途中、作戦タイムを設けタブレット上の結果を生かしながら取り組むことができるようにする。
まとめる・振り返る⑮	6 ふりかえりとまとめを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ゴムを長くひけば、その分車もすすむ。 </div> 7 次時について知らせる。	◆ ふりかえりでは、ゲームを通してゴムの伸びと車の進む距離の関係について言及することができている児童を指名することで、本時のねらいにつなげる。 ◆ 次時は、ゴムの本数を変えるとどうなるのかについて調べていくこと知らせる。

ICT の具体的な活用

《児童》

タブレットに実験の結果を記入していくことで視覚的にゴムの伸びと車が進む距離を捉えることができた。

合成機能を活用することで、他グループの結果もすぐに参考にすることができた。



主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

前時では、進んだ距離を競うようにしたが、今回の問いではちょうどよい場所に止めるためにはどうすればよいのかを考えさせていくことで本時のねらいとするゴムの伸びと車が進む距離の関係について捉えることができた。



対話的な学習活動の工夫

ゴムカーゲームのルールを工夫することで、必然的に対話が生まれた。



《授業者》

合成機能を活用し、各グループの実験結果を瞬時に把握できた。結果に大きなばらつきがある場合は実験方法の指導を行うことができた。



教科の見方・考え方を育む工夫

ゴムの伸びと車が進む距離の関係を生かして、ゲームに取り組みせることで、それらの関係を意識しながら実験に取り組むことができるようにした。

《小学校理科における見方・考え方》

自然の事物・現象を主として量的・関係的な視点で捉えること。

○ 評価の視点と方法

《視点》

ゴムを伸ばす長さや車が進む距離の関係について実験やゲームを通して理解することができたか。

《方法》

観察 ノート

(6) 画像の合成

【画像合成】 意見を集約し、傾向が分かる	校 種	学 年	教 科	指 導 者
	小	5	国語	山崎 美佳

単 元 名	新聞記事を読み比べよう
本時のねらい	二つの新聞記事を読み比べ、写真や見出しに気をつけて、それぞれの記事の内容を読み取ることができる。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT 活用の視点
問 い を つ か む (5)	1 前時の振り返りをする。 2 学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 二つの記事の内容はどうなっているのだろうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 書き手の意図 	◆前時の資料を用いながら、新聞記事の構成について振り返るようにする。 ◆意図とは何かを振り返る。
考 え を も つ (10)	3 新聞記事を読み、共通点と相違点を見つける。 <ul style="list-style-type: none"> A社の写真、キャプション B社の写真、キャプション 	□ 写真を見てわかることに印をつけさせ、違いに気づかせる。その際、合成機能を使い、みんなの気づきが同じことに気づかせ、書き手の意図の違いがあることに気づかせる。 ◆ キャプションにも注目させ、写真の説明から書き手の意図の違いにも気づかせる。
問 い を 解 決 す る (25)	4 見出し、リード文、本文から、共通点、相違点を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 見出しの共通点、相違点 リード文の共通点、相違点 本文の共通点、相違点 	◆ 考える際には、教科書やタブレットに線を引いて考えさせる。その際、共通点と相違点の色を変えて線を引かせるようにする。 ◆ リード文をみんなで声に出して読み、共通点、相違点を確認するようにする。
ま と め る ・ 振 り 返 る (5)	5 本時学習のまとめを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 共通点、相違点があり、書き手の意図が違う。 </div> 6 次時の予告	

ICT の具体的な活用

《児童》

二社の写真やキャプションを見て気づいたことに印をつけることで、相違点に気づくことができた。写真を大きくして見やすくすることができた。

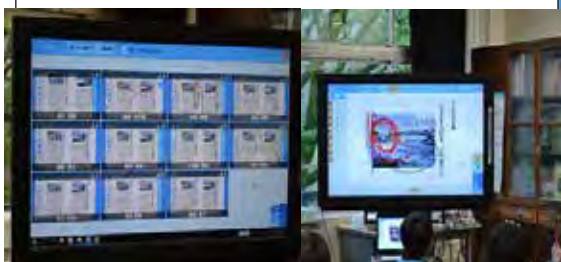
共通点や相違点に印を付けたり、書き込みをした。



《授業者》

合成機能を活用し、気づいた点がみんな共通していることを確認することができた。

二社の記事を並べて提示し、共通点、相違点があることを気づかせた。



○ 評価の視点と方法

《視点》

二つの記事を読み比べ、写真や見出しに気をつけて、それぞれの記事の内容を読み取っているか。

《方法》

発言、教科書、ノート、タブレット

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

前時の新聞記事の構成、記事と写真との関係を振り返り、新聞には書き手の意図があることを再認識させた。記事の内容から書き手の意図は何かを意識した学習課題となるようにした。

対話的な学習活動の工夫

共通点や相違点について、児童同士が話をするすることで、自分の考えに自信を持ったり、自分一人で見つけられなかったことを見つたりすることができた。



教科の見方・考え方を育む工夫

見出し、リード文、本文の言葉に注目させ、共通点を見つけ、明らかにすることで、相違点を探す手がかりを見つけ出すことができた。

文章だけでなく写真から分かることをつなげることで、書き手の意図は何かを読み取ることに繋げることができた。

《国語における見方・考え方》

言葉による見方・考え方を働かせることは、児童（生徒）が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること

(6) 画像の合成

【画像合成】

パートごとにつけた強弱の工夫を全体で共有

校 種	学 年	教科等	指 導 者
中	1	音楽	佐伯 百合

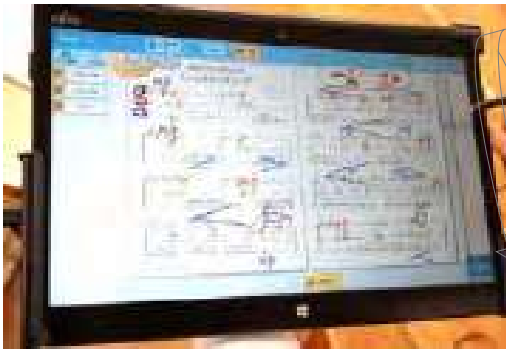
単 元 名	言葉のリズムで楽しもう
本時のねらい	○ 言葉のリズムを生かして、強弱を工夫することができる。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動【共通事項】	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問 い を つ か む	1 前時の学習を振り返る。 2 学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">言葉のリズムを生かして、強弱を工夫しよう。</div>	◆ リズムカードを提示し、前時の学習で身近な言葉でつくったリズムを手拍子で確認させる。 ◆ 「くいしんぼうのラップ」の声部（パート）の分け方や同じリズムに当てはまる別の言葉があることを理解させ、本時の課題へ導く。
考 え を も つ	3 3つのパートを練習する。 【リズム・テクスチャ】 4 曲全体の構成を理解し、静かな部分や盛り上がる部分を考える。	◆ ビートに乗って各パートを掛け合いながら、合唱させる。休符を確認させる。 ◆ 同じ言葉の追いかけ・ユニゾン、同じリズムで言葉が違う追いかけ、異なるリズムの同時進行など各パートとの掛け合いを考えさせる。
問 い を 解 決 す る	5 パートで意見交換をしながら強弱を工夫し、楽譜にその理由（イメージ）や強弱記号を書き込む。 【強弱】 6 強弱を工夫して全体で合唱する。 【リズム・テクスチャ・強弱】	◆ 自分たちの表現したい音楽になるように、強弱を工夫させ、楽譜にその理由（イメージ）を記入させる。 □ パートごとにタブレットを使い、楽譜に色分けして強弱記号を記入させ、合成画面で曲全体の各パートの掛け合いを確認させる。 ◆ 記入した強弱記号を意識して、合唱させる。 ◆ パートごとに特に工夫した点を発表させる。
ま と め る ・ 振 り 返 る	7 学習の内容をまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">3つのパートの言葉のリズムの掛け合いを生かすことで、強弱を工夫することができた。</div> 8 本時の学習を振り返る。	◆ 本時のまとめを「学習の記録」に自分の言葉で書かせる。 ◆ それぞれの考えを発表し、全体で共有する。

ICT の具体的な活用

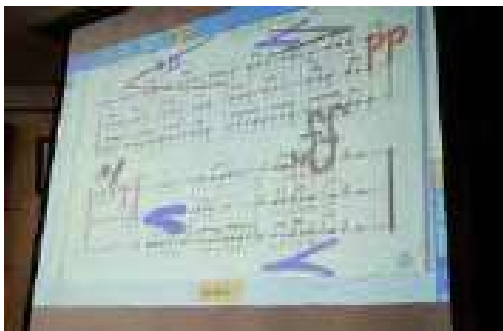
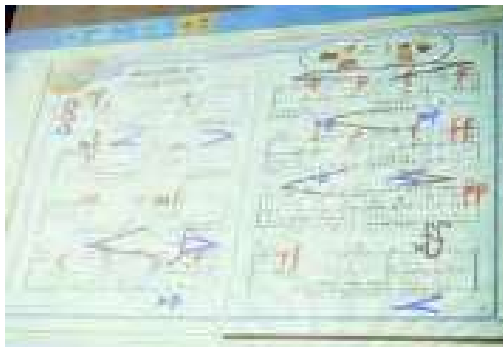
《生徒》

声部（パート）ごとにタブレットを使用して、それぞれ色分けをして楽譜に強弱記号を書き込み、合成画面で表示したことで、曲全体の強弱の掛け合いを確認することができた。



《授業者》

各パートの強弱の工夫を曲全体と比較しながら、特に工夫した点をクローズアップすることができた。



主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

リズムカードを掲示し、前時に身近な言葉でつくったリズムを手拍子で確認し、同じリズムに当てはまる別の言葉があることを理解させたことで、「言葉のリズムを生かした強弱を工夫する」という本時の学習課題について、見通しをもたせることができた。

対話的な学習活動の工夫

自分たちの表現したい音楽になるように、パート内でお互いに意見交換することで、他の意見を知り、自分の意見と比較しながら、よりイメージに合う強弱を深く考えて選び、記入していく姿が見られた。



教科の見方・考え方を育む工夫

各パートでお互いのイメージを比較し、強弱と関連付けてタブレットでまとめ、合成画面で視覚的に曲全体の強弱の掛け合いを確認することができた。

《中学音楽における見方・考え方》

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽が形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情と関連付けること

(7) プログラミング

【プログラミング】 個人の考えを全体で共有する	校 種	学 年	教 科	指 導 者
	小学校	6	理科	黒木 雄治

単 元 名	発電と電気の利用
本時のねらい	照明の点灯・消灯を制御するプログラムを作る体験を通して、目的に応じて電気を効率的に使う方法を多面的に考え、表現することができる。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問いをつかむ5分	1 前時の内容をふりかえる。 2 本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">どうすればためた電気を効率よく使えるだろうか。</div>	◆ 電気を作ったりためたりすることができたことを思い出させ、本時の学習課題につなぐことができるようにする。 □ 電子黒板で効率的に電気を使うことができていない日常場面を想起させ、本時の学習課題を提示する。
考えをもつ10分	3 ノートにどんな考え方をすればよいのか書き込む。	◆ 考え方の枠はあらかじめノートに貼っておくことで児童が考えることに集中することができるようにする。 ◆ 個人で考えた後にペアもしくは3人で考えさせることで、多様な視点から考えることができるようにする。 □ 考えをタブレットで撮影し、電子黒板に投影することで、全体で共有できるようにする。
問いを解決する20分	4 マイクロビットを入れた電気回路を作成し、プログラミングを行う。 5 それぞれのプログラムの成果を発表する。	◆ マイクロビットの回路を作成する際には、一斉指導で行うことで確実に回路を組むことができるようにする。 ◆ 前段階における自分たちの考えをもとに、プログラムを組むことができるようにする。 □ 最初は暗くなったら電気がつくというプログラムから明るくなったら電気が消えるというプログラムへと段階的に難易度を上げていく事で、児童が意欲的に学習に取り組むことができるようにする。 □ 出来たプログラムや動作の確認を相互に行うことで達成感を味わわせる。
まとめる・振り返る10分	6 学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">プログラムを作ることでためた電気を効率よく使うことができる。</div> 7 学習のふりかえりをする。	◆ 本時の学習で学んだことをノートにまとめ、気付いたことを友達と伝え合う。 ◆ ふりかえりを行うことで、本時に学んだことや友達と学んで気付いたことを自分で認識することができるようにする。 ◆ 次時では、本日の学習を生かしたものづくりを行っていくことを伝え、期待感をもたせる。

ICTの具体的な活用

《児童》

タブレットでプログラムしたことをマイクロビットに書き込む体験を通して、試行錯誤しながら目的に応じたプログラムを考えていくことができた。



《授業者》

授業の最初に電子黒板で生活場面から課題意識をもたせることで、全体で本時に取り組むべき課題を明確にさせる。予想を立てる段階では、紙に書いたものをタブレットで撮影して投影させることで効率的に授業を進めることができた。



○評価の視点と方法

《視点》

目的に応じたプログラムを作成することができたか。

電気の効率的な利用の仕方に関するプログラムの良さに気付くことができたか。

《方法》

観察 ノートへの記述

主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

電気を効率的に使うことができていない日常の生活場面から学習課題を提示することで、児童が主体的に学習に取り組むことができた。



対話的な学習活動の工夫

ペアや3人組でプログラムを考えさせることで、多様な考え方に触れさせ自分の考えを広げ深めることができた。



教科の見方・考え方を育む工夫

限られたエネルギーを効率的に使うためには、目的に応じてどのようなプログラムを組めばよいのかを多面的に考えさせることで、量的・関係的な視点で効率的な電気の使い方について捉えることができた。

《小学校理科における見方・考え方》

自然の事物・事象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較、関係付け、条件制御、多面的に考えるなどの科学的な思考を用いて考える。

学んだことを自分のものにしてきた姿
プログラミングを活用すれば電気を効率的に使うことができることに気付く姿

(8) 遠隔授業

【遠隔授業】 宮崎大学との遠隔通信による発表・質疑応答	校 種	学 年	教科等	指 導 者
	中	1～3	総合	仁田脇 一字

本時のねらい	○ ICTを効果的に活用した他者との双方向の交流を通して、学習活動においてまとめた内容を効果的に発表することができ、他者からの指摘を受けて新たな課題に気づくことができる。
--------	---

「西米良ならではの」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT 活用の視点
問 い を つ か む (3)	1 宮崎大学と中学生による通信状況確認及びあいさつをする。 2 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">Come on Nishimera (西米良に行きたくなるように、村の良さをアピールしよう！)</div>	□ パソコンやタブレットを生徒自らが操作し、遠隔通信で自己紹介ができるようにする。
考 え を も つ (17)	3 趣旨説明班が発表する。 ・学習活動の経緯説明 ・事前アンケート分析 4 春・夏旅行班が発表する。 ・プレゼン係 ・パンフレット係 5 秋・冬旅行班が発表する。 ・プレゼン係 ・パンフレット係	□ 遠隔地にいる人に対して発表することにより、多様な表現活動を行うことができるようにする。 ◆ 郷土の地域創成という身近な題材を発表することで主体的に学習に取り組むようにする。
問 い を 解 決 す る (20)	6 質疑応答を行う。 ・大学生→中学生 ・中学生→大学生 7 大学生からの評価及びアドバイスを聞く。	□ 大学との遠隔授業を通して、学習内容に関する専門的な視点からの支援を受けることができるようにする。 ◆ 協働・双方向の学習活動により、自分の考えと他者の考えを関連付けたり、自分の考えが最適解かどうかを自己に問いかけたり、新たな課題を探究することができるようにする。
ま と め る ・ 振 り 返 る (10)	8 地域資源創成学部の先生より総評を聞く。 9 タブレットの自己評価表に記入する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">アドバイスを受けてプレゼンやパンフレットの改善に向けて新たな課題に気づくことができる。</div>	□ 多様な意見を効率よく整理・集約して練り合う協働学習ができるようにする。

ICT の具体的な活用

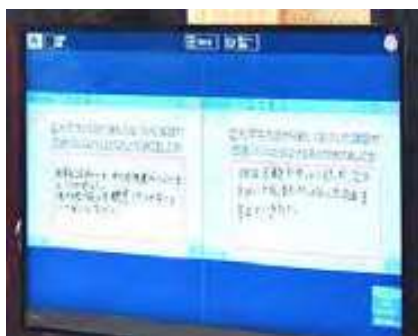
《生徒》

大学との遠隔授業を通して、学習内容に関する専門的な視点からの支援を受けることができ、多様な表現活動を行うことができた。



《授業者》

ICT 機器を活用することで、多様な意見を効率よく整理・集約して練り合う協働学習を行わせることができた。



○ 評価の視点と方法

《視点》

- ・ 自分たちがまとめた内容を分かりやすく伝えようとしているか。
- ・ 他者からの指摘を受けて新たな課題に気付くことができたか。

《方法》

- ・ 表現活動の観察
- ・ 自己評価表への記述

学んだことを自分のものにできた姿

まとめた内容を効果的に発表することができ、他者からの指摘を受けて新たな課題に気づくことができる

主体的・対話的で深い学びを実現する
授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

郷土の地域創成という身近な題材を設定することで主体的に学習に取り組みませた。

対話的な学習活動の工夫

協働・双方向の学習活動により、自分の考えと他者の考えを関連付けたり、自分の考えが最適解かどうかを自己に問いかけたり、新たな課題を探究することができるようにした。



教科の見方・考え方を育む工夫

地域外の人意見を聞くことで、地域の現状や課題についての考えが深まるようにした。

《総合における見方・考え方》

広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続ける。

(9) ワープロソフト

【ワープロソフト】→【画面共有】

要点を Word にまとめ、全体で共有し発表

校 種	学 年	教科等	指 導 者
中	3	国語	清水 眞名

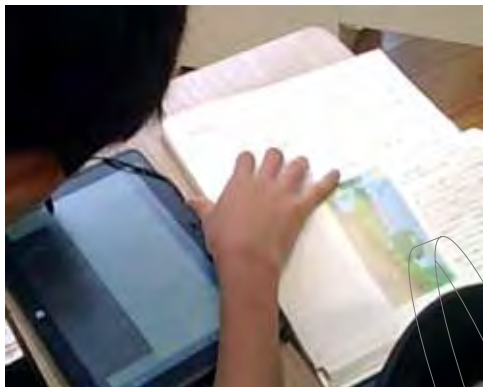
単 元 名	説明的文章 「絶滅の意味」
本時のねらい	筆者の主張とその根拠を読み取り、根拠の述べ方の工夫を捉えさせる。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT 活用の視点
問 い を つ か む	1 前時の要点を確認する。 2 学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 筆者の主張とその根拠を読み取り、分かりやすくまとめよう。 </div>	<input type="checkbox"/> 第一段落のまとめを提示し、昔と今の「生物の絶滅」の原因とスピードの違いを確認する。 ◆ 個に応じ、読みを深め、まとめられるように、意欲を喚起する。
考 え を も つ	3 第二段落「筆者の主張とその根拠」の要点を、各自、タブレットで Word に入力し、まとめる。	<input type="checkbox"/> デジタル教科書を表示し、段落ごとのキーワードを確認させる。 ◆ 「生態系」の内容と、生態系から受ける4つの恩恵について、要点を抑えて、まとめさせる。
問 い を 解 決 す る	4 個人のまとめを発表する。 5 相互評価しあい、より分かりやすくするためのアドバイスをしあう。	<input type="checkbox"/> 生徒のまとめを、スクリーン、及び各自のタブレットに投影し、工夫した点を発表させる。 <input type="checkbox"/> 付箋紙にアドバイスを書き込ませる。 <input type="checkbox"/> 付箋を参考にしながら、相互評価を行う。
ま と め る ・ 振 り 返 る	6 アドバイスを参考に、自己のまとめを修正する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 根拠を示し、主張するときは、具体例を示すと分かりやすく、説得力が増す。 </div> 7 本時の学習を振り返る。 全員の作品を掲示し、比較する。	◆ どう工夫すれば、分かりやすく、かつ要点をきちんとまとめられるかを考えさせる。 <input type="checkbox"/> 各自まとめを、二枚プリントアウトし、一枚は掲示用、もう一枚は、ノートに添付する。

ICT の具体的な活用

《生徒》

説明的な文章を、タブレットを用いて、自分でまとめ、相互評価を行うことで、読みが深まり、分かりやすくまとめることができた。



《授業者》

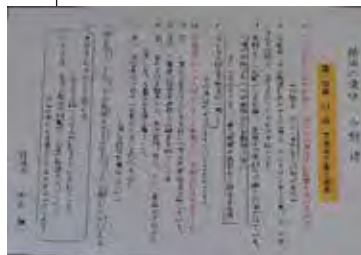
デジタル教科書や生徒の作品をモニターに提示し、重要語句や段落の構成を確認することで、視覚的に分かりやすく指導することができた。また、時間の有効活用ができた。



主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

筆者の主張とその根拠について自分の力で、分かりやすくまとめようとすることで、他人任せにせず、じっくりと読み深めることができた。



対話的な学習活動の工夫

比較して考えることにより、個人では気付かなかった要点やキーワードに気が付くことができ、探究的に学習を進めることができた。

教科の見方・考え方を育む工夫

ICTを利用したことで、相互評価を活かして、更に改善することができた。他の生徒のよさを取り入れ、より分かりやすくまとめる工夫ができた。



《国語科における見方・考え方》

自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉え、その関係性を問い直して意味づけること。

(9) プレゼンテーションソフト

【プレゼンテーションソフト】

収集・選択した情報を活用した発表

校 種	学 年	教科等	指 導 者
中	3	理科	米良 公利

単元名	エネルギー資源とその利用
本時のねらい	○ バイオマスを燃焼させても、大気中の二酸化炭素の増加の原因にはならないことを、その根拠とともに指摘できる。

「西米良ならではの」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問 い を つ か む (前時)	1 既習事項を想起する。 2 学習課題をつかむ。 バイオマス発電で大気中の二酸化炭素の量はどうなるのだろうか	◆ エネルギーを利用していくとき、エネルギー資源の枯渇、環境や健康への影響などが問題となる恐れがあり、再生可能エネルギーが注目されていることを想起させる。
考 え を も つ (前時)	3 学習の見通しをもつ。 ・ 太郎さんの発言 バイオマス発電は火力発電なので、二酸化炭素は増加する。 4 課題解決に向けて考える。 ・ 太郎さんの発言の正否を考える。	◆ 太郎さんの発言の正否を、根拠に基づいて考えるように伝える。 □ 説得力のある発表ができるように、必要な情報を収集・選択し、活用するように伝える。
問 い を 解 決 す る (35)	5 それぞれの意見を共有する。 ・ 6人全員の発表を聞く。 ・ バズセッションを行い、テーマに対する見解をまとめる。 6 結論を出す。	□ 意見を発表する際には、プレゼンテーションソフトの機能を効果的に活用させる。 ◆ それぞれの発表を比較しながら、自分の考えを修正・補充し、結論へと導いていくようにする。
ま と め る ・ 振 り 返 る (15)	7 学習のまとめをする。 バイオマス発電では、大気中の二酸化炭素は増加しない 8 本時の学習を振り返る。	◆ まとめは自分の言葉で表すように指示する。また、自己の考えの変容と関連づけながら、言語化し表現させる。

ICT の具体的な活用

《生徒》

タブレットを使用して根拠となる情報を収集・選択し活用することによって、主観だけではなく適切な根拠に基づき判断し表現しようとする態度を養った。



《授業者》

電子黒板により情報の提示の切り替えや情報の精選を効率よく行えるようにするとともに、テンポよく授業が進行できた。



○ 評価の視点と方法

《視点》

持続可能な社会をつくるために、環境負荷の小さい新しいエネルギー資源の開発やエネルギー資源の有効利用の方法の開発に目を向けることができたか。

《方法》

発言、発表、ワークシート、レポート、自己評価・相互評価

学んだことを自分のものにしてきた姿

問題点を感じとり、根拠となる情報にもとづいて妥当性を評価するとともに、判断・意思決定を行うことができる。

主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

誤った見方や偏った見方をしがちな事例について、問題点を感じ取る手がかりや視点を与え、科学的に探究することができた。



対話的な学習活動の工夫

自らとは違う多様な考えに触れさらに新しい考えを引き出すためにバズセッションを取り入れ、テーマに対する見解をまとめていくことができた。



教科の見方・考え方を育む工夫

論理的思考の重要性を認識し、論理的な思考を自ら積極的に活用しようとする態度を育てるようにした。

《中学校理科における見方・考え方》

自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて多面的に考えること

memo

A series of horizontal dashed lines for writing, consisting of 25 lines spaced evenly down the page.

研究主題

**社会とよりよく関わり、
未来の創り手となる児童生徒の育成**

～ICT を活用した主体的・対話的で
深い学びを実現する授業づくりを通して～



(1) 授業づくりの視点に基づいた授業実践

視点1

学習課題（問い）の工夫

- ◇ 見通しをもって粘り強く学習に向かうことができるようにする。
 - ◇ 学習の後に、それまでの学びを振り返って、次の学習につなげることができるようにする。
- (例)・興味や関心を高める
- ・見通しをもつ
 - ・自分と結び付ける
 - ・粘り強く取り組む
 - ・振り返って次へつなげる

小学4年 体育

単元名「マット運動」 授業者 長崎 久美子 教諭



前時の学習で書いたワークシートを振り返ることで、本時の課題につなげた。技のポイントとなる部分を動画やスライドで示すことで、練習の見通しをもたせた。

視点2

対話的な学習活動の工夫

- ◇ 自分と他者の意見や考え方を比較したり、自分だけでは気付くことが難しい気付きを得たりしながら、考えを広げたり深めたりできるようにする。
- (例)・互いの考えを比較する
- ・多様な情報を収集する
 - ・思考を表現に置き換える
 - ・多様な手段で説明する
 - ・先哲の考え方を手掛かりとする
 - ・共に考えを創り上げる
 - ・協働して課題解決する



タブレットを固定し、遅延再生機能を活用することで、自分の動きを視覚的・客観的に確認できるようにした。さらに、友達同士でアドバイスをし合うことで、協働して課題を解決できるようにした。

視点3

まとめ・振り返りの工夫

今年度重点研究項目

- ◇ まとめは本時の課題（めあて）に対する答えとし、児童生徒の言葉でまとめるようにする。
 - ◇ 振り返りの視点を明確に与えることで、学びの成果・自己の変容に気付かせ、新たな課題の発見につながるようにする。
- (例)・知識や技能を概念化する（何がわかり、何ができたか）
- ・本時で身に付いた力や学び方を通して、「これまでの自分、今の自分、これからの自分」を意識し表出する
 - ・新たなものを創り上げる



自分の技を動画で撮影し、視覚的に確認できるようにした。その後、自分たちの言葉でまとめをすることで、学習したことを身に付けさせた。振り返りの視点を明確にして、ワークシートで本時の学習を振り返らせ、自己の成長を自覚したり、新たな課題の発見をしたりできるようにした。

授業実践事例

主体的に学びに向かい、対話を通して自己の考えを深めながら、どのように自己成長を自覚し、新たな問題の発見・解決につながったのか、実際の授業を一部紹介します。

中学2年 道徳

教材名「命を見つめて」 授業者 清水 真名 教諭



「あなたは今、幸せですか」というアンケートを用いて、主題について考えさせた。また、猿渡瞳さんの写真や動画を提示し、同じ中学2年生の考えや生き方についての問題意識を高めさせた。



まず自分の考えをもつ段階で、自在にタブレットで考えを入力し、まとめていった。記入したものを見せながら、グループ内で共感や発見の印をつけたり、その理由を述べたりすることで、自分の考えを広げ、深めていけるようにした。



瞳さんの懸命な生き方を通して、「命を大切にする生き方」について深まった自己の考えを文章で表現させた。一部の生徒に発表をさせることで共有化を図った。また、道徳用の自己評価カード（感想）も記入させ、授業後の学級通信にて感想を共有させることができた。

ICTの活用

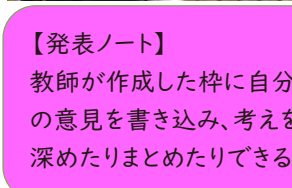
タブレット機能の一覧表で授業を構想

機能	活用
1) 発表	教師は生徒の発表をリアルタイムで確認する。
2) 発表の振り返り	発表の動画を撮影し、自分で振り返り、加工したりできる。
3) グループワーク	同グループの学習者が協力して作業をし、他者と交流することができる。
4) 画面比較	学習者の画面の様子を比較、確認することで、多様な考え方やそれぞれのよさを認め合うことができる。
5) みんなの作品	互いに作品を見せ合い、タブレット内の付箋紙で評価し合う。自分が気付かなかった視点に気付くことができる。



【カメラ】

カメラ機能で静止画や動画を撮影し、自分で振り返ったり、加工したりできる。



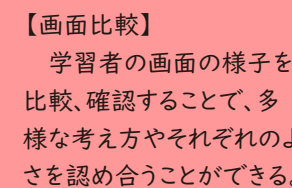
【発表ノート】

教師が作成した枠に自分の意見を書き込み、考えを深めたりまとめたりできる。



【グループワーク】

同グループの学習者が協力して作業をし、他者と交流することができる。



【画面比較】

学習者の画面の様子を比較、確認することで、多様な考え方やそれぞれのよさを認め合うことができる。



【みんなの作品】

互いに作品を見せ合い、タブレット内の付箋紙で評価し合う。自分が気付かなかった視点に気付くことができる。

(2) 投影

【投影】 学習への関心を高め、学びの定着を図る	校種	学年	教科	指導者
	小	1	算数	末永 友美

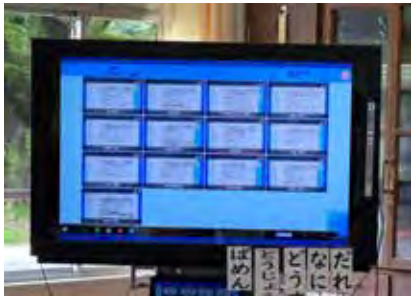
単元名	たしざん(1)
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ たし算の記号や式のみ方、かき方、計算の仕方を理解し、合併や増加の場合をたし算の式に表し、(1位数) + (1位数) = (10以下の数)の計算をすることができる。(知識及び技能) ○ 合併や増加の場面を、同じたし算と考えることができる。(思考力・判断力・表現力等) ○ たし算が用いられる場面に興味をもち、たし算の式に表せるよさを知り、進んでたし算を用いようとする。(学びに向かう力・人間性等)
本時のねらい	◎ 具体的な場面を正しくとらえて、たし算の式に表すことができる。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問いをつかむ⑩	1 問題を理解し、学習課題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 問題把握 ○ 立式 2 本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">しきにあらわすときに、たいせつなことはなんだろう。</div>	◆ 問題文を児童とともに読み上げたり、挿絵に着目させたりすることで、具体的場面を正確に理解させる。 □ 電子黒板に挿絵を示すことで、問題を予想させ、学習への関心を高めるようにする。
考えをもつ⑤	3 課題に対する考えをもつ。	◆ これまでの学習をもとに、立式する際に大切なことを予想させることで、本時の学習の見通しをもたせる。
問いを解決する⑮	4 考えを共有し話し合う。	◆ 全体での話し合いでは、教師と児童との対話を通して出たキーワードとなる言葉を吹き出しで示すことにより、本時のねらいに迫る考えを視覚的に捉えさせるようにする。
まとめる・振り返る⑮	5 本時のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">わたっこさんだちえつくをすることがたいせつだ。</div> 6 学習したことを確かにし、本時の自身の取組を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 適用問題 ○ 学習内容の確認 ○ 自己評価 	◆ 吹き出しのキーワードをもとに、児童のつぶやきを拾いながらまとめるようにする。 ◆ 練習問題に取り組むことで、学びを自分のものにできたかどうかを認知させ、自己評価に生かせるようにする。 □ 電子黒板に児童の考えを示し全体で共有することで、本時の学びの定着を図る。 ◆ 「わたっこさんだ」を確認することの良さに気づかせ、今後の学習に生かそうとする意欲付けを図る。

ICT の具体的な活用

《児童・生徒》

- タブレットに記入した考えを他の児童と共有する際、電子黒板に示すことで、他の児童の考えに触れることができた。



《授業者》

- 電子黒板を活用することで、全体で共有する際、児童の考えを提示しながら、全員で考えを深めることができた。
- 児童の考え等を教師用のタブレットで把握することで、机間指導を効率的に行うことができた。



○ 評価の視点と方法

《視点》

- 問題を読んで、合併や増加の場面であることを正しくとらえて、たし算の式に表すことができたか。

《方法》

- ・観察 ・ノート ・タブレット
- ・適用問題

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

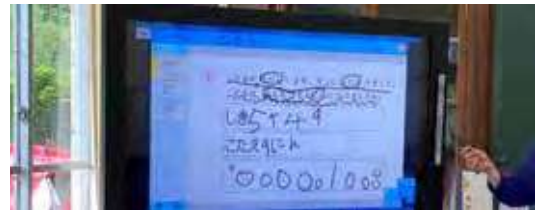
学習課題（問い）の工夫

- 挿絵から問題を予想したり、問題文を児童とともに読み上げたりすることで、具体的場面を理解させ、学習への意欲を高めるようにした。



対話的な学習活動の工夫

- 問題文と式や答え、挿絵を関連づけながら、全体で考えを共有する算数的活動を行うことで、本時のねらいに迫ることができるようになった。



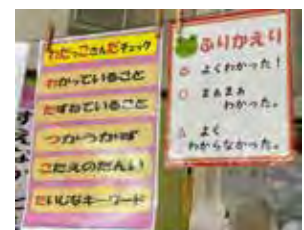
まとめ・振り返りの工夫

- 対話する際、キーワードとなる言葉を吹き出しで示すことにより、大切な考えを視覚的に捉えさせ、まとめの表現に生かせるようにした。



- 「わたっこさんだ」を確認することのよさに気づかせ、今後の学習に生かそうとする意欲付けを図った。

- 練習問題に取り組みさせることで、学習したことを自分のものにしたかどうかを◎○△で振り返らせ、認知できるようにした。



(2) 投影

【投影】

興味をもたせ、問題解決を図る

校 種	学 年	教 科	指 導 者
小	1	算数	堀内 順一

単 元 名	たしざん(1)
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ たし算の記号や式のみ方、かき方、計算の仕方を理解し、合併や増加の場면을たし算の式に表し、(1位数) + (1位数) = (10以下の数)の計算することができる。(知識及び技能) ○ 合併や増加の場면을、同じたし算と考えることができる。(思考力・判断力・表現力等) ○ たし算が用いられる場面に興味をもち、たし算の式に表せるよさを知り、進んでたし算を用いようとする。(学びに向かう力・人間性等)
本時のねらい	◎ 具体的な場면을たし算の式に表す。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問 い を つ か む ⑩	1 前時までの学習を振り返る。 2 本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">しきにかくときにたいせつなことはなんだろう。</div>	◆ 計算カードを使ったゲーム等をする事で、学習に対する意欲をもたせる ◆ 合併、増加のそれぞれの場面で数図ブロックの動かし方を確認する。 □ 電子黒板を使って、問題場面の絵を見せることで、興味をもって取り組めるようにする。
考 え を も つ ⑩	3 自力解決する。 ○式と答え	◆ 問題場面を見て、式と答えを書かせる。 ◆ 数図ブロックで答えのたしかめをさせる。 ◆ 自分で「わたっこチェック」ができている場合は、称賛する。
問 い を 解 決 す る ⑮	4 答え合わせをする。 ○「わたっこチェック」 わ…わかっていること た…たずねていること つ…つかう数字 こ…こたえにつく単位 5 練習問題をする。 ○ 問題文に必要な数字がたくさん出てきている問題	◆ なぜ、その式になったのか、根拠となる言葉や数字について確認する。その際、「わたっこチェック」について押さえる。 ◆ たし算になるキーワードにも着目させる。 ◆ わかりやすく説明するためには、数図も使うとよいことに気付かせる。 ◆ 問題文を読み、しっかり「わたっこチェック」をさせることで、式に必要な数字等に気付くことができるようにする。 □ 間違った式を電子黒板に提示することで、理解を深める。
ま と め る ・ 振 り 返 る ⑩	6 本時のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「わたっこチェック」をすれば、正しいしきにかくことができる。</div> 7 習熟問題に取り組む。 8 学習の振り返りをする。	◆ 学習課題を振り返り、本時の学習で分かったことを確認しながらまとめる。 ◆ 本時学習の理解度について振り返らせる。

ICT の具体的な活用

《児童・生徒》

発表ノートに自分の考えを書きこみ、自分とは違う考え方と比較することで、考えを深めることができた。



《授業者》

電子黒板を使って、問題場面の絵を見せることで、興味をもって取り組めるようにした。

間違った式を電子黒板に提示することで、理解を深めることができた。



○ 評価の視点と方法

《視点》

問題をよんで合併や増加の場面であることを正しくとらえて、たし算の式に表すことができたか。

《方法》

- ・ 発言
- ・ 発表ノート
- ・ 練習問題
- ・ 感想（振り返り）

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

前時までの学習を想起させ、問題文を式に表すときのポイントについて考えさせた。問題場面を提示することで、興味をもって課題に取り組めた。



対話的な学習活動の工夫

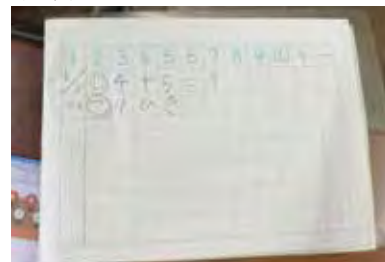
教師とのやり取りの中で、「わたっこさんだチェック」をすることのよさに気付かせることができた。また、式に表すのに関係のない数字がたくさん入った問題文を提示することで、本時のねらいに迫ることができた。



まとめ・振り返りの工夫

合併・増加の場面では、たし算の式に書くことができることを確認し、本時学習の理解度を◎○△で記入させた。

様々な場面を用意して、児童に式を書かせることで、習熟を深めることができた。



(2) 投影

【投影】 学習の関心を高め、課題を把握する	校 種	学 年	教 科	指 導 者
	小	1	算 数	末永 友美
単 元 名	ひきざん (2)			
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 繰り下がりのある計算の仕方について理解し、(十何) - (1位数) で、繰り下がりのある計算ができる。 (知識及び技能) ○ 減加法の考え方ができる。 (思考力・判断力・表現力等) ○ 繰り下がりのある計算に興味をもち、「10といくつ」という数の仕組みを用いるよさに気づき、進んで計算しようとする。 (学びに向かう力、人間性等) 			
本時のねらい	(十何) - (1位数) で繰り下がりのあるひき算について、数図ブロックをタブレット上で操作し、計算方法を見だし、10から引くことよさに気付くことができる。(思考力・判断力・表現力等)			

「西米良ならでは」の主體的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問 い を つ か む 5 分	1 問題を理解し、学習課題をつかむ。 ○ 問題把握 ○ 立式 2 本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 13-9は、どのようにけいさんすればよいのだろう。 </div>	◆ 挿絵に着目させたり、問題文を児童とともに丁寧に読み取ったりすることで、具体的場面を正確に理解させる。 □ 電子黒板に問題の挿絵を示すことで、学習への関心を高めるようにする。 ◆ ばらから一気に引けないことに気付かせ、児童の言葉をもとに学習課題を設定する。
考 え を も つ 10 分	3 課題に対する考えをもつ。 ○ 全体での見通し (方法) ・ ブロック図で (考え方) ・ どこから引くか ・ は・か・せ・どん ○ 個人思考	◆ 既習事項から解決方法を見だし共有することにより、自力解決への見通しをもたせる。 □ 児童用タブレットのブロック図に考えを記入させ、教師用タブレットで確認することで、話合いの流れを構築する。
問 い を 解 決 す る 20 分	4 考えを共有し話し合う。 ○ 視点 は：はやい か：かんたん せ：せいかく どん：どんなときでも	◆ 教師と児童との対話を通して出たキーワードとなる言葉を吹き出しで示し可視化することにより、本時のねらいに迫る考えを視覚的に捉えさせる。 ◆ ブロック図のまとまりとばらの色を変えることで、10のまとまりを意識させ、どこから引いたのかを捉えやすくする。 ◆ どの考えも称賛しながら、「は：速い、か：簡単、せ：正確、どん：どんなときでも」の視点を更に意識させ、10から引くことよさを実感させる。 □ 児童の考えを電子黒板で提示し、既習のキーワードを用いながら、考えを伝え合う活動を取り入れることで、考えを広げ深めさせる。
ま と め る ・ 振 り 返 る 10 分	5 本時のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 10のまとまりからひくとよい。 </div> 6 学習したことを確かにし、本時の自身の取組を振り返る。 ○ 練習問題 ○ 振り返り	◆ 吹き出しのキーワードをもとに、児童のつぶやきを拾いながらまとめるようにする。 ◆ 10のまとまりを意識して計算することよさに気付かせ、今後の学習に生かそうとする意欲付けを図る。 ◆ ワークシートで本時の学習を視点に沿って振り返らせ、自己の学習への取組を認知させる。

ICT の具体的な活用

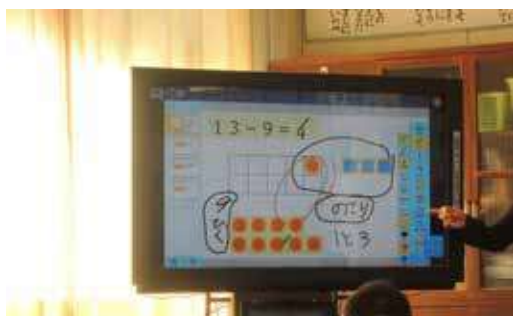
《児童・生徒》

- 配付された図を動かしたり、考えを容易に加筆修正したりすることで、自身の考えを視覚的に捉え整理することができた。
- 発表ノートに記入した考えを、電子黒板に示すことで、他の児童の考えに触れることができた。



《授業者》

- 電子黒板を用いることで、既習事項の振り返りや主問題の提示を効率よく行うことができた。
- 児童の考え等を教師用タブレットで把握することで、机間指導を効率的に行うことができ、ねらいに迫った学習過程を展開することができた。
- 電子黒板を活用することで、児童の考えを提示しながら、全員で共有し、考えを広げ深めることができた。



- 評価の視点と方法

《視点》

- ブロック図の操作を通して、計算方法を見だし、10のまとまりから引くよさに気付くことができたか。

《方法》

- ・観察 ・ノート
- ・タブレット（発表ノート）

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

- 挿絵から問題を予想したり、問題文を児童とともに読み上げたりすることで、具体的場面を理解させ、学習への意欲を高めた。



対話的な学習活動の工夫

- 問題文と式や答え、図を関連付けながら、全体で考えを共有したり、互いの考えを比較したことで得られた気づきを吹き出して板書し可視化したりすることで、児童の理解を促し、本時のねらいに迫る対話ができる。



まとめ・振り返りの工夫

- キーワードを示した吹き出しにより、大切な考えを視覚的に捉えさせ、児童の言葉を用いてまとめの表現に生かせるようにした。
- 「は・か・せ・どん」の視点により見いだした計算方法のよさに気付かせ、今後の学習に生かそうとする意欲付けを図るようにした。
- 1単位時間の学習を、単元を通して1枚のワークシートで、視点を設けて◎○△で振り返らせることで、単元を通して自己の変容を認知させるようにした。



(3) カメラ

【カメラ】

自分のノートを撮影し加工、全体で共有

校 種	学 年	教 科	指 導 者
小	4	学級活動	濱田 麻菜美

単 元 名	命を守ろう（性のひ害とか害）
単元のねらい	○ 性ひ害と、性か害が身近であることを理解できる。（知識及び技能） ○ 性ひ害を未然に防ぐ行動ができる。（思考力・判断力・表現力等） ○ 性ひ害を防ぐにはどうすればよいか考えを表現する。 （学びに向かう力・人間性等）
本時のねらい	◎ 性被害・加害が身近な問題であることを理解させ、被害を未然に防ぐための行動ができる。

「西米良ならでは」の主體的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問 い を つ か む ⑤	1 プライベートゾーン ○ プライベートゾーンについて確認する。 2 本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">性のひ害をさけるためにはどんなことに気をつければよいか知ろう。</div>	◆ プライベートゾーンは、他人に見せても、触ってもいけない場所ということ、押さえる。 □ 発表ノート 発表ノートを使用し、プライベートゾーンの理解を共有する。
考 え を も つ ⑩	2 性被害や性加害とは何かについて考えて、副読本を読み自由に発表する。 3 性犯罪のおきている時間、場所、年齢のグラフをみて、近くの人と話し合い性犯罪にあいやすい状況について話し合う。	◆ 副読本を音読させる。 ◆ 被害を受けている年齢・時間・場所などは自分たちに身近にあることに気づかせる。 □ グラフを電子黒板にグラフを写し出すことにより、情報を共有する。
問 い を 解 決 す る ⑳	4 性被害にあいそうになったとき、どのように対処すればよいか、発表ノートにまとめさせ、ロールプレイを実施する。	◆ 実際に変質者にあったときに、対応できるようにロールプレイで体験し、成功体験できるようにする。 □ ワークシートを記入しカメラ機能で撮影し、発表させる。
ま と め る ・ 振 り 返 る ⑩	5 本時のまとめふりかえりをする。 どのようなことに気をつければよいか、考えを発表しまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">性のひ害をさけるための行動をとろうとする意識をもてたか。</div>	◆ 日頃の自分の行動や態度を振り返り、性被害から身を守ることを常に心にとめて行動していけるようにする。 □ 発表ノートにまとめカメラ機能で写し発表する。

ICT の具体的な活用

《児童・生徒》

プライベートゾーンについて発表ノートを活用することで、全員がその間に対して参加しながら視覚的に確認することができた。



《授業者》

全員の考えを発表ノートの使用により、一瞬で把握することができた。

事前アンケートで、Googleフォームを使用し統計処理の負担を軽減した。



○ 評価の視点と方法

《視点》

性被害を知り、被害にあわないための行動は、どうしたらよいかという意識をもつことができた。

《方法》

ワークシートの振り返りに、今後の行動や気づきを記入することができる。

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

性の被害にあった、場所、時間、年齢のグラフを、ICTの利用をすることで、児童が手元で拡大しじっくり見ることができ、読み取りがよくなっていった。



対話的な学習活動の工夫

発表ノートで自分の考えをまとめ、全員で考えを共有し、実際にロールプレイを実践した。



まとめ・振り返りの工夫

振り返りの時間が十分に持てなかった。振り返りから逆算した時間管理、計画が必要だと感じた。



(3) 動画再生

【動画再生】 効果的な映像の活用	校種	学年	教科	指導者
	中	3	音楽	佐伯百合

単元名	音楽の要素を捉えながら
単元のねらい	○ 歌劇「アイダ」の音色、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりや音楽の特徴をその背景となる他の芸術と関連付けて理解するなどして、主体的に音楽のよさや美しさを味わって聴こうとする。
本時のねらい	◎ 各登場人物の思いを音楽の特徴と関連付けて、表現を味わって聴こうとする。 (鑑賞の能力)

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動【共通事項】	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問いをつかむ(5)	1 前時の学習を振り返る。 2 学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 各登場人物の思いを表現するための音楽の工夫をとらえよう。 </div>	<input type="checkbox"/> 歌劇や登場人物について画面で振り返る。 ◆ 「凱行進曲」の歌と歌、歌とオーケストラとの関係について確認させる。 ◆ 登場人物ごとの音楽の特徴について聴き取れることを伝え、本時の課題へ導く。 ◆ 知覚する「音楽の要素」を明確に示す。
考えをもつ(15)	3 声質の違いについて、気付いたことをワークシートに書き込み、意見を交換する。【音色】 4 歌い方の違いと曲想、演奏形態の変化についてワークシートに書き込み、意見を交換する。 【音色・旋律・テクスチュア】	<input type="checkbox"/> 映像で登場人物の表現を視聴させる。 ◆ 登場人物ごとの音高を確認させ、声質の違いを比較して聴き取らせ、意見を交換させる。 ◆ 語りのように歌うレチタチーボとアリア(歌)の歌い方の違いや曲想の変化を聴き取らせ、意見を交換させる。
問いを解決する(20)	5 思いを表現するために、どのような工夫がされているかをワークシートに書き込み、意見を交換する。 6 それぞれの登場人物の思いを書き、音楽の特徴と関わらせ、音楽表現について自分の考えを具体的に記述する。【音色・旋律・テクスチュア】	◆ 思いを表現するために、歌と歌及び歌とオーケストラの関係がどのように工夫されているかを聴き取らせ、意見を交換させる。 <input type="checkbox"/> まとめ方(文例)を画面で示す。 ◆ それぞれの登場人物の思いを音楽の特徴と関わらせ、音楽表現について自分の考えを詳しくまとめさせる。
まとめる・振り返る(10)	7 学習の内容をまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> (登場人物名)の〇〇な気持ちを(音楽の要素の働き)で表現していたところが、私は(自分の考え)と思った。 </div> 8 本時の学習を振り返る。	◆ まとめたことを発表し、他者の考えを自分の考えと比較しながらワークシートに別の色で書き込ませ、共有する。 ◆ 本時の学習の気づきを「学習の記録」に書かせる。

ICT の具体的な活用

《児童・生徒》

映像を視聴することで、歌劇に対する興味・関心を高め、音楽を他の芸術と関連付けて理解を深めた。



《授業者》

映像を視聴し、総合的な表現から登場人物の思いを読み取ることができるよう、また、まとめ方の文例を画面で示し、まとめる視点が明確になるように活用することができた。

発表の仕方(例)

(登場人物名)の〇〇な気持ちを(音楽の要素の動き)で表現していたところが、私は(自分の考え)と思った。

○ 評価の視点と方法

《視点》

各登場人物の思いを音楽の特徴と関連付けて、表現を味わって聴くことができたか。

《方法》

観察、ワークシート、発表、学習の記録(気づいたことの記述、自己評価)

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題(問い)の工夫

歌劇や登場人物について振り返り、歌と歌、歌とオーケストラの関係について確認し、登場人物の思いを表現するための音楽の工夫について、見通しをもたせることができた。

対話的な学習活動の工夫

それぞれの登場人物の思いを音楽の特徴と関わらせ、音高や声質、歌い方を聴き取って意見を交換する場を設定したことで、音楽表現について自分の考えをより詳しくまとめることができた。



まとめ・振り返りの工夫

各自がまとめたことを発表し、他者の考えを自分の考えと比較しながらワークシートに別の色で書き込ませることで、新たな気づきにつなげることができた。

「学習の記録」に毎時間、本時の学習の気づきを書かせ、本時の自己の学びを実感できた。

鑑賞の学習や別の音楽活動(歌唱・器楽・創作)にも学習したことを生かせるよう、活用方法を工夫していきたい。



(3) 動画再生

【動画再生】

撮影した自分の動きを客観的に観察

校種	学年	教科	指導者
中	1~3	保健体育	北林 雅也

単元名	器械運動（マット運動）
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ マット運動では、回転系の技を組み合わせるための基本的な技を滑らかに行い、同じグループや異なるグループの基本的な技の中から、いくつかの技を組み合わせで行うことができる。 ○ 器械運動に積極的に取り組むとともに、分担した役割を果たし、仲間の学習を援助できる。 ○ 課題に応じた練習方法を選択し、仲間の良い動きを指摘し合い、構成に適した技の組み合わせを見つけることができる。
本時のねらい	◎ 自己の課題を明らかにし、課題解決に向けた練習方法を考え、実践することができる。（思考・判断）（技能）

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT 活用の視点
問いをつかむ(5)	1 前時の要点を確認する。 2 学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ペア・グループで協力しながら自己の課題を見つけて練習しよう！ </div>	<input type="checkbox"/> マット運動の技の名称や行い方、ワークシートの使い方などを映像やスライドを用いて確認させる。 ◆ 技の見本の映像を見せ、自分の中で技のイメージをもたせることで、意欲を喚起し学習課題につなげる。
考えをもつ(15)	3 お互いのできない技を撮影し合う。 4 自己の課題を発見し、課題解決に向けた取組を考え、ペア・グループで意見を交換し合う。	<input type="checkbox"/> タブレットを用いて撮影した動画を見て自分の動きを確認させる。 ◆ できない技はなぜできないのか、どのようなことを意識すれば見本と同じ動きができるのかをしっかりと自分で考えさせる。 <input type="checkbox"/> 見本の動きをタブレットで繰り返し確認させることで技のポイントに気づかせる。
問いを解決する(20)	5 課題解決に向けて実践する。	◆ 自ら考えた課題解決に向けての取り組みを何回も実践させる。
まとめる・振り返る(10)	6 結果や考察をまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 自分はこの技ができて、課題は○ ○である。 </div> 7 本時の学習を振り返る。	◆ 見本の動きと自分の動きを見比べながらワークシートに○・△・×の3段階評価で自己評価を行わせ、考察を自分の言葉で書かせる。 ◆ 自分の言葉でまとめるように指示する。

ICT の具体的な活用

《児童・生徒》

タブレットを通じて見本の動きを確認したり、ペアになって試技の様子を撮影したりすることで、自分では見ることができない自分自身の動きを確認することができた。



《授業者》

ホワイトボードと電子黒板を用いて授業を進行することで、分かりやすく生徒に説明したり運動時間を確保したりすることができた。



○ 評価の視点と方法

《視点》

できる技とできない技を明確にし、自己の課題を考えることができたか。

《方法》

ワークシート（思考・判断）

タブレットで録画した動画（技能）

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

技の見本の映像を電子黒板に映して見せることで、技のイメージをもたせるとともに、興味をもって実践していこうという意欲を喚起することができた。



対話的な学習活動の工夫

各自で考えた課題解決に向けた取組についてペア・グループで意見を交換し合うことで、お互いの課題を発見しやすくさせることができた。



まとめ・振り返りの工夫

見本の動きと自分の動きを見比べながらワークシートに○・△・×の3段階で自己評価を行わせ、自分でまとめることによって自己の課題を見つけさせることができた。また、自己評価させることで自分の課題を見つけ出し次時の目標につなげていきたい。



(3) 追っかけ再生

【追っかけ再生・動画】

自分の課題を発見し、解決する

校種	学年	教科	指導者
小	4	体育	長崎 久美子

単元名	マット運動
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ マット運動の楽しさや喜びに触れ、基本的な回転技や倒立技ができる。 (知識及び技能) ○ 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。 (思考力・判断力・表現力等) ○ マット運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしようとする。 (学びに向かう力・人間性等)
本時のねらい	◎ 自分の力に合った後転技ができるようになる。

「西米良ならでは」の主體的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問いをつかむ	1 場づくりをする。 ・集合・整列・準備運動・場の準備 2 感覚づくりの運動をする。 3 前時の学習をふり返り、本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> きれいな後転なかまわぎができるようになる。 </div>	◆ 技に関連した動きを行うことで、基礎感覚を身に付けさせる。 ◆ 前時の学習から出た課題を振り返ることで、本時の課題につなげる。 □ 技のポイントとなる部分を動画やスライドを使って示すことで、練習の見通しをもたせる。
考えをもつ	4 自分の課題に応じた練習をする。	◆ 自分の課題に応じた場を選択できるようにする。 □ 遅延再生機能を活用し、自分の動きを視覚的・客観的に確認させる。 □ 技の見本を常時映像で見られるようにすることで、技のイメージをもたせる。
問いを解決する	5 グループで意見を交換し合う。 6 課題解決に向けた練習をする。	□ 動画撮影をし、視覚的に課題となるところや良くなったところを確認することができる。 ◆ 自分の課題を友達に伝えることで、自分自身の課題の確認と相手への視点とする。 □ スロー再生をすることで技のポイントとなる部分に注目させる。
まとめる・振り返る	7 本時の学習を振り返る。 ・集合・整列・整理運動・片付け	◆ 本時の学習を振り返り、練習を通してよくなったところを自分の目で確認できるようにする。 ◆ 全体で本時の学習を振り返り、共有する。

ICT の具体的な活用

《児童・生徒》

タブレットで動画を撮影したり遅延再生機能を使ったりすることで、自分の技を客観的に確認することができた。また、全体像だけでなく、技のポイントとなる部分に注目させることができた。



《授業者》

児童の技を動画でも確認することで、ポイントをおさえた指導を充実させることができた。



主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

前時の振り返りをもとに、自分自身の課題を明確にした。



対話的な学習活動の工夫

自分の課題（見てほしいところ）をグループの友達に伝えた。また、見ている方はよかったところや課題になることを伝え合うことで、楽しく課題解決に向けた練習に取り組めるようにした。



まとめ・振り返りの工夫

動画で自分の技を見ることで、課題となっていたポイントがどのように変わったかを振り返り、次時への課題につなげていった。



○ 評価の視点と方法

《視点》

技の習得のための課題を見つけることができ、課題解決のために練習をすることができる。

《方法》

観察、発言、学習カード

(4) 画面共有・画面比較

【画面共有・画面比較】 タブレットで思考を共有させる	校種	学年	教科	指導者
	中	2	理科	大塚 祐輔

単元名	電流の性質
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 直列回路と並列回路での豆電球の明るさの違いを調べようとする。 (自然事象への関心・意欲・態度) ○ 直列回路と並列回路での電圧の規則性を理解する。 (自然事象についての知識・理解) ○ 電圧計を使って、回路の各区間に加わる電圧を測定することができる。(観察・実験の技能) ○ 直列回路と並列回路での電圧の規則性を見いだすことができる。(科学的な思考・表現)
本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 実験の結果から、他者との対話を通して、直列回路と並列回路での電圧の規則性を見いだすことができる。 (科学的な思考・表現)

「西米良ならではの」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問 い を つ か む (5)	1 前時の学習内容を振り返る。 2 本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 回路に加わる電圧には、どのような規則性があるのだろうか。 </div>	<input type="checkbox"/> 電流の規則性や前時の実験内容を、教師用タブレットを用いて振り返る。 ◆ 前時の実験や電流の規則性を想起させることで、課題を解決するための一助とする。
考 え を も つ (10)	3 実験結果を分析し、規則性を考える。 ・ 個人で思考する。 ・ 班の中で意見を練り上げる。 ・ ワールドカフェ方式により、意見を他者に伝え合う。	◆ 個人思考、班での意見交流により、自分の意見をしっかりとらせ、自信をもって他者に伝えられるようにする。 <input type="checkbox"/> 他者との意見交流では、タブレットのグループワーク機能により画面の共有をさせ、後に考察をしやすいようにさせる。
問 い を 解 決 す る (20)	4 3つの班の考えを使って、個人で規則性を導き出す。 5 班で意見の交流を行ったのちに、全体で意見を交流する。	◆ ワールドカフェ方式により得られた3つ班の意見を使って、規則性を導き出させる。 <input type="checkbox"/> 3つの意見を比較しながら、規則性を導き、学習プリントにまとめさせる。 ◆ 自分の意見をもったうえで班、全体で意見を交流させる。 <input type="checkbox"/> 画面比較により、3つの班の意見を電子黒板に映し出し、全体で意見の交流をさせる。
ま と め る ・ 振 り 返 る (15)	6 本時のまとめを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 直列回路では、豆電球に加わる電圧の和が電源の電圧に等しくなり、並列回路では、電圧はどこも同じになる。 </div> 7 本時までの内容を振り返る。	◆ 生徒たちの考察をもとに、本時のまとめを行う。 ◆ 本時までの学習内容をもとに、家庭での電気配線が、直列回路か並列回路のどちらになっているかなど、新しく気付いたことについて振り返らせ、新たな問題の発見や解決につなげる。

ICT の具体的な活用

《児童・生徒》

タブレットで写真を撮ったり、グループワーク等の機能を用いたりすることで、実験の結果や話し合いの内容を容易に共有したり、課題の解決を行いやすくしたりした。



《授業者》

情報の共有や提示を効率よく行うことで、テンポよく授業を進行することができた。



○ 評価の視点と方法

《視点》

◎ 実験の結果から、他者との対話を通して、直列回路と並列回路での電圧の規則性を見いだすことができたか。

《方法》

・ 発言、発表、ワークシート、活動の様子、タブレット（思考・表現）

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

実験内容にほとんど差がなくても結果が異なることを対話により知り、その他違いを科学的に探究することで結論を導いた。

対話的な学習活動の工夫

異なる実験結果から得られた考察をもとに対話をし、課題の解決を目指すことで、一人の意見ではなく、全員の意見を踏まえたうえでの結論を導き出させた。



まとめ・振り返りの工夫

まとめにおいては、生徒の考察に出てくる言葉や文章を採用することで、自己存在感を与えるようにした。

振り返りについては、これまでの既習事項をもとに、家庭での電気配線が、直列回路か並列回路のどちらになっているかなど、新しく気付いたことについて振り返らせ、新たな問題の発見や解決につなげるとともに、学習内容が身近に利用されていることを知り、今後の学習の意欲付けにしたい。

(4) 画面比較

【画面比較】

事前・事後で考え方の違いを客観的に把握

校種	学年	教科	指導者
中	2	数学	安井 公彦

単元名	連立方程式
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 連立方程式を解くことに興味をもち、具体的な事象に活用して解決しようとする。 ○ 連立方程式の解法に気付き、具体的な事象に活用することができる。 ○ 連立方程式を加減法、代入法を用いて解くことができる。 ○ 連立方程式とその解の意味について理解している。
本時のねらい	◎ 複雑な連立方程式を簡単な形にして解くことができる。(数学的な技能)

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問 い を つ か む (13)	1 連立方程式の小テストをする。 2 課題①、②を確認し、学習課題を把握する。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;">課題①</div> $\begin{cases} 4x - y = 13 \\ 2x - 3(1 - y) = 0 \end{cases}$ </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;">課題②</div> $\begin{cases} x = 2y + 5 \\ \frac{x}{3} - \frac{y}{2} = 2 \end{cases}$ </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;">学習課題</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 5px;">複雑な形の連立方程式は、どのように解いたらよいだろうか</div> </div>	◆ 小テスト実施により既習事項の復習をさせる。 □ 課題①、課題②を電子黒板に提示し、今までの問題と異なる形であることを認識させ、学習課題を提示する。
考 え を も つ (6)	3 課題①、②について個で考える。 ノートに問題を貼り、考える。	◆ 計算をさせ、その過程を残すよう促す。
問 い を 解 決 す る (16)	4 タブレットでノートを写し、記録した後、自由に交流し、他の生徒の考え方を知る。 5 自分の考えをまとめ、写真に残す。 6 考えを発表する。	□ 話し合う前の自分の考えをタブレットで写真に撮り記録しておく。必要に応じて、他の生徒の考えを写真に残しておくよう促す。 ◆ 自分の言葉で説明ができるように促す。 □ 自分のタブレットを使って、話し合いの前後について変容を踏まえて発表させる。
ま と め る ・ 振 り 返 る (15)	7 まとめを考える。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;">まとめ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 5px;">(例) 簡単な式にしてから解く。</div> </div> 8 練習問題を解く。	◆ 生徒の言葉でまとめを考えさせる。 ◆ 机間指導を行う。

ICT の具体的な活用

《児童・生徒》

話し合いの前後の自分の考えや参考となる友人の解き方を写真に記録し、自分の振り返りに役立てることができた。



《授業者》

問題を提示し、既習内容とは異なる形であることを気付かせ、考えを深めさせることができた。



主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

複雑な式の問題を先に提示することで、解決のための手段を考え、より効果的に学習課題を捉えさせることができた。

対話的な学習活動の工夫

ノートを使って、自分の考えを示し、質問に答えられるようにさせることで、自分の考えを整理し、まとめた。また、他者の考え方を知り、自分の方法と比較し、新しい考えに気付かせることができた。



まとめ・振り返りの工夫

生徒の言葉でまとめを行わせることで、より理解を深めさせる手立てとなったと考えた。

再度、同じ問題や類題を解き、定着を図るようにした。

○ 評価の視点と方法

《視点》

複雑な連立方程式を加減法、代入法ができるよう簡単な形にして解くことができたか。

《方法》

- ・観察、ノート、自主学習（技能）

(5) 発表ノート（デジタルノート）

【発表ノート】 実験の様子を写真や動画におさめ、確認する	校 種	学 年	教 科	指 導 者
	中	3	理科	大塚 祐輔

単 元 名	酸性やアルカリ性の正体
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 酸性やアルカリ性の水溶液に興味を示し、その性質のもとを調べようとする。 ○ 酸性やアルカリ性の水溶液に共通した性質のもとを調べる実験を、正しく安全に行うことができる。 ○ 酸性とアルカリ性の水溶液の共通した性質のものが、水素イオンと水酸化物イオンであることについて理解する。 ○ 酸性を示すもとは水素イオン、アルカリ性を示すもとは水酸化物イオンであることを結果から考察し、根拠を示しながら説明することができる。
本時のねらい	◎ 酸性を示すもとは水素イオン、アルカリ性を示すもとは水酸化物イオンであることを結果から考察し、根拠を示しながら説明することができる。

「西米良ならではの」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問 い を つ か む (5)	1 前時の学習内容を振り返る。 2 本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 酸性、アルカリ性の性質を示すもとなるものは何だろうか。 </div>	<input type="checkbox"/> タブレットの発表ノートを用いて、酸性の水溶液とアルカリ性の水溶液の分類を行う。 ◆ 酸性やアルカリ性の水溶液について想起させることで、課題を解決するための一助とする。
考 え を も つ (10)	3 実験の結果を予想し、実験を行う。	◆ 予想を立てさせることで、変化が起こることが考えられる部分に着目させる。 <input type="checkbox"/> 考察を行う際に、実験の結果を振り返ることができるように、写真や動画の撮影をさせる。
問 い を 解 決 す る (20)	4 結果をもとに、個人で考察を行う。 5 グループでの考察を行い、グループを再編成後、再び考察を行う。	<input type="checkbox"/> 撮影した写真を加工したのち、発表ノートに貼って印刷させる。 ◆ 実験の結果を自分なりに考察させ、自分の意見をもったうえでグループでの考察を行う。 ◆ 班の再編成により、異なる結果を用いた考察が集まることで、話し合いを活性化させ、協力して課題を解決させる。
ま と め る ・ 振 り 返 る (15)	6 全体で考察を共有し、学習課題に対する結論を導く。 7 電離式をもとに、その他の酸・アルカリについても確認する。 8 本時のまとめを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 酸性を示すもとは水素イオン、アルカリ性を示すもとは水酸化物イオンである。 </div> 9 本時の内容を振り返る。	<input type="checkbox"/> 班の意見を発表ノートにまとめさせ、それを電子黒板に映し出し、全体で共有する。 ◆ その他の酸性、アルカリ性の水溶液の電離式を書かせ、酸性では水素イオンが、アルカリ性では水酸化物イオンを生じることを確認させる。 ◆ 生徒たちの考察をもとに、本時のまとめを行う。 ◆ 理科ノートの右側の問題を解いて、本時の学習内容を確認させる。

ICT の具体的な活用

《児童・生徒》

タブレットを用いて、実験の様子や結果を記録することで、考察において意見の交換を行いやすくなった。



《授業者》

ICT 機器を活用し、情報の共有や提示を効率よく行うことで、テンポよく授業を進行することができた。



○ 評価の視点と方法

《視点》

- ・ 酸性を示すものは水素イオン、アルカリ性を示すものは水酸化物イオンであることを結果から考察し、根拠を示しながら説明することができた。

《方法》

発言、発表、ワークシート、活動の様子、タブレット（発表ノート）

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

今まで何気なく分類してきた水溶液について、これまでの学習内容をもとに、振り返ることで、科学的に探究させることができた。



対話的な学習活動の工夫

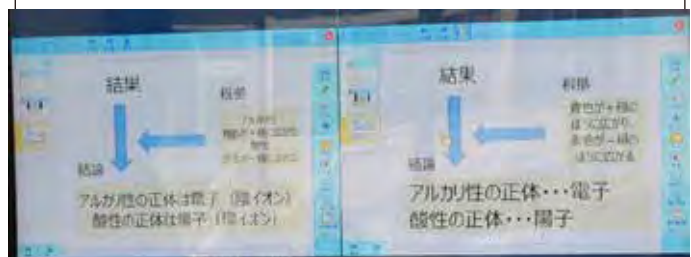
異なる実験方法や結果、考察などをもちより、課題の解決を目指すことで、一人の意見ではなく、全員の意見を踏まえたうえでの結論を導き出させることができた。



まとめ・振り返りの工夫

まとめにおいては、生徒の考察に出てくる言葉や文章を採用することで、自己存在感を与えるようにした。

振り返りについては、理科ノートの問題と授業のワークシートを対応させることで、復習ややり直しを行いやすくし、理解を深めさせることができた。



(5) 発表ノート（デジタルノート）

【発表ノート】 児童の考えを把握、互いに把握させる	校種	学年	教科	指導者
	小	2	算数	甲斐 香代子

単元名	図をつかって考えよう
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 加法や減法の用いられる場面について理解し、数量の関係をテープ図に表すことができる。(知識及び技能) ○ 逆思考を必要とする問題について、数量の関係をテープ図に表すことができる。(思考力・判断力・表現力等) ○ テープ図のよさに気づき、問題解決の際に進んで図を用いようとする。(学びに向かう力・人間性等)
本時のねらい	◎ 増えた数を求める逆思考の問題をテープ図にかいて考え、解くことができる。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問 い を つ か む ⑤	1 前時の学習を振り返る。 2 本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 何人来たか、テープ図を使って考えよう。 </div>	◆ わかっていること、たずねていることをしっかり押さえ、解決の見通しをもたせる。 □ デジタル教科書を活用して、問題場면을提示する。
考 え を も つ ⑬	2 自力解決する。 ○テープ図を使って ○式と答え	◆ 教師が用意したテープ図の枠を配布し、それぞれの部分が何を表すか、言葉や数を当てはめる。 ・はじめの数 24 人 ・来た数□人 ・ぜんぶの数 35 人 ◆ 早く終わった児童は、テープ図をノートに書く練習をさせる。 □ 自分の考えを発表ノートに書きこむことで、児童一人ひとりの考えを把握し、共有させる。
問 い を 解 決 す る ⑮	3 友達と考えを共有し、問題を解く。	◆ 友達の考えたテープ図と式をみんなで共有し、どのテープ図と式が合っているかについて練り合う。
ま と め る ・ 振 り 返 る ⑩	4 本時のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> テープ図を使って考えると、分かりやすい。 </div> 5 練習問題をする。	◆ テープ図を使って考えると、問題が分かりやすいことを押さえ、テープ図を使って解くことのよさを児童から引き出す。 ○ ②の練習問題をさせ、テープ図と立式を自力解決できたかを確認する。

ICT の具体的な活用

《児童・生徒》

- デジタル教科書を用いて、問題場面を押さえた。
- 自分の考えを発表ノートに書きこむことで、児童一人ひとりの考えを把握したり、共有したりした。



《授業者》

- テープ図に入れる言葉や数をみんなできちんと押さえてから、テープ図を書かせた。
- ①はじめの数 24人
②来た数 □人
③ぜんぶの数 35人



- 評価の視点と方法

《視点》

問題を読んでテープ図をかき、立式して解くことができたか。

《方法》

発言、発表ノート、学習ノート、練習問題

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

- 問題場面の分かっていること、たずねていることを押さえて、何算になるか見通しをもたせた。
- 前時を思い起こさせ、テープ図を使って解けないかを考えさせた。



対話的な学習活動の工夫

- 自分の考えや友達のことを画面で共有することによって、どのテープ図が正しいかを意見を交流した。



まとめ・振り返りの工夫

- テープ図を使うと問題が分かりやすい、式を考える助けになる、というテープ図のよさを児童から引き出させた。
- テープ図を使って習熟問題を解くことができたかを把握した。



(5) 発表ノート（デジタルノート）

【発表ノート・マーキング】 教師の提示した資料への書き込み	校種	学年	教科	指導者
	中	2	保健	吉田 香菜

単元名	スポーツの安全な行い方
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツが体と心に及ぼす効果について理解できる。 ○ スポーツのルールやマナーとはどのようなものかについて理解するとともに、スポーツに関わることでどんな社会性が身に付くかについて理解できる。 ○ スポーツの安全な行い方に関心を持ち、自らスポーツを行う際に、安全に行おうとしている。
本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 運動やスポーツの技能と体力の関係について、比較したり、分類したり、まとめたりするなどして、説明している。【運動についての思考・判断】 ◎ 運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方について、理解したことを言ったり書き出したりしている。【運動についての知識・理解】 ◎ 適切な対応について理解しようとし、実際に処置を行うことができる。【関心・意欲・態度】

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動【共通事項】	◆授業づくりの視点 □ICT 活用の視点
問いをつかむ (5)	1 前時の学習を振り返る。	◆ 運動やスポーツでけがをしたり危険な体験をしたりしたことを思い出させ、自分の生活に置き換えることでより問題意識をもたせる。
	2 学習課題をつかむ。	
安全にスポーツを行うにはどんなことに留意する必要があるだろうか。		
考えをもつ (15)	3 安全にスポーツを行うためのスポーツ活動の条件について理解する。	◆ プロのアスリートと中学生を例に、どのような違いがあるか気づかせ、活動計画が重要だということを理解させる。 □ スポーツ振興センターのデータからけがや事故が多い年代・スポーツの種目を読み取らせる。 □ 発表ノートで、けがの種類と応急処置について振り返らせ、適切な処置について再確認させる。 【擦り傷・突き指・火傷・鼻出血】
	4 どんな時にけがが多いのかを理解し、運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方について意見を出し合う。	
問いを解決する (20)	5 RICE 処置について学び、実際に手当てができるようにする。	□ 実際に包帯等を使って見本を示し、さらに電子黒板に RICE 処置のイラストを示す。 ◆ クラスメートと実際に手当てをしあうことで、より切実感をもたせる。また、する側とされる側でアドバイスをしあうことによって、処置についての理解を深めさせる。
	6 野外スポーツを安全に行うためには何に気を付ける必要があるか理解する。	
まとめる・振り返る (10)	7 学習の内容をまとめる。	◆ ノートを使って復習を行う。
	安全にスポーツを行うためには適切な活動条件を決め、自己の体調管理に留意する必要がある。	
	8 単元の学習を振り返る。	

ICT の具体的な活用

《児童・生徒》

どんな時にどんな怪我があったかを思い出すことで、より自分のこととして考えることができた。また、けがの種類と応急処置についての組み合わせを発表ノートを使って振り返ることで、適切な処置について再確認することができた。



《授業者》

生徒の考えや意見を短時間で把握することができた。また、スポーツ振興センターのデータから、けがや事故が多い年代・スポーツの種目を視覚的に読み取らせ、共通点や相違点などに気づかせることができた。

実際に目の前で RICE 処置を行って見せることで体を使って覚えさせることができた。



○ 評価の視点と方法

《視点》

- ・ 運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方について、理解したことを言ったり書き出したりしていたか。
- ・ 適切な対応について理解しようとし、実際に処置を行うことができたか。

《方法》

- ・ 発表、発表ノート（思考・判断）
- ・ RICE 処置（関心・意欲・態度）
- ・ 保健ノート（知識・理解）

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

運動やスポーツでけがをしたり危険な体験をしたりしたことを思い出させるなど、自分の生活に置き換えさせることで、より問題意識をもたせることができた。

先月実施した「心肺蘇生法」で学んだことを、関連付けて発言した生徒の意見を大切にすることで、ただのけがの処置ではなく「一次救命処置」に繋がるという認識をもたせることができた。

対話的な学習活動の工夫

実際に自分たちの体を使って RICE 処置をやってみることで、体で学び、生徒同士の対話がより自然なコミュニケーションにつながった。また、処置をする側とされる側でアドバイスをしあうことによって、より処置についての理解を深めることができた。



まとめ・振り返りの工夫

どんな時にけがが多いのかを理解し、運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方について意見を出し合うことができた。

実際に包帯等を使って見本を示し、さらに電子黒板に RICE 処置のイラストを示すなどして、「自分たちにも十分できる」という認識をもたせることができた。

けがや病気は未然に防ぐことができるといったことにも着眼させ、自己の生活を振り返るところまでつなげられたらよかった。

(5) 発表ノート（デジタルノート）

【発表ノート・画面比較】

多様な意見を視覚的にとらえさせる

校種	学年	教科	指導者
中	2	社会	小川 倫史

単元名	世界から見た日本の姿
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界的視野から日本の資源・エネルギー消費の現状を理解するとともに、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題について学習し、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を大観できる。 ○ 鉱産資源の産出量やエネルギー消費量の多い国は、世界的に偏って分布していること、日本は鉱産資源やエネルギーの消費量の多い国の1つで、鉱産資源の大部分を輸入に依存していることに気づくことができる。 ○ 日本の産業の特色を農林水産業、工業、商業、サービス業等の産業分野から捉え、それぞれの産業が抱える課題について考察できる。 ○ 食料自給率に関する問題や資源・エネルギー問題および環境問題などについて関心を高めるとともに、多様な見方や意見があることに気づくことができる。
本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 農産物や水産物の輸入が急増したことによる食料自給率低下がもたらす問題に興味をもち、これからの日本の農業の在り方について具体的に考えることができる。 (関心・意欲・態度) ◎ 日本が世界有数の木材輸入国になっている現状を理解するとともに、日本の林業の課題を国土の保全や世界の森林減少という環境問題と関連づけて考えることができる。 (思考・判断・表現)

「西米良ならでは」の主體的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点				
問いをつかむ(10)	1 教科書を読む。 2 日本とアメリカの農業の違いを復習する。 3 学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">○ 日本の農林水産業には、世界と比べてどのような特色があるのだろう。</div>	◆ 教科書を読ませている間に予習の確認をする。 □ アメリカと日本の農業のスケールの大きさを電子黒板で比較して1年次の学習内容を復習する。				
考えをもつ(5)	4 グループに分かれて見通しを持たせる。 ① 日本の農業の特色と課題 ② 日本の林業の特色と課題 ③ 日本の漁業の特色と課題	◆ 自分の担当の課題について予想を立てさせる。 ◆ 表にまとめられるようにさせる。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>日本の農業の特色</td> <td>農業の課題</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	日本の農業の特色	農業の課題		
日本の農業の特色	農業の課題					
問いを解決する(20)	5 ①～③のうち、与えられた課題について調べる。 6 まとめた課題を発表する。	□ 教科書やインターネットを使用してまとめさせる。 □ タブレットでまとめたものを使用して発表させる。				
まとめる・振り返る(15)	7 本時のまとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ○農業・・・近郊栽培、促成栽培など様々な栽培方法があり、安い外国産の輸入により、食料自給率の低下が課題である。 ○林業・・・針葉樹が家に使われているが、林業従事者（後継者）不足が課題である。 ○漁業・・・世界有数の水産国、排他的経済水域の設定により、漁獲量減少が課題である。 </div> 8 日本の農業、林業、漁業から1つ選び、その産業を海外にPRするためのキャッチフレーズを考える。	◆ 電子黒板で重要語句を確認しながらまとめる。 ◆ キャッチフレーズが思い浮かばないことが考えられるので、各産業の特色を理解したことをもとに、キーワードを出させて考えさせる。 (例)捕る漁業から育てる漁業				

ICT の具体的な活用

《児童・生徒》

タブレットを使用して調べ学習をすることで生徒の学習意欲を高めることができた。また、**タブレットを活用して発表させたことで、表現力を高め、可視化によって理解が深まった。**



《授業者》

ICT 機器を活用したことで、日本の農業の大きさとアメリカの農業の大きさを比較することができた。また、多様な意見を効率よく整理・集約して練り合う協働学習を行えた。さらに、時間短縮にもつながった。



○ 評価の視点と方法

《視点》

農産物や水産物の輸入が急増したことによる食料自給率低下がもたらす問題に興味をもち、これからの日本の農業の在り方について具体的に考えることができたか。

日本が世界有数の木材輸入国になっている現状を理解するとともに、日本の林業の課題を国土の保全や世界の森林減少という環境問題と関連づけて考えることができたか。

《方法》

- ・ 観察（関心・意欲・態度）
- ・ 発表（思考・判断・表現）

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

初めにアメリカの農業と日本の農業と比較するために、トラクターなどの機械の大きさや資料を比較させることで、日本の農林水産業の特徴に興味をもたせた。また、そこから生徒に課題を知りたい、調べたいと思う知的好奇心をもたせた。



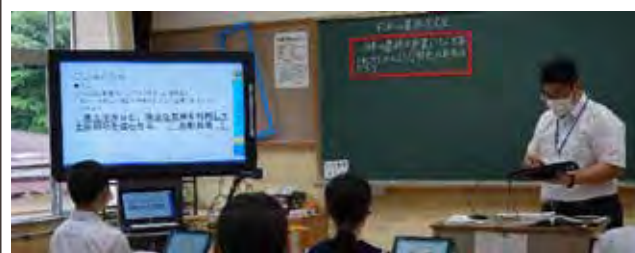
対話的な学習活動の工夫

協働学習により、自分の考えと、他者の考えを関連付けたり、自分の考えが最適解かどうかを確認したり、新たな課題を探究することができた。



まとめ・振り返りの工夫

教師側が作成したまとめで確認したことで、時間が短縮され、学習内容が可視化され、理解を深めるつもりだったが、内容が多く、生徒の理解、振り返りに課題が残った。また、まとめを受けて「日本の農業、林業、漁業を海外に PR するためのキャッチフレーズを考えさせた」ことで、日本の産業を多面的にとらえたり、多角的に物を見たりする視点につながられた。



(5) ノートの配布

【ノートの配付】	校種	学年	教科	指導者
	小	5	社会	長崎 雄史

資料を提示し問いをつかむ

単元名	わたしたちの食生活を支える食料生産
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 我が国の米の生産は自然条件を生かして営まれており、生産者の努力を理解することができる。(知識及び技能) ○ 米の生産等にかかわる人々の努力や工夫をとらえ、調べたことや考えたことを表現することができる。(思考力・判断力・表現力等) ○ 米の生産等にかかわる人々の努力・工夫について意欲的に追求し、考えて表現しようとする。(学びに向かう力・人間性等)
本時のねらい	◎ 庄内平野の写真・土地利用図、グラフなどを関連付けて読み取り、庄内平野の地形や気候の様子をとらえ、米作りが盛んなわけを考えることができる。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問いをつかむ ⑤	1 前時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 前時に東北や北海道で米作りが盛んであることについて学習したことを確認する。 □ 鶴岡市と気仙沼市を地図で確認し、位置や気候(気温)の面で同じ条件であることに気付かせる。認識のズレをもたせることで学習問題につなげられるようにする。
	2 本時の学習課題を知る。 庄内平野では、なぜお米がよくとれるのだろう。	
考えをもつ ⑬	3 予想をする。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ これまでの学習や生活経験をもとに、お米がよくとれる条件の予想を立てさせる。 □ 発表ノートで資料を送り、考えをもたせる。 ◆ 発表ノートの資料を見て、米がよく育つ条件はどのようなことか考える。 ◆ 「考えテクニック」の中でも「比較する」「理由づける」の考え方が必要であることを理解させる。
	4 資料から、米作りが盛んな理由について考える。 ・ 広い土地 ・ 豊富な水(川) ・ 日照時間	
問いを解決する ⑳	5 話し合いの中で問題を解決する。 ・ 個→グループ→全体	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 他のグループの発表を聞いて、米がよく育つ条件につながるのかについて、これまでの経験から納得できるかという視点で考えさせる。 ◆ 米がよく育つ条件を提示し、既習事項で解決できることを伝え、想起させる。
	6 季節風の影響について考える。	
まとめる・振り返る ㉑	7 本時のまとめをする。 地形や気候が米作りに適している。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「地形」「気候」をキーワードとして与え、自分でまとめるようにさせる。 ◆ 宮崎県の米作りでも同様のことが言えるかどうか確認する。 ◆ 振り返りの視点をもたせることで、本時の学習について効果的に振り返られるようにする。
	8 身近な地域でも同じことがいえるか考える(一般化する)。	
	9 振り返りをする。	

ICT の具体的な活用

《児童・生徒》

合成機能を活用することで、自分たちの意見をまとめ、その後の発表につなげられるようにした。しかし、グループでまとめていくうちに、消えてしまった意見もあり、グループワークの在り方に課題が残った。



《授業者》

発表ノートに資料を貼ることで、児童一人一人が資料と向き合えるようにした。

児童の意見を把握することができるように、電子黒板に児童の意見を投影するようにした。



○ 評価の視点と方法

《視点》

庄内平野の地形や気候の様子を資料から読み取り、そこから米がよく育つ条件を理由づけて考え、表現することができる。

《方法》

子どもの発言・ノート・タブレット

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

前時に作った問いを提示し、これから学習していくことの見通しをもたせた。また、既習事項や生活経験からもっている認識とズレをもたせることで学習問題につなげられるようにできた。



対話的な学習活動の工夫

考える視点として「理由づける」ことを意識させ、話し合いの際に何を考えなければならないかを確認できるようにした。

「米がよく育つ条件」につながるかどうかという話し合いの視点をもたせた。そのことによって資料から読み取ったことが必要な情報かどうかを考えさせるようにできた。



まとめ・振り返りの工夫

キーワードを提示し、自分でまとめられるようにさせた。また、身近な地域でも同じことがいえるのかということについて考え（一般化）習熟を図ることができた。

振り返りをするときには、振り返りの視点を示し、その中から選んで振り返りを行うようにした。ただ、振り返りの時間が短く、考えが深まらなかったように感じた。

(6) グループワーク

【グループワーク】

他者と交流しながら共同作業

校種	学年	教科	指導者
小	3	社会	山崎 美佳

単元名	わたしたちが住む西米良村
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近な地域や村の様子について理解できるとともに、観察・調査して必要な情報を集めたり、地図などの資料から読み取ったり、地図記号を使って白地図などにまとめたりする技能を身に付けることができる。 (知識及び技能) ○ 身近な地域や村の様子をとらえ、場所による違いを考え、表現する力を育てることができる。 (思考力・判断力・表現力等) ○ 学習問題の解決に向けて意欲的に追究するとともに、これまでの学習を振り返り、地域社会についての理解を踏まえて、村に対する誇りと愛情を養うようにする。 (学びに向かう力・人間性等)
本時のねらい	◎ 西米良村全体の地図を見て、場所による生活の様子の違いに気づき、住んでいる村の様子について自分の考えを表現することができる。

「西米良ならではの」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問いをつかむ⑤	1 前時の学習を振り返る。 ○ 見学してまとめている地図を見て、振り返る。 2 本時の学習課題を知る。 西米良村全体は、どんな様子なのだろう。	◆ 見学してきた村の様子について、まとめていくことに見通しを持たせる。 □ 各地区の見学に行ったことを思い出すために、グーグルマップの航空写真で地図を示したり、発表ノートにまとめている地図を見たりして、どんな様子だったかを思い出す。
考えをもつ⑬	3 西米良村全体について ○ これまでに調べてきた村の様子を振り返り、気づいたことを記入する。	◆ これまでに調べてきた資料をもとに、気づいたことをまとめていくようにさせる。 □ 気づいたことを発表ノートのマッピング機能を使い、記入する。
問いを解決する⑮	4 学習課題について話し合う。 ○ これまでに調べてきた村の様子を振り返り、友だちと話し合う。 ・気づいたこと	◆ 友達の気づいたことと自分の気づいたことを比べて、村の様子をまとめていく。 ◆ 村の東西南北で分けて考えさせる。 □ グループワーク機能を使い、友達の考えを聞いて考えを共有する。
まとめる・振り返る⑩	5 本時のまとめをする。 西米良村は、場所によって土地の使われ方にちがいがああり、いろいろな場所があった。 6 振り返りをし、今後につなげる。 ○ 村の土地の使われ方の特徴として紹介したいところを考える。	◆ これまでの学習を振り返り、住んでいる村の様子について表現できるようにする。 □ 西米良村内にある観光案内図を投影し、村の人の思いに気づき、紹介したいところが案内図につながることを伝える。

ICT の具体的な活用

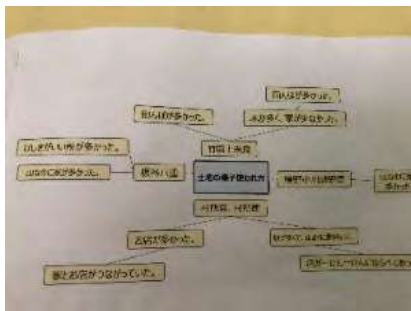
《児童・生徒》

- 自分のまとめてきた発表ノートを活用して、村の各地区の特徴を考えた。
- マッピング機能で村の様子についての気づきをまとめていき、グループ機能を使いながら、友達のことを参考にする事ができた。



《授業者》

- 見学で用いたワークシートを画像化し地図を合成させることで、村全体の様子をまとめさせた。
- グーグルマップを使うことで、村の様子について考える意欲を持たせるようにした。
- 合成した地図とマッピング機能の書き込み配置を同じにすることで、行った場所を分かりやすく整理した。



○ 評価の視点と方法

《視点》

これまでに学習したことをマッピングにまとめ、村の場所による違いについて話し合うことにより、住んでいる村の様子を表現しているか。

《方法》

子どもの発言や発表ノート

主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

- 見学してきた場所を航空写真で見ることで、村の様子について、まとめていくことに見通しを持たせた。
- 自分が自信をもって言える地区の紹介を合成機能で示し、意欲付けを行った。



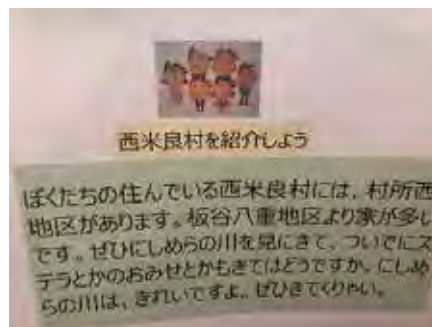
対話的な学習活動の工夫

- 村の様子について友達のことを共有し、村の各地区の土地の使い方の特徴を見つけ、紹介したい内容を考える手立てとさせた。



まとめ・振り返りの工夫

- 土地の使い方の特徴を紹介したい内容を考え、発表することで、住んでいる村に対する誇りと愛情を高める手立てとした。



西米良村を紹介しよう

わたしたちの住んでいる西米良村には、地区一つ一つにちがうところがあります。竹原には、たな田がたくさんあって、村西には家がすばいあります。また、小川は、山がきれいなんです。わたしは、川がすばいです。なぜかという理由は、山がきれいだからです。ぜひ、いらしてみてください！

(6) グループワーク

【グループワーク】

まとめたものを友達と共有・分類する

校種	学年	教科	指導者
小	3	総合	山崎 美佳

単元名	西米良の美味しいもの ～ジビエ調査隊～
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 西米良の食に携わる人々がどのような活動をしているのか、その中には様々な思いや願いがあることに気付き、情報を比較・分類・関連付けるなど探究の過程に応じた技能を身に付ける。 (知識及び技能) ○ 西米良の食について、課題を設定し、課題解決のための情報を収集、比較、分類する、関連付けるなどして、相手に分かりやすく伝わるようにまとめ表現する。 (思考力、判断力、表現力等) ○ 地域の人々の活動に触れ、関心をもち、自ら関わろうとする。 (学びに向かう力、人間性等)
本時のねらい	作成のポイントをもとに見直すことにより、よりよい発表ノートを作成することができる。(知識及び技能)

「西米良ならではの」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問いをつかむ5分	1 前時の学習を振り返る。 ○ 前時までに作った発表ノートを見て、振り返る。 2 本時の学習課題を知る。 西米良のジビエについて、分かりやすく伝えるためには、どのようにまとめればよいのだろうか。	◆ 今まで作ってきた発表ノートを振り返り、問題点はないかについて考えることで、本時の学習課題につなげることができるようにする。 □ 今までのことを思い出すために、ビデオ、写真、WEBページを見て、情報収集をしてきた内容を思い出すようにする。
考えをもつ10分	3 ジビエについて調べたことで何を伝えたいのかを考える。 ○ これまでに調べてきたジビエについて振り返り、自分の発表ノートを見て、気付いたことを記入する。	◆ これまでに調べてきた資料をもとに、気付いたことをまとめていくようにさせる。 □ マッピング機能でまとめたものと、付箋を見比べて、書き足りないことはないか、削除する内容はないか、検討させ、自分の発表ノートに追加記入させる。 □ これまでの体験や取材でのビデオの内容、写真等を活用できるようにさせる。
問いを解決する20分	4 学習課題について話し合う。 ○ これまでにまとめたジビエについての発表ノートを振り返り、グループで話し合う。 ・同じ内容でまとめる。 ・短くわかりやすく書く。 ・写真や絵を入れる。 ○ 他のグループとも相互に見せ合い、アドバイスをもらう。	◆ 友達のノートと自分のノートを比べて、ジビエについてまとめていくようにする。 ◆ 友達と話し合い、よりよいノートにしていくようにする。 □ タブレットのグループワーク機能、画面合体機能を使い、友達のまとめたものと自分のまとめたものを共有、分類させる。 ◆ アドバイスタイムを設け、他のグループの友達からもアドバイスをもらう。
まとめる・振り返る10分	5 本時のまとめをする。 西米良の特色を生かしながら、作成のポイントを使ってまとめるとよい。 6 振り返りをし、今後につなげる。 ○ 作った発表ノートから紹介したいところを考える。	◆ 作成のポイントに沿って、「村人の思いは入っているか」、「分かりやすくなったか」、「写真や絵、資料等を活用できているか」について考えるようにする。 ◆ 作成初めの発表ノートと見比べて、よくなったところを実感するようにさせる。 ◆ 今後の発表の準備へ向けて、本時で学習したことを生かせば調べたことがうまく伝わる発表内容になることを伝え、意欲の継続を図る。

ICT の具体的な活用

《児童・生徒》

- 発表ノートに、ジビエについて分かったことをまとめた。
- **タブレットのグループワーク機能、画面合体機能を使い、友達のまとめたものと自分のまとめたものを共有、分類した。**



《授業者》

- 導入時に、今まで集めてきた資料を電子黒板で提示し、内容を確認させた。
- 児童の作業中に、電子黒板で児童の発表ノートを投影しておき、分かりやすいノートになっているか確認できるようにした。
- ビデオを見るコーナーを設け、児童が見たいときに確認できるようにした。



○ 評価の視点と方法

《視点》

作成のポイントに沿って、発表ノートの内容が明確になり、分かりやすい発表ノートにすることができたか。

《方法》

- ・子どもの発言
- ・発表ノート

主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

- 作成中の発表ノートを見て、聞いている人に伝わるか、問題点がないかを考えさせることで、よりよい内容にしていこうにした。



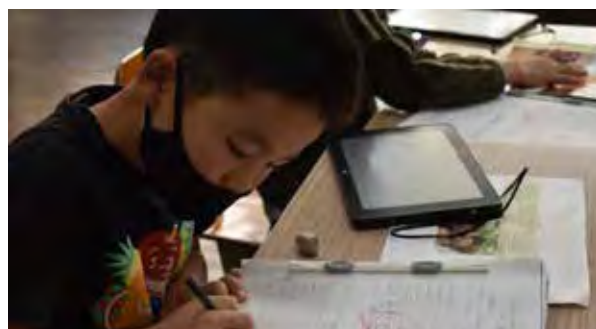
対話的な学習活動の工夫

- 同じ小テーマ同士でノートを比べ、話し合うことで、発表内容を共有し、分類することで、より分かりやすいノートにした。



まとめ・振り返りの工夫

- 作成のポイントに沿って、伝える内容が分かりやすくなっているかを確認するとともに、次時での発表に向けて意欲を高めた。



(6) グループワーク

【グループワーク】

新たな気づきを共有、考えを広め深める

校種	学年	教科	指導者
小	6	道徳	堀内 真実

主 題 名	困難を乗り越えて
本時のねらい	困難な状況でも希望をもつことを忘れずに努力し続けることのすばらしさを知り、目標に向かって努力しようとする心情を育てる。

「西米良ならでは」の主體的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問いをつかむ ⑤	1 アンケート結果を提示し、学習課題を確認する。 2 本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">困難な状況になった時、どのように向き合うことが大切なのだろう。</div>	◆ 事前に体験したことや、アンケートを振り返り、ねらいに関する児童の実態を共有することで、問題意識を高めさせる。 ◆ めあてを提示し、何について学ぶかを知らせる。
考えをもつ ⑬	3 教材「折り紙でたくさんの笑顔を」を通して、困難を乗り越えようと、目標に向かって努力する姿について考える。 ○ 何度も折る練習をしているとき、三郎はどのような気持ちだったでしょう。	◆ みんなで考えたい主人公の気持ちを捉えることに視点をおくことを確認する。 □ デジタル教材を活用し、朗読を聞くことで主人公の状況把握を行う。 ◆ 折り紙の先生に弟子入りを断られたり、それでも練習を続けることを想像させたりすることで、三郎の意志の強さについて考えさせる。
問いを解決する ⑫	◎ 折り紙を折って、喜んでいる他国の子ども達の声聞いて、三郎はどのようなことを思ったでしょう。	◆ 他国の子ども達に折り紙を教えることを迷った気持ち、弟子入りを断られた自分の過去を比べ、決心した経緯を押さえる。 ◆ 努力を困難を乗り越えたから、自分も子ども達も嬉しい気持ちになっていることを押さえる。 □ タブレットに意見を書き、交流し、比較させる。 □ 新しい気づきを、全体で共有し、考えを広げ、深めていく。
まとめる・振り返る ⑮	4 この学習を通して考えたことをまとめる。 ○ 困難な状況になった時、どのように向き合うことが大切なのだろう。 5 教師の話聞く。	□ 本時の学習内容を通して、どのように向き合うことが大切なのかを、タブレットに書かせる。 ◆ 目標に向かい、希望をもち努力し続ける在り方を考えさせ、今後の自分につなげることができるようにする。 □ グループワークを通して、自分と他者の意見を共有し、分類する中で、考えを広げ、深めていく。 ◆ 本時の価値をキーワードでまとめ、振り返りに生かすことができるようにする。

ICT の具体的な活用

《児童・生徒》

タブレットに記入した児童の考えを電子黒板に提示し、可視化させ、共有・比較・分類する中で、考えを広げ、深めていくことができた。



《授業者》

タブレットを通して、児童一人一人の考えを把握することで、本時のねらいに迫るための価値や、その根拠に重点をおいた学習過程を展開することができた。

電子黒板で児童の考えを可視化することで、様々な考え方があることに気付かせることができた。

ICT の活用方法の精選を行う必要がある。



○ 評価の視点と方法

《視点》

- ・ 主人公の生き方を通して、努力し続けることの素晴らしさを理解している。
- ・ 現在の自分を振り返り、今後の生き方について考えている。

《方法》

グループワーク観察 発表ノート

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

体験したことを通して行った事前アンケートを提示し、主体的に学習内容について考えられるようにし、ねらいとする道徳的価値への問題意識を高めることができた。



対話的な学習活動の工夫

自分と他者の意見を比較して得た、新しい気づきを、全体で共有することで、考えを広げ、深めていくことができた。



まとめ・振り返りの工夫

グループワークを通して、自分と他者の意見を共有し、分類する中で、本時の価値をキーワードでまとめ、振り返りに生かすことができた。更に振り返りの質を高めていく必要がある。



(6) グループワーク

【グループワーク】 共有したデータに書き込み合い、思考を深める	校 種	学 年	教 科	指 導 者
	中	2	道徳	清水眞名

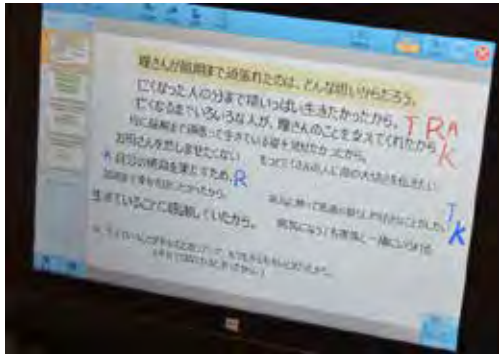
教材名	「命を見つめて - 猿渡瞳さんの六百四十六日 -」
主題名	懸命に生きる
ねらい	限りある生命を懸命に生きることの大切さを理解し、互いに支え合って生きようとする心情を養う。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT 活用の視点
問 い を つ か む (17)	1 今の自分が考える幸せとは何かを 考える。 2 猿渡瞳さんの病歴について知る。	◆ 日々の生活の中での「幸せ」について考え、 問題意識を高めさせる。 ◆ 瞳さんの写真や略歴を紹介し、瞳さんの思い に寄り添い、主体的に考えさせる。
考 え を も つ (10)	3 弁論大会の作文（動画）を見る。 ○ 瞳さんが、本当のしあわせとは、「今 生きていること」と考えるようになったのはなぜだろう。	◆ 病気と闘う中で、見つけた幸せについて気づ かせる。 □ 瞳さんの動画を見せることで、瞳さんの思い を視覚的に訴える。 □ 発表ノートに記入し、電子黒板にて発表させ る。
問 い を 解 決 す る (16)	4 資料を読み、瞳さんの命を支え続け た気持ちを考える。 ◎ 瞳さんが最期まで頑張れたのは、ど んな思いからだろう。	◆ 体中ががんに侵され苦しくてたまらないの に、感謝の言葉をいえた瞳さんの思いを多面 的・多角的に考えさせる。 □ 発表ノートに記入し、グループ内で意見を交 換し合う。その意見の中から、最も「共感」で きる意見、「発見」した意見を見つけ、その理 由も含め発表させる。
ま と め ・ 振 り 返 る (7)	5 自分の生き方について考える。 「瞳さんの生き方に学んだこと」を考 える。 6 道徳「成長の記録」用紙に感想と 自己評価を記入する。	◆ 懸命に生きた瞳さんの生き方を通して、自 分の生き方・生活を振り返り、深く考えさせる。 ◆ 自己評価をさせ、感想を書かせ、学級通信に載 せ、共有させる。

ICT の具体的な活用

《児童・生徒》

タブレットの発表ノートを使い、考えを可視化し、「共感」「発見」の付箋を貼ることで、相互の理解を深め、思考を広げたり深めたりすることができた。



《授業者》

電子黒板や発表ノートで、生徒の意見を短時間で把握できた。ねらいに迫ることができた。



○ 評価の視点と方法

《視点》

瞳さんの生き方を通して、限りある生命を懸命に生きる大切さについて深く考えられたか。

現在の自分を振り返り、互いに支え合い感謝して生きようとする心情を養うことができたか。

《方法》

- ・表現活動の様子（観察）
- ・発表ノート・感想文への記述

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

本人の写真・動画や作文を提示し、同じ中学2年生の考えや生き方について問題意識を高めることができた。



対話的な学習活動の工夫

発表ノートのグループ機能を使い、お互いの意見を交換し合い、「共感」「発見」の印を付け、その理由を考えることで、自分の考えを広げ、深めていけるようにした。

まとめ・振り返りの工夫

「命を大切にする生き方」について考えを深め、表現させた。また、自己評価カード（感想）を記入させ、授業後の学級通信にて感想を共有できた。

道徳「命を見つめて」…

瞳さんの生き方に学んだこと

* 僕は、「生きていることは当たり前」そう思っていました。しかし、難病を患っている人や闘病生活を送っている人たちにとっては、「生きていることが幸せ」と考えていることに驚きました。また、これらは、少しずつ生きていることにも感謝するようにしたいです。そして、もっと命を大切にしたいです。（悠斗）

* どんなに辛くても、自分以上に辛くて、自分のように生きていることができないという人が、この世界にはいる、ということをおぼれず、そして、何より、今生きていることが、幸せだということをしっかりと忘れずに生きていかなければならないということをおぼれず、それを忘れないようにするために、命を決して軽くみてもいけない。（福央）

* 全身にガンが転移して、さらに肺炎も併発してした中でも弱音を吐かないのは、すごいと思う。「生きていることが幸せ」というのを改めて感じた。どんな時でも諦めないということをおぼれずから学んだ。（康士郎）

* 自分が、もう死ぬと分かっている、今を幸せと思うということを学ぶことができた。また、いろいろな人々に支えられていて、自分は一人じゃないということをおぼれず、毎日頑張ることを。（翼）

* 瞳さんは、ガンがあるとと言われても、弱音を吐かず、リハビリを頑張って、ガンに勝とうとしている所に、命は何より大切だということをおぼれました。また、自分が病気になることを基に、命は軽いものだと思っている人たちに、自分の気持ちを伝えたいという強い気持ちがあり、その姿を、尊敬します。私も命を大切にしていきたいと思えます。（愛莉紗）

* 瞳さんは、病気になることも、前向きに考えていて強いと思った。私だったら、苦しかったり、辛かったりするの、耐えられないと思うので、瞳さんは、一年半にもおぼれ闘病生活に耐えて、弱音を吐かず、ポジティブに考えていてすごい。亡くなる前日でも、生きる希望を忘れず、最後まで闘った瞳さんを尊敬したいと思った。瞳さんが、弁論大会の時に言っていた「生きていることが幸せ」という言葉を、私も、心の中に入れて、瞳さんのように強く生きていきたい。（七海）

* 病気になることも、落ち込まずに、前向きだったところや命を最後まで信じたこと、また、「骨肉腫にありがとう」と穏やかな表情で語ったところ。弁論大会で病気の大きさを伝えたことをおぼれました。（麻住）

(7) 画像の合成

【画像合成】

全体で実験の結果を共有する

校種	学年	教科	指導者
小	6	理科	堤 誉子

単元名	植物のつくりとはたらき
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 根から取り入れられた水のゆくえや植物と空気の関係、養分をつくるはたらきについて理解することができる。(知識及び技能) ○ 実験結果から考察し、結果をまとめることで植物が重要なはたらきをしているという考えをもつことができる。(思考力・判断力・表現力等) ○ 植物のからだとはたらきに進んでかかわる中で命の尊さを感じ取り、学んだことを学習や生活に生かそうとする。(学びに向かう力・人間性等)
本時のねらい	◎ 気体検知管を正しく使って、植物と空気の間を調べることができる。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問いをつかむ ⑤	1 前時の学習を振り返る。 2 本時の学習課題を知る。 ・ 植物も動物と同じように呼吸しているのだろうか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 植物は、どんな気体のやりとりを行っているだろうか。 </div>	◆ 空気中の酸素や二酸化炭素は、人や動物の呼吸に関係し、物の燃焼のしくみにも関係したことから、植物の場合はどうなのか考えを進めさせる。 □ 前時の学習のデジタル教科書や児童のノートを電子黒板に提示することで本時のめあての把握を促す。
考えをもつ	3 予想を立てる。 ・ 植物も生物なので呼吸している。 ・ 逆に酸素を出していると思う。 ・ 気体検知管を使えばよい。	◆ 既習内容を想起させ、予想を立てさせる。どのような実験をすれば検証できるかも具体的に考えさせることで、主体的に授業に取り組めるようにする。
問いを解決する ⑫	4 実験をする。 ・ 植物の葉に袋をかぶせて、袋の中の気体の変化を調べてみましょう。 ① 息を入れた直後 ② 日光を当てた後 5 結果から考えたことを話し合う。 ・ 植物は日当たりのよい場所では二酸化炭素を取り込み、酸素を放出している。 ・ 呼吸とは正反対の空気の出入りである。	◆ グループに分かれて実験を行う。あらかじめ準備していた植物を使わせる。結果が出るまでは、気体検知管の扱い方の確認やグループで役割分担をし、実験のまとめ方を話し合わせておく。 ◆ 結果から気付いたことをグループごとに話し合わせる。十分に時間を保証することで、対話を通して自己の考えを深めることができるようにする。 □ 合成機能を使うことで、各グループでの結果を把握させる。全体での傾向を把握させてから、まとめにつながるようにする。
まとめる・振り返る ⑮	6 本時のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 植物は葉に日光が当たっているときには、二酸化炭素を取り入れて酸素を出している。 </div> 7 本時の学習を振り返る。 ・ 学んだこと、分かったこと、疑問に思ったこと、調べてみたいこと ・ 学んだことの習熟	◆ 本時の学びを児童の言葉でまとめることによって学習内容の定着を図る。 ◆ 過去、現在、未来の自分という視点を与えて本時の学習の振り返りをノートに書かせる。 □ 書いたことをカメラで撮影し、発表ノートに貼る。作品公開し、友達と共有することで、より深い学びを目指す。 □ E ライブラリードリルで本時の学習内容の習熟を図る。

ICT の具体的な活用

《児童・生徒》

合成機能を活用することで、他グループの結果と比較し、一般化し、まとめにつなげた。画面一覧機能によって多様な考えを知り、それぞれのよさを認め合うことができた。



《授業者》

合成機能を活用することで各グループの実験結果を瞬時に把握し、まとめにつなげることができた。



○ 評価の視点と方法

《視点》

実験前と後の結果から植物と空気の間係を理解することができ、新たな発見につなげることができる。

《方法》

※ 観察、発言、発表、タブレット（発表ノート）、ノート

主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

既習した内容から予想を立てさせることで、根拠に基づく予想ができるようにした。



対話的な学習活動の工夫

時間を十分にとり意見交換をしながら、結果から考察させることで、自己の考えを深めさせた。



まとめ・振り返りの工夫

○ 構造的な板書計画により、学びの振り返りがしやすいようにした。学びの成果を実感させ、学んだことを意欲・問題意識等を次につなげられるよう視点を設けた。キーワードや学習用語を用いる等の条件を設定して学びを振り返らせるなどの工夫をした。



(8) みんなの作品 (相互評価)

【みんなの作品】

多様な考えやよさに気付く

校種	学年	教科	指導者
小	4	道徳	長崎 久美子

主題名	大切な友達
ねらい	心が通じ合う赤おにと青おにの姿を通して、互いに信頼し、友達と理解し合おうとする心情を育てる。

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
導入 ⑤	1 友達がいて良かったという経験や友達とは何かについて話し合う。 2 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 友達について考えよう。 </div>	◆ 自分自身の経験をもとに、友達について想起させ、価値への方向づけをする。
考えをもつ ⑬	3 教材「泣いた赤おに」を読んで話し合う。 (1) 青おにの作戦を聞いた赤おにの気持ちを考える。 (2) 手紙を読んで、涙を流している赤おにの気持ちを考え、ワークシートに書く。	<input type="checkbox"/> デジタル教科書で場面絵を提示し、朗読音声を使用する。 ◆ 赤おにの気持ちを想像しながら聞くことをおさえる。 ◆ 赤おにの揺れ動く気持ちに気付かせ、青おにの赤おにに対する気持ちも考えさせる。 <input type="checkbox"/> 場面絵を提示し、登場人物の気持ちを考えさせる。 ◆ 友達を失った赤おにの悲しみや後悔に気付かせる。 ◆ お互いに相手を思いやる気持ちがあれば、友情を育んでいけることへの希望をもたせる。
問いを解決する ⑮	4 この後の赤おにの行動を想像し、友達とは何か、よりよい友達関係をつくるためにはどんなことが大切かを考える。	◆ 理由を話させることで、行動の背景にある心情にも視点を向けさせる。
終末 ⑩	7 本時の学習を振り返る。	<input type="checkbox"/> 「みんなの作品」機能を活用し、お互いの感想を見せ合う。付箋紙で評価し合うことで、多様な考え方やそれぞれのよさを認め合うことにつながる。

ICT の具体的な活用

《児童・生徒》

モニターに写された場面絵を見ることで、赤おにの気持ちを考えやすくした。

「みんなの作品」を活用し、友達の感想を自由に見ることで、多様な考えに気付くことができた。そして、互いの考えの良さを認め合うことができた。



《授業者》

デジタル教科書を使用することで、掲示資料の準備負担を軽減した。

音声朗読機能を活用し、話を聞いている時の児童の様子を把握することができた。

タブレットを活用することで、全員の考えを一目で把握し、振り返りの充実を図った。



○ 評価の視点と方法

《視点》

赤おにの気持ちの変容や、青おにの気持ちや行動について考えることで、友達に対する思いやりについて考えを広げることができたか。

《方法》

発言、発表、ワークシート、感想（振り返り）

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

具体的な場面を思い出させることで、価値への方向づけにつなげた。



対話的な学習活動の工夫

お互いの感想を見せ合い、付箋紙で評価し合うことで多様な考え方やそれぞれのよさに気づき、認め合うことにつなげた。



まとめ・振り返りの工夫

ワークシートに本時の感想を書かせ、「カメラ」機能と「みんなの作品」機能を使うことで、お互いの考えを知り、「友達」観について多面的・多角的に捉えられるようにした。



(8) みんなの作品 (相互評価)

【みんなの作品】

新たな気づきを共有、考えを広め深める

校種	学年	教科	指導者
小	6	道徳	堀内 真実

主題名	誠実に生きる
本時のねらい	自分自身に対する誠実さを考えることを通して、よりよい生き方につなげようとする心情を育てる。

「西米良ならでは」の主體的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問いをつかむ5分	1 アンケート結果を提示し、学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">誠実な生き方とはどんな生き方なのだろう。</div>	◆ 事前にアンケート結果や、体験したことを振り返り、ねらいに関する児童の実態を共有し、問題意識を高めさせる。 ◆ めあてを提示し、何について学ぶかを知らせる。
考えをもつ10分	2 教材を通して、誠実な行動について考える。 ○ ライオンの話を聞いて、ヤクーバはどんなことを考えたのだろう。	□ デジタル教材を活用し、朗読を聞くことで主人公の状況把握を行う。 ◆ 名誉ある戦士になりたいヤクーバ(青)と、たおさず気高い人間(赤)のどちらかを選択させることで、葛藤する気持ちに焦点を当てた授業展開を図る。 □ 主人公の心の葛藤について意志表示をさせることで、多様な考え方を引き出すようにする。 ◆ 主人公を取り巻く状況を確認することで、決意の重みへの理解につなげる。
問いを解決する15分	3 ヤクーバの誠実な生き方について考える。 ◎ 牛の世話をしながら、自分の選んだ道についてどのように考えていたのだろう。	◆ 主人公が選択する決め手となった思いは何か、誰に対してのものかを考えさせる。さらに、自分の考えで行動した結果に後悔していない姿から、自らの生き方に対する誠実さに迫らせていく。 □ タブレット機能「みんなの作品」で意見を交流することで、自分と友達の考えを比較させる。 □ 全体で共有し、新しい気づきを得ることができるようにする。
まとめる・振り返る15分	4 学習を通して考えたことをまとめる。 ○ 誠実な生き方とはどんな生き方なのだろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">自分や相手の思いを考え、後悔のないよう、自分で決断し行動すること。</div> 5 自分自身を振り返る。 6 教師の話聞く。	◆ 本時の価値をキーワードでまとめ、振り返りに生かすことができるようにする。 □ 本時の学習内容を通して、どんな向き合い方が大切なのかを、タブレット機能「発表ノート」に書かせる。 □ タブレット機能「グループワーク」を通して、自分と他者の意見を共有し、分類する中で考えを広げ、深めていく。 ◆ 振り返りの視点を与えることで、今後の自分につなげることができるようにする。 ◆ 自分の振り返りを、全体で交流させることで、誠実に生きることのよさについて考えることができるようにする。 ◆ 教師の説話にて、余韻をもたせて終わるようにする。

ICT の具体的な活用

《児童・生徒》

タブレットに記入した児童の考えを電子黒板に提示し、可視化させ、共有・比較・分類する中で考えを広げ、深めていくことができた。



《授業者》

タブレットを通して、児童一人一人の考えを把握することで、本時のねらいに迫るための価値やその根拠に重点をおいた学習過程を展開することができた。

電子黒板で児童の考えを可視化することで、様々な価値観があることに気付かせることができるようにする。



○ 評価の視点と方法

《視点》

- ・ 主人公の生き方を通して、よりよい生き方について考えることができる。
- ・ 現在の自分を振り返り、今後の生き方について考えることができる。

《方法》

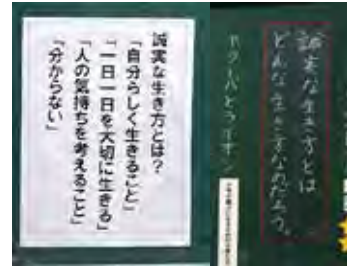
振り返りの記述

グループワーク・発表観察

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

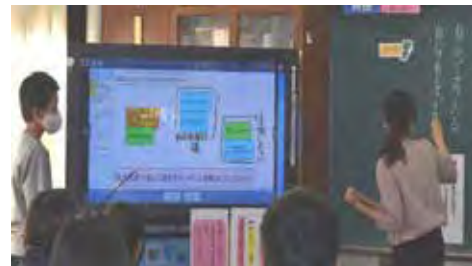
学習課題（問い）の工夫

事前アンケートを提示し、ねらいとする道徳的価値への問題意識を高めることができた。



対話的な学習活動の工夫

一人一人が自分の考えを発表し、多様な考え方に触れる中で得た新しい気づきを全体で共有することで、考えを広げ、深めていくことができた。



まとめ・振り返りの工夫

グループワークを通して、自分と他者の意見を共有し分類する中で、本時の価値をキーワードでまとめ、振り返りに生かすことができた。



(9) プログラミング

【プログラミング】

前時を振り返り、学習の見直しをもつ

校種	学年	教科	指導者
小	5	総合	長崎 雄史

単元名	見つめよう！西米良の自然 ～西米良の自然を守ろう～
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の自然について調べることを通して、地域の自然の素晴らしさ、自然と関わって生きていくことの重要性を知る。(知識及び技能) ○ 西米良の自然について、課題を設定し、集めた情報を多面的な見方で整理・分析し、相手や目的・意図に応じ、工夫してまとめ、表現することができる。(思考力、判断力、表現力等) ○ 環境保全のために自分ができることを考え、進んで取り組もうとする。(学びに向かう力、人間性等)
本時のねらい	プログラミングを使って論理的に考えていくことで、コンピュータを活用しながら西米良の自然環境の課題を解決する方法を探る。(思考力、判断力、表現力等)

「西米良ならではの」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT活用の視点
問いをつかむ3分	1 前時の学習を振り返る。 2 本時の学習課題を知る。 西米良村がかかえる問題点についてプログラミングをどう活用できるだろう。	◆ 西米良の抱える問題点と、プログラミングについて振り返り、学習の見直しをもたせる。 □ 要点を電子黒板に提示し、短時間で効果的に振り返ることができるようにする。
考えをもつ20分	3 どの問題を、どのように解決するかを考える。 4 グループで発表する。 〈話し合いの視点〉 ○ よい点 ○ 改善が必要な点	◆ ワークシートに大まかにどのような装置を作りたいか書かせることで、プログラミングについて見通しがもてるようにする。 ◆ 話し合いの中で気付いたことを付け加え、次のプログラミングに生かせるようにする。
問いを解決する15分	5 考えたプログラミングを作成する。 ○ 個人で 6 作成したプログラミングについて話し合う。 ○ グループで 7 思い通りに動くか試してみる。 8 作成したプログラミングを発表する。 ○ よい点 ○ 改善が必要な点	□ 「MESH」アプリを使って、個人でプログラミングする。 ◆ 実際に活用できそうなものや面白い発想のものはどれかという視点で、この後に作成するプログラミングを選ぶ。 □ グループでタブレットと「MESH」ブロックを使って思った通りに動かすことができるか確認させる。思い通りに動かない場合はプログラミングをやり直すようにする。 ◆ 話し合いの中でよい点やよりよくするためにどうすればよいかを気付かせることで、話し合いのよさが感じられるようにする。
まとめる・振り返る7分	9 本時のまとめをする。 プログラミングを害獣・土砂災害対策に生かすことができそうだ。 10 振り返りをする。	◆ 本時の活動をもとに、これから先の学習について期待をもつことができるようなまとめとする。 □ グーグルクラスルームを活用して、振り返りを共有する。 ◆ 話し合ったことを、自分の考えにどのように生かすことができたかを振り返らせる。

ICT の具体的な活用

《児童・生徒》

- ・ どの MESH ブロックを使うか、どのような反応にさせるかなど、児童が自由にプログラミングできた。



主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

- 自分たちの身近な問題を学習課題とすることで、意欲的に活動に取り組めた。



《授業者》

- 要点を電子黒板に提示し、短時間で効果的に振り返ることができた。
- 考えたプログラミングを電子黒板に提示し、各班がどのように考えたかを確かめた。



対話的な学習活動の工夫

- グループでの対話ではそれぞれの課題に気付かせ、その後のプログラミングの活動に生かした。全体での対話では、よかった点を中心に話し合わせ、本単元の先の学習に生かすことができるようにさせた。



まとめ・振り返りの工夫

- 話し合ったことを、どのように自分の考えに生かすことができたかを振り返らせた。



○ 評価の視点と方法

《視点》

コンピュータを活用しながら、西米良の自然環境の問題解決に生かすための考えをもつことができたか。(学びに向かう力、人間性等)

《方法》

- ・ 子どもの発言
- ・ ワークシート
- ・ プログラミング

(10) 遠隔授業

【遠隔授業】 Whereby を用いたオーストラリアの学校との英会話	校種	学年	教科	指導者
	中	1	英語	安井 尚子

単元名	My Project 2 人を紹介しよう
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習の文法事項や表現を使って、自分以外の人について説明することができる。 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度) ○ 人称代名詞や3人称単数、疑問詞、助動詞 can などを用いて、自分以外の人について英語で紹介する文を書いたり、話したりすることができる。 (外国語表現の能力) ○ 英文を読んだり聞いたりして、内容を理解することができる。 (外国語理解の能力) ○ 既習の表現から、紹介文に必要な語いや文法を使い、正しく運用することができる。 (言語や文化についての知識・理解)
本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ◎ オーストラリアの生徒と互いのことを尋ね合い、理解しようとするすることができる。 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度) ◎ 自分や他の人のことを英語で表現することができる。 (外国語表現の能力)

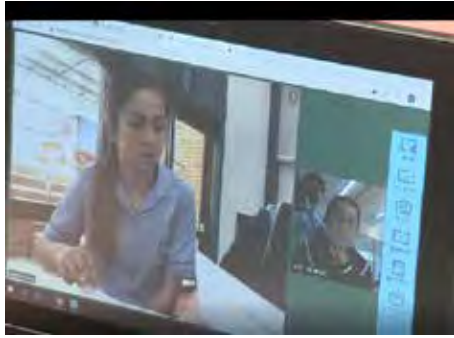
「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆ 授業づくりの視点 □ ICT 活用の視点
問 い を つ か む (12)	1 英語であいさつし、体調、天気などについて会話をする。 2 今日のためあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 自分のことや他の人のことを英語で説明しよう。また、その話題について尋ねたり答えたりしよう。 </div> 3 人物カードを読み、他の人を紹介する言い方に変える。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 生徒からあいさつ等を発信させることで、主体的に授業に参加する雰囲気を作る。 □ 1人称が主語で書かれている人物カードを示し、読み上げさせる。 □ タイマー機能を活用し、時間の目安を示す。 ◆ ペアで互いにあるか確認させ、学び合いの場を作る。
考 え を も つ (15)	4 遠隔先のオーストラリアとつながる。(一斉)ガイドセンテンスを確認する。 5 グループごとにオンラインであいさつ、体調、天気などの簡単な会話をを行う。 Good morning, (名前) How are you? How's the weather there today?	<ul style="list-style-type: none"> □ 教師用タブレットを電子黒板につないで、遠隔先の教師やクラス全体とあいさつを交わす。 □ グループに一台のタブレットを用い、Wherebyを使用して対話を行わせる。 ◆ 今日、対話をする相手と面し、互いを知らうとする意欲をもたせる。
問 い を 解 決 す る (8)	6 グループメンバーのうち、一人目の質疑応答を行う。 7 オーストラリアの生徒の紹介文(日本語等)を聞き、質疑応答を行う。 8 双方の二人目のメンバーが、紹介文を発表し、質疑応答を行う。※計4名が発表	<ul style="list-style-type: none"> □ 紹介した人物について、写真など実物を映して見せたり、共有画面で資料を送ったりしながら、説明したり、質疑応答を行わせる。 ◆ ペア・グループで助け合いながら、対話を続けさせる。
ま と め る ・ 振 り 返 る (15)	9 話すときのポイントを口頭でまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 他の人がすることが話題の場合…3単現のS 他の人ができることが話題の場合…助動詞 can+動詞の原形 </div> 10 ワークシートに本時で得た情報をまとめる。例) Emily likes music. She can play the guitar. She has a dog. Its name is Beth. 11 本時の振り返りを書く。	<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px;"> <p>(例) Flynn does kendo. His brother does kendo too. Does your brother do kendo? Does your mother cook well? Can Beth run fast?</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ワークシートに、今日の達成度や感想、次時への意欲等を書かせる(振り返りの視点)

ICT の具体的な活用

《児童・生徒》

教師が示す拡大された資料で、内容に集中しやすくなった。

複数のタブレットを用いて、オンライン対話を行うことで、できるだけ少人数で、一人一人の対話の時間がとれた。



主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

前時までの、遠隔による国際交流を振り返り、本時に向けて意欲を高めさせることができた。

人物カードで例文を共有することで、表現する内容を振り返り、発話の助けとなるようにさせた。

対話的な学習活動の工夫

ペア・グループで助け合いながら、オーストラリアの生徒たちと会話を続けさせることにより、話せないことが話せるようになる経験を積みさせることができた。



《授業者》

教室用パソコン、教師用タブレットをうまく切り替えることで、タイマー機能やプレゼンテーション、遠隔での対話など様々な機能を一単位時間内で使うことができた。

○ 評価の視点と方法

《視点》

- ◎ オーストラリアの生徒と互いのことを尋ね合い、理解しようとすることができたか。
- ◎ 自分や他の人のことを英語で表現することができたか。

《方法》

- ・観察、振り返りシート（意欲）
- ・発表、ワークシート（表現）

まとめ・振り返りの工夫

まとめとして、3単現や助動詞 do/can の使い方を押さえさせた。また、ワークシートに知りえた情報を英文でまとめさせることにより、既習事項の定着を図った。振り返りシートは全5時間を通して表形式として、自分の変容や活動の様子が視覚的に見えやすくなるよう工夫した。



(10) 遠隔授業

【遠隔授業】 zoom を利用した外部講師との授業	校 種	学 年	教 科	指 導 者
	中	3	社 会	小川 倫史

単元名	政府の役割と国民の福祉
本時のねらい	◎ 財政と税制のあらましについて理解し、その知識を身に付けることができる。(知識・理解)

「西米良ならでは」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆授業づくりの視点 □ICT 活用の視点
問 い を つ か む (10)	1 税についてのアンケート結果を知る。 2 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">税金は私たちの生活を、どのような場面で支えてくれているのだろう。</div> 3 講師紹介を聞く。	<input type="checkbox"/> 事前アンケート結果を電子黒板に映す。 ◆ 都城法人が全国の租税教育の実践事例で日本一になったこと等教師が説明する。 <input type="checkbox"/> 遠隔アプリ「zoom」を利用して、本時の学習課題の解決に迫る。
考 え を も つ (5)	4 学習課題から答えを予想する。 5 職業が書かれた紙 5 枚から 1 枚を引き、職業を決める。 6 人生ゲームのやり方の説明を聞く。	<input type="checkbox"/> どのぐらいのお金が 1 人当たり必要か予想させる。 ◆ その職業の生涯賃金をワークシートに記入させる。 ◆ 人生ゲームを班 (5 人全員) で行い、生徒はタブレット 1 台を活用し、遠隔相手と連絡を取りながら人生ゲームを進めさせる。
問 い を 解 決 す る (20)	7 人生ゲームを進めていく中で、スタディタイムで生活に関する事柄について、学習する。 ①教育費と子育て費用 ②宮崎県の歳出から教育費を眺める ③会社経営について 8 転職するかどうか決める。 9 イベントタイムを行う。 ④保険について ⑤退職金や臨時ボーナス	<input type="checkbox"/> スタディタイムで、遠隔相手から説明を行う。 ◆ 自分たちが通っている学校の教育費に税がたくさん使われており、さらに西米良では中学生まで医療費が無料であることを知らせる。 ◆ 転職をするかしないかは生徒に決めさせ、転職する場合はサイコロで出た目によって職業が決まる。 <input type="checkbox"/> 事前に保険に入るか入らないかを決めさせておき、イベントタイムで災害などがおき、もしものための備えとして保険があることを遠隔相手の説明から理解させる。
ま と め る ・ 振 り 返 る (15)	9 本時のまとめをする。 収支確認と結果の要因をまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">教育費や病院の治療費、災害時の道路復旧など、税によって生活が支えられて</div> 10 本時の振り返りを行う。 振り返りチェックシートを記入する。	◆ 収支計算については、手計算で行わせる。また、生徒に人生ゲームを行っての感想を発表させる。 ◆ 持続可能な社会を形成することで、税が無駄に使われない取り組みを 1 人 1 人が意識して生活していくことが大切であることを理解させる。 <input type="checkbox"/> 電子黒板で人口構成グラフを見せ、少子高齢社会の世の中だからこそ、自分がきちんと税を納め、社会に貢献していくことが大切なことを理解させる。 ◆ 振り返りシートに授業態度を数値評価させ、本時で学んだこと、理解したことや疑問に思ったことを自由記述で書かせる。

ICT の具体的な活用

《児童・生徒》

「zoom」を使用して、都城法人会(租税教育実践事例日本一)の方とつながることで、遠く離れた地でも優れた租税教育を受けることができた。また、様々な意見を聞くことができ、思考が深められた。



《授業者》

遠隔で行う際、1台しかない場合、相手に見せて確認してもらう時に、時間がかかる。

そこで、生徒1人にタブレットを1台準備することで、収支計算の時にすぐに確認したり、生徒がわからないことを質問したり、表情を確認しながら進めることができた。そのため、つまづきに気づきやすく、個に応じた指導を展開することができた。



○ 評価の視点と方法

《視点》

◎ 財政と税制のあらましについて理解し、その知識を身につけることができたか。

《方法》

- ・ 観察 (知識・理解)
- ・ 振り返りチェックカード (知識・理解)

主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題 (問い) の工夫

生徒に行った事前アンケート結果より、税の種類や使い道などについて理解が不十分なことを再認識させた。その上で、税が身近な生活にとっても重要なものであることを理解させるための課題を設定し、ゲームをしながら楽しく学べるようにした。



対話的な学習活動の工夫

協働学習により、自分の考えと、他者の考えを関連付けたり、自分の考えが最適解かどうかを確認したり、新たな課題を探究することができるようにした。



まとめ・振り返りの工夫

人生ゲームの収支と結果を発表することで、人生には様々な要因があることや、この時に自分の結果が良くても他の人の結果が悪いことがあることに気付かせ、人生には様々な要因で順調に生活を送れないこともあり、そのために社会保障などの制度があり、税金が使われていることを理解させることができた。また、振り返りチェックカードで、本時の理解した内容や、理解できなかった項目を自由記述させた。この活動を通して、生徒の理解度を教師側が把握しやすく、生徒自身も理解できた内容と、できなかった内容を整理することができた。さらに、授業中の姿勢や発表などの自己評価を数値化する箇所も設けているため、客観的に自己を見つめ直し、次時の学習意欲につながられるようにした。

(11) 指導者用デジタル教科書

【指導者用デジタル教科書】 英単語や英文の多様な練習方法	校種	学年	教科	指導者
	中	2	英語	JTE: 安井 尚子 ALT: サイエット健二

単元名	Program 3 What can we do for others?
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近な話題について自分の意見を述べたり、相手の意見を理解したりすることができる。 ○ 義務や禁止を表す表現を運用して、身近な話題について自分の考えを表現することができる。 ○ 教科書の本文や慈善活動に関する情報を聞いたり読んだりして、内容を理解することができる。 ○ 助動詞 must, should, have to/don't have to などや、主語+動詞+that で始まる節の用法を理解し、正しく運用することができる。
本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 本文の内容を理解することができる。(外国語理解の能力) ◎ 助動詞 must を用いて義務や命令について表現することができる。(外国語表現の能力)

「西米良ならではの」の主体的・対話的で深い学びを目指した学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	◆ 授業づくりの視点 □ ICT 活用の視点
問 い を つ か む (12)	1 英語であいさつし、体調、天気などについて会話をする。 2 ALT からの質問に答え、生徒同士でも会話をする。 3 対話を聞いて、今日のトピックについて考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">本文からチャリティーウォークに参加するために必要な情報を集めよう</div>	◆ 生徒からあいさつ等を発信させることで、主体的に授業に参加する雰囲気を作る。 ◆ 本時に扱う助動詞を使って対話させ、本時の内容への理解を深めさせる。 □ チャリティーウォークの動画を見せることで、どのようなものかを考えさせる。
考 え を も つ (15)	4 新出単語を練習する。 5 教科書本文から、助動詞 must を用いた文を抜き出して、文の意味を考える。 6 ワークシートの T/F 問題を読んで、本文の内容と合っているか考える。	□ デジタル教科書を使い、単語を繰り返し練習させる。日本語から英語に訳す場面では、競い合わせ、進んで単語の練習に取り組もうとする意欲を持たせる。 ◆ クラスメートと答えを確認し合う中で、教え合わせ、学び合わせながら、単語や文型への理解をさらに深めさせる。
問 い を 解 決 す る (8)	7 本文を音読練習する。 8 チャリティーウォークに必要な情報をワークシートにまとめる。	□ デジタル教科書のチャック再生を用いて、テンポよく練習させる。
ま と め る ・ 振 り 返 る (15)	9 まとめを聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;">The Walk begins at 7:00am at the Soccer Park. People <u>must begin</u> their walk <u>by 7:30</u>. People <u>must pay \$15</u> for the Walk.</div> 10 本時の振り返りを書く。	◆ 振り返りシートに書かせる際には、視点を与える。

ICT の具体的な活用

《児童・生徒》

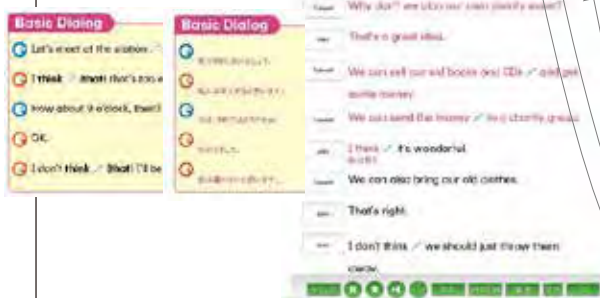
チャリティーウォークの動画を見ることにより、本文の内容をより理解することができた。単語や本文の音読練習では、デジタル教科書に依り、テンポよく練習することができた。



《授業者》

あまり馴染みのないチャリティーウォークについて動画を見せることにより、視覚的に理解させることができた。

デジタル教科書の音声再生機能（本文ごと、チャンクごと等）を使い分けることにより、より効果的に指導することができた。



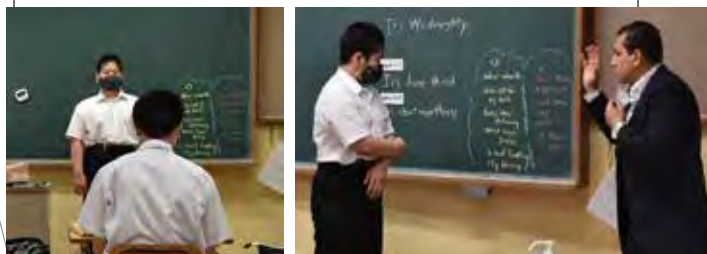
主体的・対話的で深い学びを実現する 授業づくりの視点

学習課題（問い）の工夫

デジタル教科書の対話を聞かせることにより、本時の内容について興味を持たせ、動画を見せることにより、チャリティーウォークに興味を持たせることができた。

対話的な学習活動の工夫

授業開始の挨拶は教師主導でなく、生徒同士の対話を経験させ、より自然なコミュニケーションの仕方を学ばせることにつながっている。今後も継続していきたい。



本文に関する T/F 問題について、クラスメートと学び合いながら、正しい答えに到達させることで、理解を深めさせ、達成感を持たせることができた。



○ 評価の視点と方法

《視点》

- ・本文の内容を理解することができたか。
- ・助動詞 must を用いて義務や命令について表現することができたか。

《方法》

- ・発表、ワークシート（理解）
- ・ワークシート（表現）
- ・振り返りシート（理解）

まとめ・振り返りの工夫

チャリティーウォークに必要な情報を正しくとらえて書けたかを確認するためにワークシートを用いた。ポイントを押さえて書かせることで、助動詞 must の意味や使い方を意識して本文の理解をさせることができた。

振り返りシートを活用して毎時間、自己評価をさせ、次時の指導につなげている。単元の終わりには、文法のまとめを自分で書かせることで、文法への更なる理解と定着を目指していきたい。

4 研究同人

(1) 令和元年度

村所小学校				西米良中学校			
校 長		尾崎	正朗	校 長		内之八重	正裕
教 頭		満留	往宏	教 頭		川越	章三
教 諭		山崎	美佳	教 諭		清水	眞名
教 諭		堤	誉子	教 諭		安井	尚子
教 諭		堀内	順一	教 諭		仁田脇	一宇
教 諭		末永	友美	教 諭		安井	公彦
教 諭		小西	直也	教 諭		米良	公利
教 諭		小西	由美	教 諭		佐伯	百合
教 諭		堀内	真実	養護教諭		吉田	香菜
教 諭		黒木	雄治	事務主査		衛藤	正俊
養護教諭		関谷	菜摘	講 師		青木	利都
栄養教諭		黒木	明香	非常勤講師		奥野	優子
主 事		今村	有伽	A L T		ケンジ・サイエツト	
S S S		土屋	絵理	事務補佐		松尾	由美
村雇用職員		長友	絵美				

(2) 令和2年度

村所小学校				西米良中学校			
校 長		尾崎	正朗	校 長		柳田	益宏
教 頭		黒木	賢二	教 頭		川越	章三
教 諭		山崎	美佳	教 諭		清水	眞名
教 諭		甲斐	香代子	教 諭		安井	尚子
教 諭		堤	誉子	教 諭		安井	公彦
教 諭		堀内	順一	教 諭		佐伯	百合
教 諭		末永	友美	教 諭		小川	倫史
教 諭		長崎	雄史	教 諭		大塚	祐輔
教 諭		堀内	真実	養護教諭		吉田	香菜
教 諭		長崎	久美子	事務主査		衛藤	正俊
養護教諭		濱田	麻菜美	講 師		北林	雅也
主 事		今村	有伽	非常勤講師		奥野	優子
栄養教諭		英	景子	A L T		ケンジ・サイエツト	
S S S		土屋	絵理	事務補佐		松尾	由美
村雇用職員		後藤田	人美				

(3) 事務局代表

西米良村教育総務課 前課長 濱砂 亨
現課長 山田 高大

5 INDEX

小学校		
学年	教科等	ページ
1年	算数	P 10.11 P 20.21 P 55.56 P 57.58 P 59.60
2年	算数	P 26.27 P 75.76
3年	国語 社会 算数 理科 総合	P 6.7 P 36.37 P 83.84 P 28.29 P 38.39 P 85.86
4年	国語 体育 道徳 学級活動	P 12.13 P 67.68 P 93.94 P 22.23 P 61.62
5年	国語 社会 総合 学級活動	P 40.41 P 81.82 P 97.98 P 8.9
6年	理科 家庭 道徳	P 44.45 P 91.92 P 24.25 P 87.88 P 95.96

中学校		
学年	教科等	ページ
1年	理科 英語 音楽 保健体育 総合	P 16.17 P 30.31 P 99.100 P 42.43 P 18.19 P 65.66 P 46.47
2年	社会 数学 理科 英語 保健体育 保健 総合 道徳	P 79.80 P 32.33 P 34.35 P 71.72 P 69.70 P 103.104 P 18.19 P 65.66 P 77.78 P 46.47 P 89.90
3年	国語 社会 理科 音楽 保健体育 総合	P 48.49 P 14.15 P 101.102 P 50.51 P 73.74 P 63.64 P 18.19 P 65.66 P 46.47

令和元年度・2年度「教育の情報化」実践報告集

令和3年3月31日発行

編集・発行/西米良村教育研究会

事務局/西米良村教育委員会

〒881-1411 宮崎県児湯郡西米良村大字村所 15 番地

☎0983-36-1111

印刷・製本/有限会社 町田印刷

〒868-0008 熊本県人吉市中青井町 292-4

